I-O DATA

ディスクサーバ

ET-NAS20G

取扱説明書

78703-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社 PLANT コールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各１部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に１台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をより快適にご活用いただくために、本マニュアルをよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書の見方

本製品を使用するには、まず、管理者が本製品の設定を行った後、ユーザが本製品を使用できるようになります。
以下のフローに沿って、必要な箇所をお読みください。

本製品を使用する上で、必要な確認事項を説明します。
必ずお読みください。‥【1　ご使用になる前に】(1ﾍﾟｰｼﾞ)

↓

管理者の設定

‥‥‥‥【2　設定する】(7ﾍﾟｰｼﾞ)

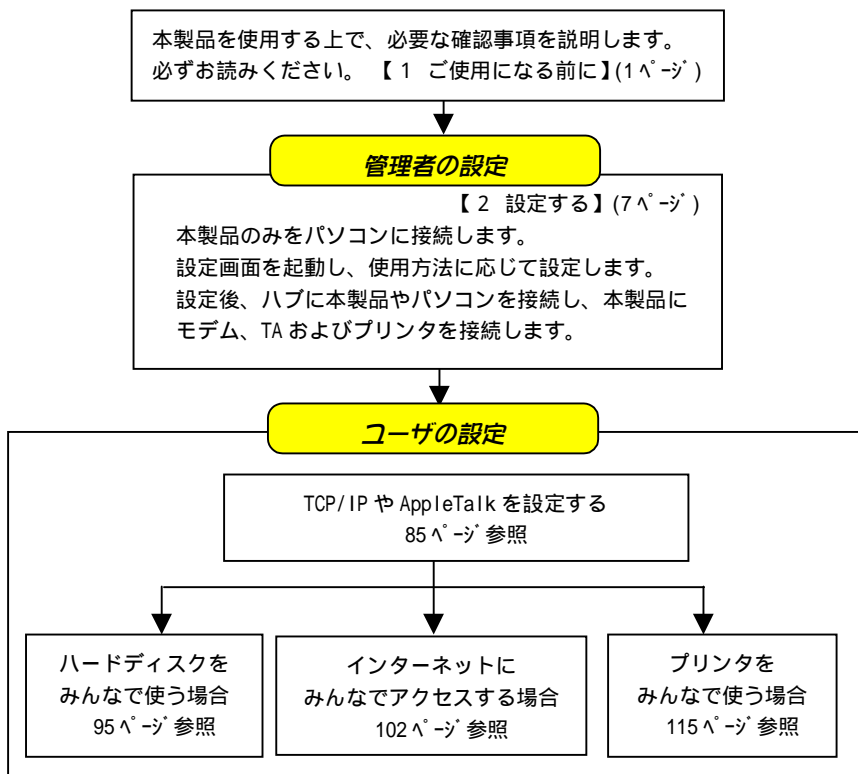
①本製品のみをパソコンに接続します。
②設定画面を起動し、使用方法に応じて設定します。
③設定後、ハブに本製品やパソコンを接続し、本製品にモデム、TA およびプリンタを接続します。

↓

ユーザの設定

TCP/IP や AppleTalk を設定する
→85ﾍﾟｰｼﾞ参照

↓

ハードディスクをみんなで使う場合	インターネットにみんなでアクセスする場合	プリンタをみんなで使う場合
→95ﾍﾟｰｼﾞ参照	→102ﾍﾟｰｼﾞ参照	→115ﾍﾟｰｼﾞ参照

本書での呼び方

呼び方	意　味
ȳ ῆ	ȳ ãï6 Ᵽ ˘˘ ꜫ ꝑ ğ Ẕ
Ɉ ù û	ȳ ῆ … Ŏ Ᵽ
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System ā Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Edition
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0
Windows Me/98/95	Windows Me, Windows 98, Windows 95の総称
Windows 2000/NT 4.0	Windows 2000, Windows NT 4.0の総称
Windows	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0の総称
Mac OS	Mac OS 8以降の総称

もくじ

1 ご使用になる前に

2 設定する（管理者の設定）

3 使ってみよう（ユーザの設定）

機器別の設定

付録1　困ったときには

付録2　Web設定画面による詳細設定

付録3　TCP/IP の基礎知識

付録4　仕　様

本製品を使用すれば

本製品は、以下のようにお使いいただくことができます。

①**ハードディスクの共有**

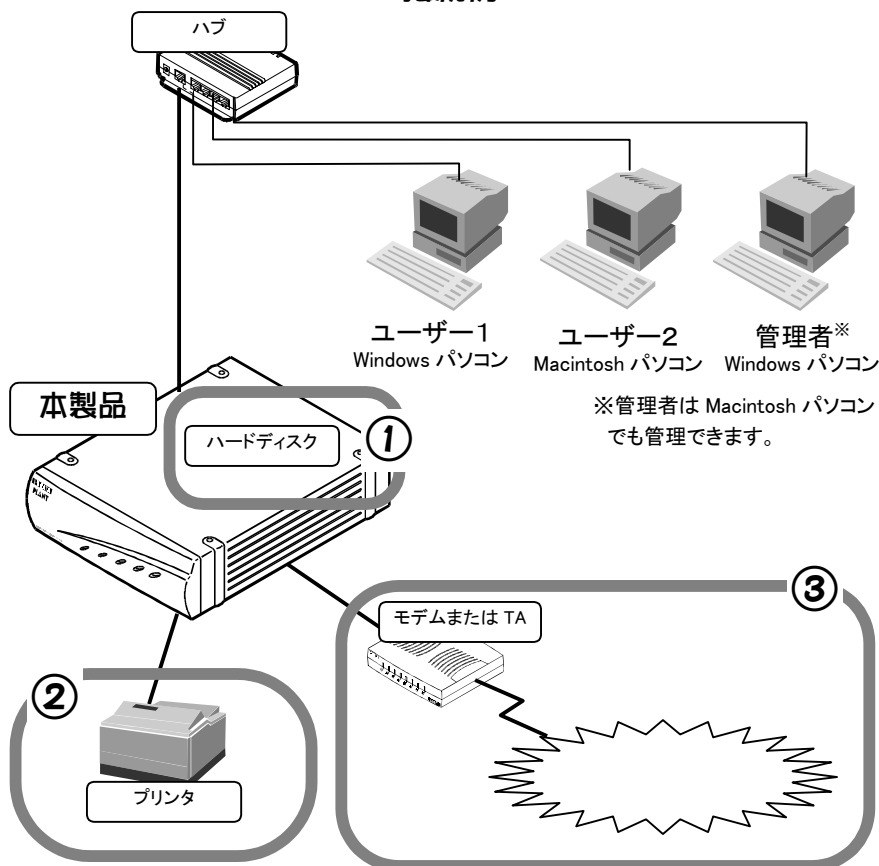
本製品のハードディスクをみんなで使用できます。

②**プリンタの共有**

本製品に接続したプリンタをみんなで使用できます。

③**インターネット接続の共有**

本製品に接続したモデムまたは TA を使用して、インターネットにみんなでアクセスできます。

接続例

本製品のご紹介

簡単ファイル共有

Windows と Macintosh 間で簡単にファイル共有ができます。

インターネット接続共有機能搭載

既存のモデムや TA を利用し、インターネットへの接続を共有することができます。

プリンタ共有機能搭載

１台のプリンタを共有できます。

※プリンタ共有を Macintosh で利用するためには、LaserWriter 互換プリンタが必要です。

※Microsoft Windows Printing System（WPS）専用プリンタは、その仕様上本製品での利用はできません。

※プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムには対応していない場合があります。

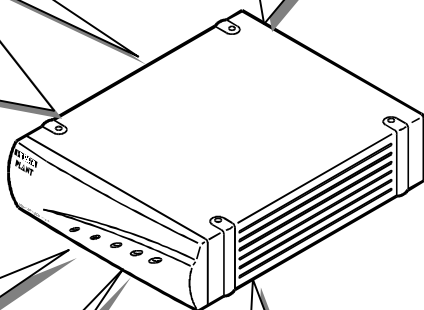
簡単Webブラウザ設定

Web ブラウザより設定を行うことができるため、特別なプログラムをインストールすることなく設定できます。

ユーザー毎にディスク共有容量制限機能

各ユーザー毎にディスク使用容量の制限を設定することができます。

高度な管理機能搭載

・DHCP クライアント／DHCP サーバ機能
・ディスク容量警告機能
・システムログ表示機能
・ハードディスク回転自動停止機能
・自動電源切断機能
・システムプログラムアップデート機能

この章では、本製品 ǂ Ặ ẩ Ứ ə
ǈ

P2　箱を開けたら

Ǒ ǰ Ӂ

P3　ユーザー登録

Ɉ ù û ù ư Ǹ ǈ Ɛ

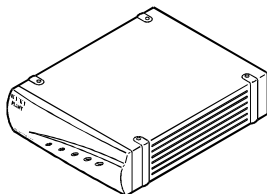
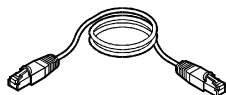
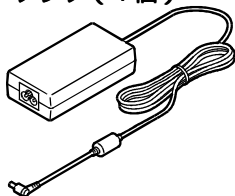
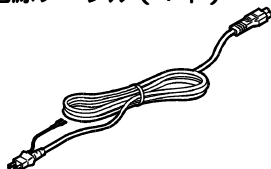
P4　対応している機種とOS

u ˝ ṗ ǳ u OS ˘ ˉ ₅ ǂ Ȳ Ȟ ɞ ʓ Ấ
ϸ ╥̏ Ă Ɛ Ӂ

P5　注意していただきたいこと

˘ ˉ ḥ̇ ǳ ḥ̇ ρ Ű ǈ
Ǹ _ ₉ ɯ ǂ

箱を開けたら

万が一、不足品がございましたら、弊社 PLANT コールセンターまでご連絡ください。

注意！

箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

ユーザー登録

弊社では、PLANTコールセンターでユーザーサポートなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。
お買い上げいただいた製品ごとに以下の手順で必ず登録を行ってください。

1　添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼ってください。

ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

2　●オンライン登録する場合（インターネット http://www.iodata.co.jp/）

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。
I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を入力して、ユーザー登録を行ってください。
※ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

●ハガキで登録する場合

ユーザー登録カードに必要事項をご記入の上、弊社まで必ずご返送ください。

1. ユーザー登録の際、必要事項の入力漏れ（ユーザー登録カードの場合は、必要事項の記入漏れやシールの貼り忘れ等）があった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。
2. ハガキでの登録については、登録完了の通知は行っておりません。

対応している機種とＯＳ

本製品を使用できるパソコンおよび環境は以下の通りです。
ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

パソコンの機種･OS･LAN 環境

■Windowsでお使いになる場合■

パソコン本体	・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※1 ・NEC PC-9800 シリーズ
ＯＳ環境	・日本語 Windows 2000 ・日本語 Windows Me ・日本語 Windows 98(Second Edition 含む) ・日本語 Windows 95 ・日本語 Windows NT 4.0
LAN環境	イーサネットが正常に動作し、TCP/IP プロトコルが利用できること

※1　弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。

■Macintoshでお使いになる場合■

パソコン本体	Apple Macintosh, Power Macintosh
ＯＳ環境	Mac OS 8 以降
LAN環境	既にイーサネットがセットアップされていること

必要な Web ブラウザ(管理者のみ)

本製品を管理する管理者は、上記環境以外に、さらに以下のいずれかの Web ブラウザ※2（Internet Explorer あるいは Netscape Navigator）のバージョンが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

※2　Web ブラウザを使用して本製品を設定します。

管理用 Webブラウザ	・Internet Explorer を使用する場合、バージョン 5.0 以上 ・Netscape Navigator を使用する場合、バージョン 4.7 以上

注意していただきたいこと

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては、本製品に同梱されている小冊子「安全で快適にお使いいただくために」を必ずお読みください。

1)本製品は、以下の注意事項を守ってお使いください。

- 本製品は次のような場所で使用しないでください。
  ・「安全で快適にお使いいただくために」に記載されている使用禁止場所
- 本製品を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 本製品やケーブルの上に重いものを載せたり、ケーブルを引っ張ったりしないでください。漏電や故障の原因になります。
- 本装置の汚れは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジン、シンナーなど(揮発性のもの)や薬品を用いてふいたりしますと、変形や変色の原因になることがあります。
- 本製品を開けて内部の部品に触れないでください。電圧の高い部分があって危険です。また故障の原因になります。この場合は保証期間内であっても保証できなくなりますので、ご注意ください。

2)使用時は以下の注意事項をご確認ください。

- 本製品にモデム・TA、プリンタを接続する場合は、各製品の取扱説明書も必ずご参照ください。
- 本製品を接続する回線では、キャッチホンサービスのご利用は避けてください。
- 落雷の恐れがある場合は、本製品のご使用を中止し、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。

3)ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。

弊社修理センターでは、データ復旧サービスは行っておりません。

※故障した場合、データの復旧はできなくなります。

万一に備えて、こまめにデータをバックアップするようにしてくださ

4）本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。（【修理について】(189ページ)参照）

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

設定する（管理者の設定）

この章では、本製品を使用するための設定方法を説明します。
設定は、管理者のみ行います。まず、管理者は、本製品のみをパソコンに接続し、設定を行います。
本章での設定後、【3　使ってみよう（ユーザの設定）】(83 ページ) でユーザ側で本製品を使用する手順を説明します。

P10　1．管理者の設定手順の流れ

管理者の設定手順の流れを説明します。

P11　2．各部の名称・機能を確認する

本製品の各部の名称を確認してください。

P14　3．接続前にチェックする

パソコンに接続する前に必要な確認事項をチェックします。必ず確認してください。

P16　4．本製品のみをパソコンに接続する

本製品を添付のLANケーブルでパソコンに接続します。図を見ながら作業を行ってください。

P18　5．本製品の電源を入れる

本製品の電源を入れます。

P19　6．パソコンの IP アドレスを設定する

本製品を設定するためには、パソコンのIPアドレスの確認または設定が必要です。
本製品設定前にIPアドレスを確認・設定してください。

P27　7．Web ブラウザから設定する

Web ブラウザを使って、本製品を設定する設定画面を起動します。

P32　8．管理者が最初に設定すること

管理者が最初に行わなければならない基本的な設定について説明します。

ステップ１：本製品の IP アドレスを設定する
ステップ２：本製品を DHCP サーバとして使用する場合（必要時）
ステップ３：インターネットを使用する場合（必要時）
ステップ４：AppleTalk を有効にする（Mac OS ユーザ用：必要時）
ステップ５：ワークグループ名を設定する（Windows ユーザ用：必要時）
基本的な設定を終了したら

P43　9．機器別の設定

基本的な設定以外の接続する機器に応じた設定について説明します。

P43　①　ハードディスクを共有させる場合

出荷時のハードディスクの設定
ユーザ別の詳細な設定を行うには
　ステップ１：共有を設定する
　ステップ２：ユーザを登録する

P58　②　インターネット接続を共有させる場合

ステップ１：プロバイダと契約する
ステップ２：モデム・TA を設定する
ステップ３：インターネット関連を設定する
補足：インターネットを切断するには

P66　③　プリンタを共有させる場合

P68　10．本製品の電源を切る

本製品の電源を切ります。

P69　11．すべての設定が終了したら

すべての設定終了後、本製品とハブやモデム・TA およびプリンタを接続します。

ステップ1：本製品の電源を入れる
ステップ2：パソコンの IP アドレスを確認する
ステップ3：本製品とパソコンの電源を切る
ステップ4：ハブやモデム・TA およびプリンタを接続する
ステップ5：すべての機器の電源を入れる
設定を終了したら

P76　12．ハードディスクのデータの保守

ハードディスクのデータは、定期的にバックアップが必要です。
ここでは、バックアップ方法の参考例についても説明します。

P82　13．その他の管理上の注意

本製品を管理していく上で、必要な注意事項等について説明します。

1．　管理者の設定手順の流れ

パソコンへの接続

①各部の名称を確認します。　【各部の名称・機能を確認する】(P11)
②パソコンに接続する前のチェックを行います。　【接続前にチェックする】(P14)
③パソコンに接続し、電源を入れます。　【本製品のみをパソコンに接続する】(P16)
【本製品の電源を入れる】(P18)

基本設定

①パソコンの IP アドレスを設定します。　【パソコンの IP アドレスを設定する】(P19)
②設定画面を起動します。　【Web ブラウザから設定する】(P27)
③基本的な設定を行います。　【管理者が最初に設定すること】(P32)
・本製品の IP アドレスを設定します。
・本製品を DHCP サーバとする場合の設定を行います。（必要時）
・インターネットを使用する場合の設定を行います。（必要時）
・AppleTalk を有効にします。（Mac OS ユーザ用：必要時）
・ワークグループを設定します。（Windows ユーザ用：必要時）

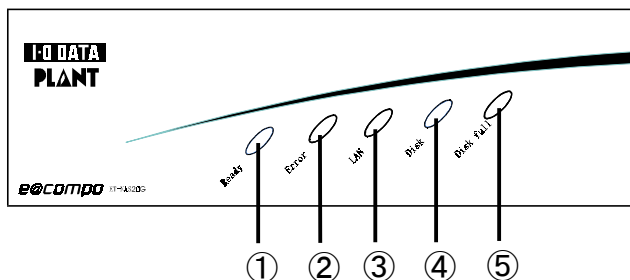
機器別の設定

接続する機器別の設定を行います。
・ハードディスクを共有させる場合　【ハードディスクを共有させる場合】(P43)
・インターネット接続を共有させる場合　【インターネット接続を共有させる場合】(P58)
・プリンタを共有させる場合　【プリンタを共有させる場合】(P66)

設定が終了したら

①本製品の電源を切ります。　【本製品の電源を切る】(P68)
②パソコンの電源を切り、ハブやモデム・TA およびプリンタを
接続し、すべての機器の電源を入れます。　【すべての設定が終了したら】(P69)

２． 各部の名称・機能を確認する

■前面パネル■

No	ランプ	色	意味
①	Ready	緑	点滅：システム起動時、およびシャットダウン中 点灯：システムが正常動作して使用可能状態であること
②	Error	橙	点灯：ハードウェアエラーが検出された場合
③	LAN	緑	点滅：ネットワークへのデータの送受信時
④	Disk		点滅：ハードディスクへの読み書き時
⑤	Disk full		点灯：ディスク容量が飽和状態（起動中も点灯状態） 点滅：ディスク使用率が98％を超えた場合

■背面■

No	名称	用途
①	電源スイッチ (POWER SWITCH)	本製品のシステムの起動(電源ON)とシステムのシャットダウン(電源OFF)を行います。 **※システムのシャットダウンは、システムが使用可能状態のときに有効です。 また、シャットダウンには、システムの終了処理のため、数分かかる場合があります。** 押す毎に、ONとOFFを繰り返します。
②	ファン	装置冷却用のファンです。 危険ですので、指を入れないでください。 また、動作中は、ふさがないでください。
③	１００	100BASE-TXネットワーク環境に接続されている場合、橙色に点灯します。
④	１０	10BASE-Tネットワーク環境に接続されている場合、緑色に点灯します。
⑤	12V DC	添付の専用ACアダプタを接続します。
⑥	リセット (RESET)	このボタンを押すと、設定ツールでのアドミニストレータ(ADMIN)のパスワード、およびIPアドレスが初期値に戻り、本製品の再起動を行います。
⑦	デイジー チェーン	相手先のネットワークの状態に応じて、ネットワークへの接続をクロス接続で行うか、ストレート接続で行うかを設定できます。 :スイッチOFF(出荷時) ストレート接続時(ハブと接続する場合) :スイッチON クロス接続時(直接パソコンと接続する場合)

(次ページへ)

（前ページからの続き）

	名称	用途
⑧	LAN	ハブを介して、あるいは直接、本製品とパソコンをLANケーブルで接続します。 **・ハブ経由で接続する場合** ［デイジーチェーン］スイッチをOFF( )にして、添付のストレートケーブルで接続します。 **・パソコンと直接接続する場合** ［デイジーチェーン］スイッチをON( )にして、添付のストレートケーブルで接続します。
⑨	PRINT	本製品とプリンタを接続します。（25ピンメス） ケーブルはプリンタに添付のものをご使用ください。 （コネクタが合わない場合は、弊社製プリンタケーブル『PBAT-2』をご使用ください。）
⑩	COM	本製品とモデムやTAを接続します。（9ピンオス） ケーブルはモデム・TAに添付のものをご使用ください。 （コネクタが合わない場合は、市販の変換コネクタをご使用ください。）

■ブザー■

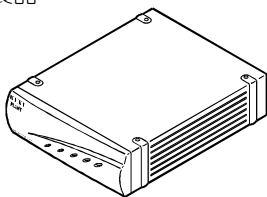
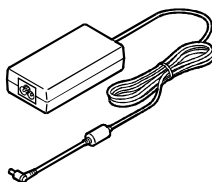
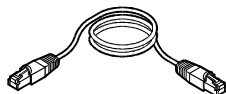
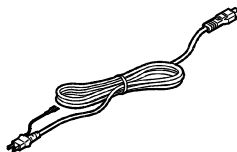
回数（回）	間隔（秒）	期間（分）	概要
1	―	―	使用可能状態になったことを示す
15	15	3	温度上昇が検出された場合
3	30	3	ディスク使用率が98%を超えた場合
2	5	1	DHCPクライアントに設定時に DHCPサーバが検出されなかった場合
1	―	―	RESETボタンが押された場合
1	―	―	電源スイッチが押された場合

※この表では、【期間(分)】までの間に、【間隔(秒)】間隔で【回数(回)】回づつ、ブザー音が鳴ることを意味しています。
例えば、上記3番目の「ディスク使用量が98%を超えた場合」では、3分間の間に30秒間隔で3回づつ、ブザーが鳴ります。

3． 接続前にチェックする

ここでは、本製品をパソコンやネットワークに接続する前の確認事項について説明します。

接続時に必要なものは準備しましたか？

・本製品

・ACアダプタ（添付品）

・LANケーブル（添付品）

本製品とネットワークを
接続します。
（ストレートケーブル）

・電源ケーブル（添付品）

・その他（モデムやTA、プリンタを接続する場合）

※本製品には、モデム・TAおよびプリンタの接続用ケーブルは添付しておりません。

・モデムやTAと接続する場合

モデムやTAをご用意ください。

本製品とモデム・TAとの接続には、本製品のRS-232Cコネクタ（9ピンオス）に合ったケーブルをご用意ください。

ケーブルは、モデム・TAに添付のものをお使いください。

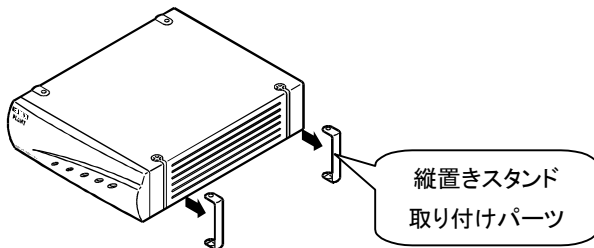
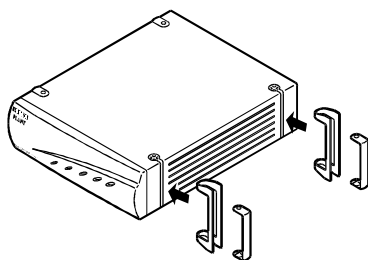
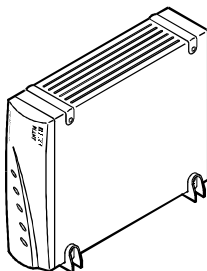
・プリンタと接続する場合

プリンタをご用意ください。

本製品とプリンタとの接続には、弊社製プリンタケーブル『PBAT-2』または市販のDOS/V用プリンタケーブルをお使いください。

本製品を縦置きで使用しますか？

添付の縦置台を使用することにより縦置きでもご使用になれます。

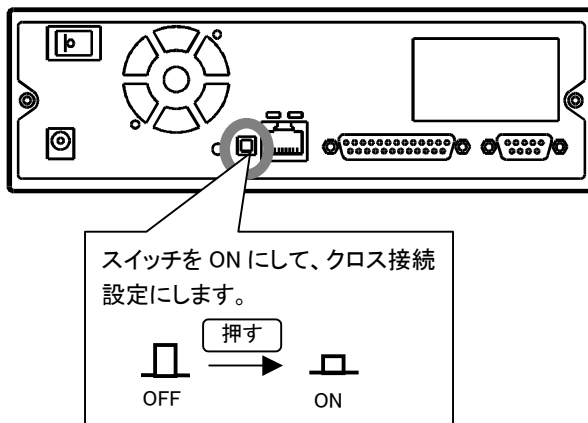
① 縦置きスタンド取り付けパーツを取り外します。

② 添付の縦置き台と取り外した縦置きスタンド取り付けパーツを順に取り付けて固定します。

以上で終了です。縦置きでご利用ください。

4. 本製品のみをパソコンに接続する

まず、パソコンに本製品のみを接続します。

ここでは、本製品のみをパソコンに接続します。
（ハブやモデム・TA、プリンタの接続は、本製品の設定が終了した後で行います。）

1 パソコンの電源を切ります。

2 本製品背面の[デイジーチェーン]スイッチをONにして「クロス接続用」に切り替えます。

※パソコンと本製品を直接接続する場合は、クロス接続する必要があります。
本製品では、[デイジーチェーン]スイッチをONにすることで、[クロス接続]に切り替わりますので、そのまま添付のストレートケーブルを接続してください。

3 LANケーブルを接続します。

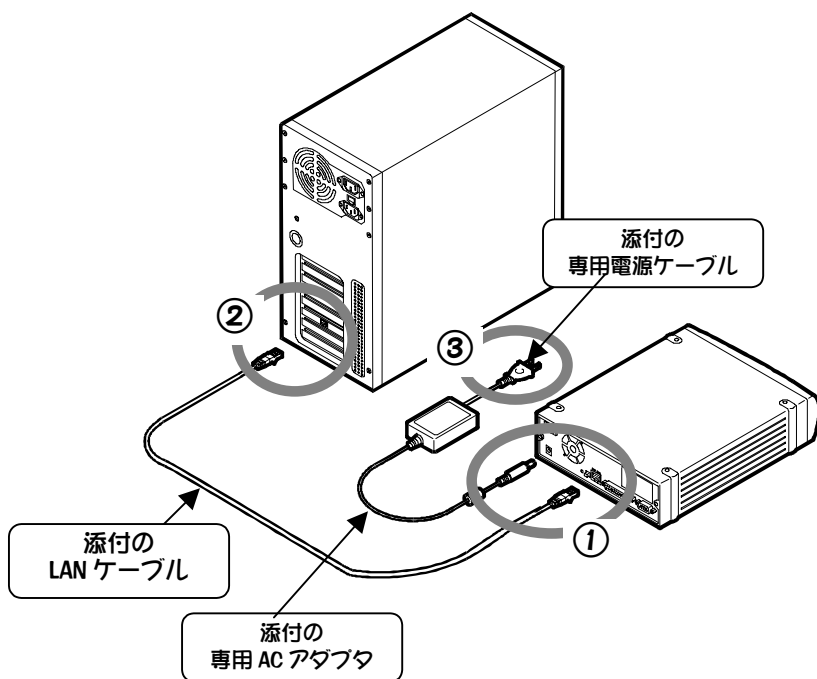
本製品背面の LAN コネクタに接続してください。（以下の①）

もう一方を、直接パソコンのLANコネクタに接続します。（以下の②）

添付の専用ACアダプタ、電源ケーブルを本製品に接続し、コンセントに接続します。

AC アダプタと電源ケーブルを接続して本製品に接続します。（以下の①）

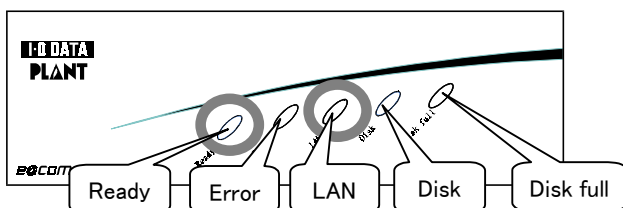
電源コンセントに接続してください。（以下の③）

・直接パソコンに接続する

接続のヒント

・コネクタは差し込む向きが決まっています。入りにくいときは無理に差し込まず、コネクタの向きをご確認ください。

5.　本製品の電源を入れる

接続が終了したならば、本製品の電源を入れます。

1 本製品背面の電源スイッチ(POWER SWITCH)を押して電源を入れます。
しばらくすると(約1分ほど)、[Ready]ランプが点灯し、[LAN]ランプが点滅します。
起動完了後、“ピッ”と音がします。確認してください。

本製品電源投入後、各ランプは以下のステップの順に表示されていきます。

	ステップ①	ステップ②	ステップ③	ステップ④	ステップ⑤
Ready	点滅	点滅	点滅	点滅	点灯
Error	点灯	—	—	—	—
LAN	—	—	—	—	点滅
Disk	—	—	点滅	—	—
Disk full	点灯	点灯	点灯	点滅	—

(表中の“—”は消灯を意味します。)

６． パソコンの IP アドレスを設定する

次に、パソコンの IP アドレスの設定を行います。
本製品を使用するには本製品の設定が必要ですが、まず、パソコンの IP アドレスが同じクラスで、かつ本製品とは別の IP アドレスとなっているか確認する必要があります。以下の手順で確認してください。

本製品を使用するには、IP アドレス、DHCP 等のネットワークの知識が必要です。
お分かりにならない場合は、【付録3　TCP/IP の基礎知識】(174 ページ)を参照してください。

1 パソコンの電源を入れます。

2 パソコンのIPアドレスの設定を行います。
設定はご使用のOSによって異なります。以下の該当する箇所へお進みください。
TCP/IPがインストールされているかを確認します。
（本製品を管理する場合、ネットワークの設定にTCP/IPが必要です。）

● Windows Me/98/95をお使いの場合	次ページを参照してください。
● Windows 2000をお使いの場合	22ページを参照してください。
● Windows NT 4.0をお使いの場合	24ページを参照してください。
● Mac OSをお使いの場合	26ページを参照してください。

Windows Me/98/95 で IP アドレスを設定する

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

2 ［TCP/IP］をダブルクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、［TCP/IPー>xxxxxxxx］をダブルクリックします。（xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。）

【困ったときには】(P127)
をご参照ください。

3　管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）

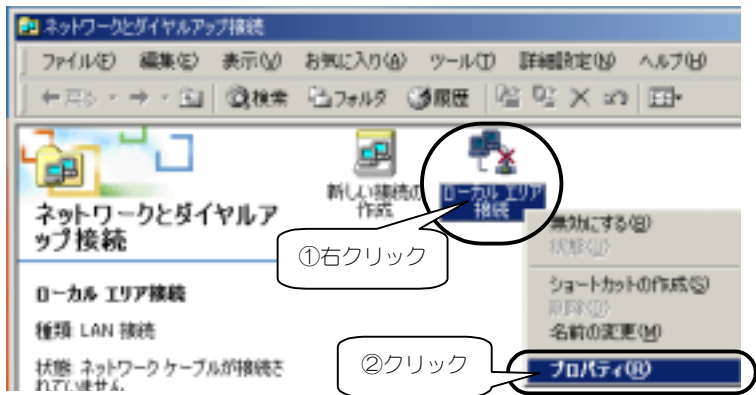
192.168.0.2

確認・設定後、【7. Web ブラウザから設定する】(27 ページ)へお進みください。

Windows 2000 で IP アドレスを設定する

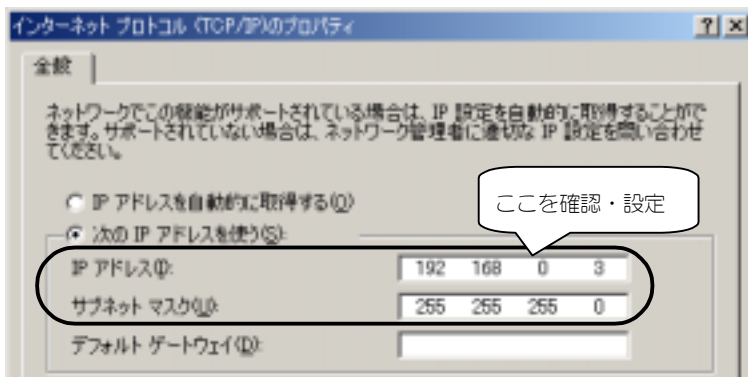
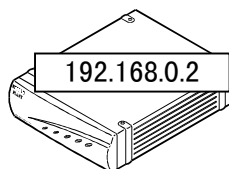
1 Administorator権限でWindows 2000にログインします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは出荷時「192.168.0.2」です。）

確認・設定後、【7. Web ブラウザから設定する】(27 ページ)へお進みください。

Windows NT 4.0 で IP アドレスを設定する

1 Administorator権限でWindows NT 4.0にログインします。

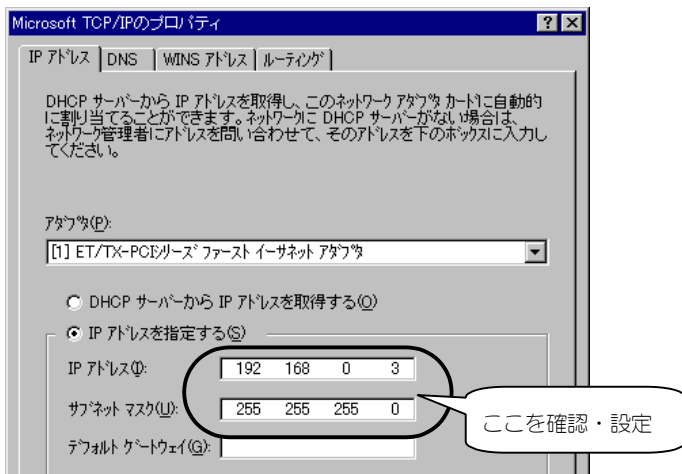
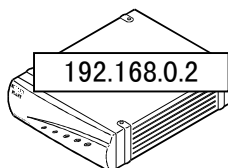
2 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3 ［TCP/IP プロトコル］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

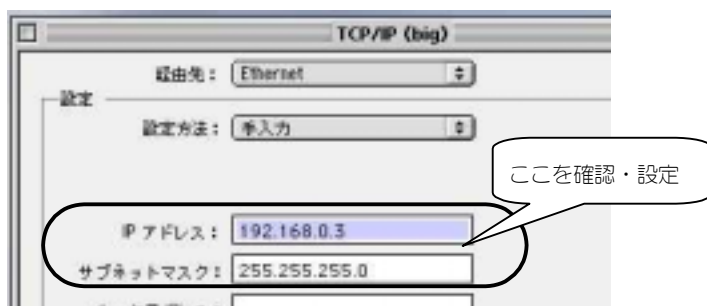
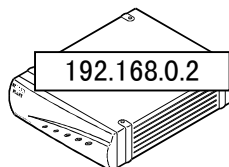
4　管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは出荷時「192.168.0.2」です。）

確認・設定後、【7. Web ブラウザから設定する】(27 ページ)へお進みください。

1 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

2 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）

192.168.0.2

確認・設定後、【7. Web ブラウザから設定する】(次ページ)へお進みください。

7. Webブラウザから設定する

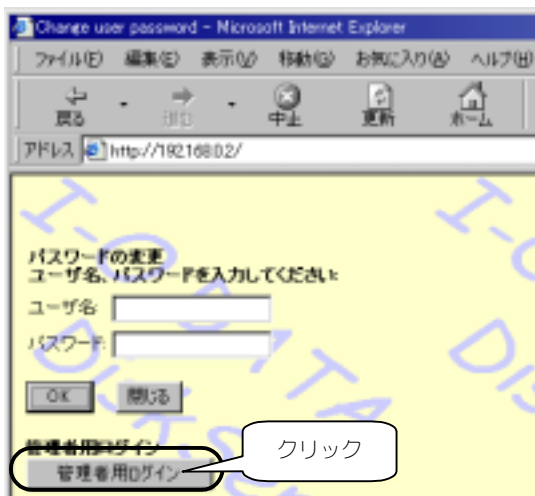
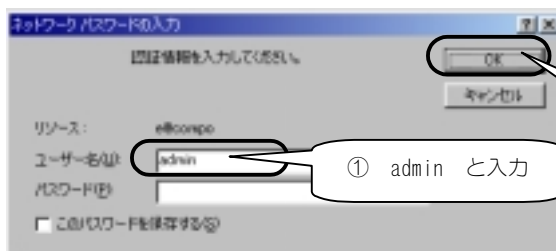
本製品を使用するには、Internet ExplorerやNetscape Navigator等のWebブラウザから各種設定を行う必要があります。

1 Webブラウザを起動して以下のIPアドレスを開きます。
「192.168.0.2」

（Internet Explorerでの例）

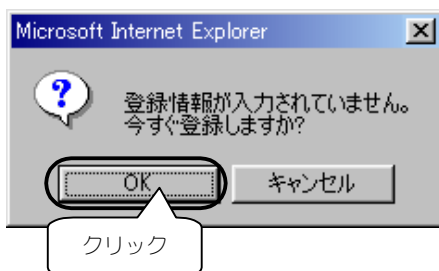
1)Internet ExplorerおよびNetscape Navigatorのブラウザをお使いになる場合は、【対応している機種とOS】(4ページ)の【必要なWebブラウザ】の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品にブラウザは添付しておりません。
ブラウザがない、あるいはブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。

2)上記IPアドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出すIPアドレスです。
LAN経由で本製品が接続されていれば呼び出せます。(インターネットに接続されている必要はありません。)

2 以下の画面が表示されます。
[管理者用ログイン]ボタンをクリックします。

3 以下の画面が表示されます。
[ユーザー名]に、 admin （小文字)と入力し、[パスワード]は空欄のまま、[OK]ボタンをクリックします。

4 以下の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンをクリックします。

本製品は、Linux を OS としています。
[現在のサーバ情報]内の[ライセンス情報]をクリックすれば、Linux のライセンスについて確認することができます。

5 以下の画面で、[OK]をクリックします。

手順**6**で登録情報を保存した場合、次回からこの画面は表示されません。(手順**4**の[アドミニストレーション]ボタンをクリックすると、手順**8**に移ります。)

6 管理者の登録情報を入力します。

入力後、[保存]をクリックし、[戻る]をクリックします。

※入力時には、入力個所をクリックしてから入力します。

管理者情報を登録しておけば、ネットワーク上に本製品を複数設置したときに、区別しやすくなります。
この画面で、データを入力しなくても、動作上は、特に問題ありません。が、[アドミニストレーション]ボタンをクリックする度に、手順5の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンですぐに設定に移りたい場合(手順8の画面を表示したい場合)は、上記画面の入力後、[保存]、続けて[戻る]をクリックしてください。

7 再度、以下の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンをクリックします。

8 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

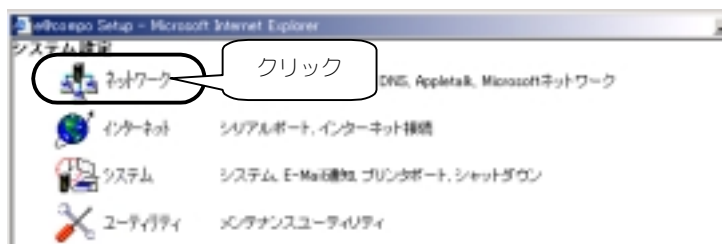
８． 管理者が最初に設定すること

本製品を使用するには、管理者はまず以下の設定が必要です。

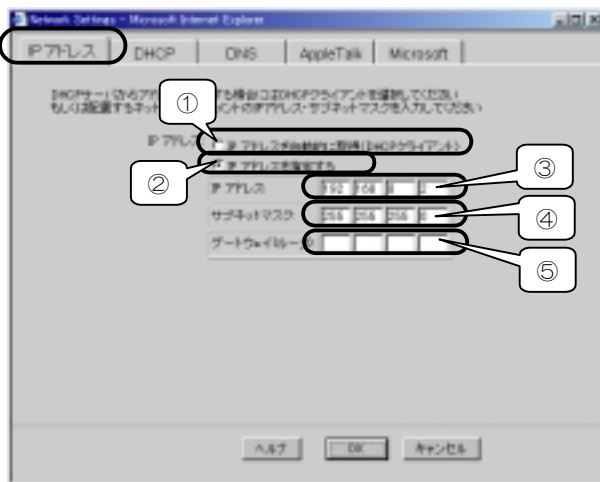
ステップ１：　本製品の IP アドレスを設定する
ステップ２：　本製品を DHCP サーバとして使用する場合（必要時）
ステップ３：　インターネットを使用する場合（必要時）
ステップ４：　AppleTalk を有効にする（Mac OS ユーザ用：必要時）
ステップ５：　ワークグループ名を設定する（Windows ユーザ用）

本製品を使用するには、IP アドレス、DHCP 等のネットワークの知識が必要です。
お分かりにならない場合は、【付録3　TCP/IP の基礎知識】(174 ページ)を参照してください。

上記の各ステップは、設定画面の［ネットワーク］の項目で設定します。

1 設定画面の[ネットワーク]をクリックします。

それでは、順に設定しましょう。

ステップ1： 本製品の IP アドレスを設定する

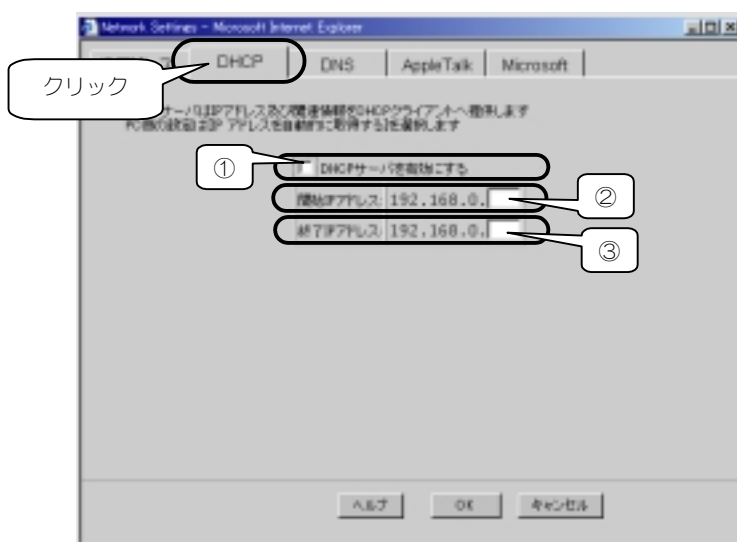
本製品を使用するには、［IPアドレス］タブで、まず本製品のIPアドレスの設定が必要です。
IPアドレスの値は、実際にネットワーク上で使用するお使いのパソコンのIPアドレスと同じクラスで、かつネットワーク上で使用していないIPアドレスに設定します。設定後、［OK］ボタンをクリックします。
（IPアドレスは、ネットワーク上のDHCPサーバから取得することもできます。）

※入力時には、入力個所をクリックしてから入力します。

①	IP アドレスを自動的に取得（DHCP クライアント）	ネットワーク上に DHCP サーバがある場合には選択できます。DHCP サーバはパソコンやその他の機器が起動する際に IP アドレスを提供します。 ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合は、「IP アドレスを指定する」（以下の②）を選択し、IP アドレスを入力（以下の③）してください。 **注意** **ネットワーク上に DHCP サーバが無い状態で、本製品を DHCP クライアントに設定した場合、本製品の再起動後に、DHCP サーバを検出できないために、しばらくすると、初期値の[IP アドレスを指定する]の設定に戻ります。**

②	IP アドレスを指定する	ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合にはこちらを選択して値を入力してください。
③	IP アドレス	初期値：192.168.0.2 ネットワークに適した IP アドレスを入力します。 項目で使用できる値は 1～254 までです。
④	サブネットマスク	初期値：255.255.255.0 パソコンやネットワーク上の機器と同じサブネットマスクを使用します。
⑤	ゲートウェイ（ルータ）	初期値：空白 ネットワーク上にルータやゲートウェイが存在する場合には,その IP アドレスを入力します。 ルータやゲートウェイが存在しない場合には、空白または 0.0.0.0 に設定します。

ステップ2： 本製品を DHCP サーバとして使用する場合(必要時)

本製品をDHCPサーバとして使用する場合は、［DHCP］タブをクリックして、各項目を設定後、［OK］ボタンをクリックします。

・最初(出荷時)、本製品は DHCP サーバには設定されていません。([DHCP サーバを有効にする]にはチェックは入っていません。)
DHCP サーバとして利用する場合は、[DHCP サーバを有効にする]にチェックを入れてください。
・はじめて LAN を接続される場合や、TCP/IP で IP アドレスを指定して、ネットワークを構築されたことがない場合には、「DHCP サーバを有効にする」の設定でのご利用をおすすめ致します。

※入力時には、入力個所をクリックしてから入力します。

①	DHCP サーバを有効にする	DHCP サーバを有効/無効にします。もし、他に DHCP サーバがある場合には、有効にしないでください。
②	開始 IP アドレス	DHCP サーバが提供する開始 IP アドレスを指定します。この数値は 2～254 の間でなければなりません。（最初の３つの項は 本製品の IP アドレスの値と同じ値を使用します。）
③	終了 IP アドレス	DHCP サーバが提供する最後の IP アドレスを指定します。

注意！

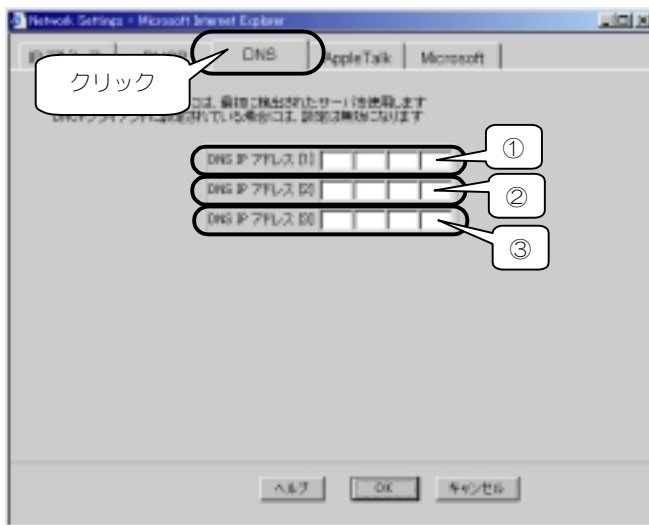
上記「② 開始 IP アドレス」と「③ 終了 IP アドレス」の値は、本製品の IP アドレスが含まれない値にする必要があります。
例えば、本製品の IP アドレスを出荷時「192.168.0.2」のまま使用する場合は、
「② 開始 IP アドレス」の値～「③ 終了 IP アドレス」内に「192.168.0.2」を含まないように設定する必要があります。

●DHCP サーバを有効にすると・・・・
各パソコン側の IP アドレスが自動的に割り当てられます。

●DHCP サーバを無効にすると・・・・
各パソコン側の IP アドレスを手動で入力する必要があります。

- **DHCP サーバを有効にした場合、管理者を含め、本製品と同一のネットワーク上のすべてのパソコンを、「DHCP クライアント」として設定します。（Windows の場合、［IP アドレスを自動的に取得］、Macintosh の場合、{DHCP サーバを参照}に設定します。）**
  DHCP クライアントの設定は、本製品のすべての設定終了後に行います。
  （管理者の場合は【11. すべての設定が終了したら】(69 ページ)で、ユーザの場合、【ユーザが最初に設定すること】(85 ページ)にて行います。）
- **本製品 は DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバとして動作させることができます。 DHCP サーバは IP アドレスや関連したデータをパソコンやその他の機器に提供します。（詳細は 178 ページ参照）**
  この機能を使用することで、ネットワークの管理を容易にできます。

ステップ3： インターネットを使用する場合（必要時）

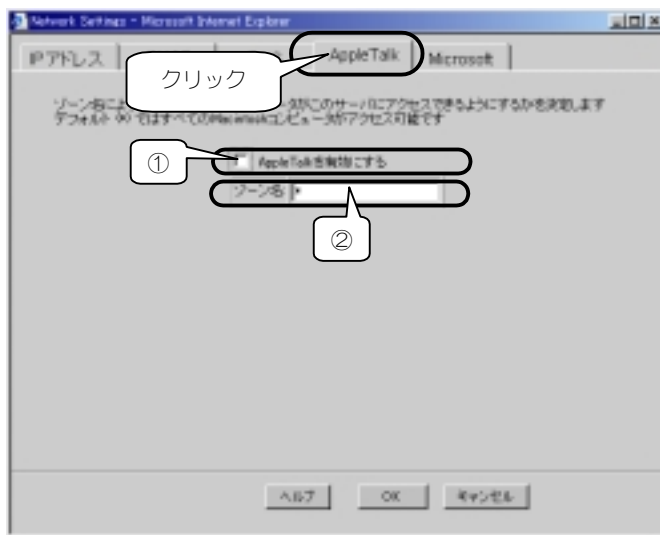
本製品に接続するモデム・TAを使用して、インターネットに接続する場合は、［DNS］タブをクリックして、プロバイダから案内されているDNS IPアドレスを設定します。
設定後、［OK］ボタンをクリックします。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

①	DNS IP アドレス (1)	１つ目のDNSサーバのIPアドレス
②	DNS IP アドレス (2)	１つ目のDNSサーバがシステムダウン等により、検出できない場合にアクセスするDNSサーバのIPアドレス
③	DNS IP アドレス (3)	２つ目のDNSサーバがシステムダウン等により、検出できない場合にアクセスするDNSサーバのIPアドレス

1)本製品では、DNSサーバの指定をサーバのIPアドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。
2)「E-Mail通知機能」（154ページ参照）を使用する場合には、ここでネットワーク内のDNSサーバのIPアドレスの設定を行う必要があります。

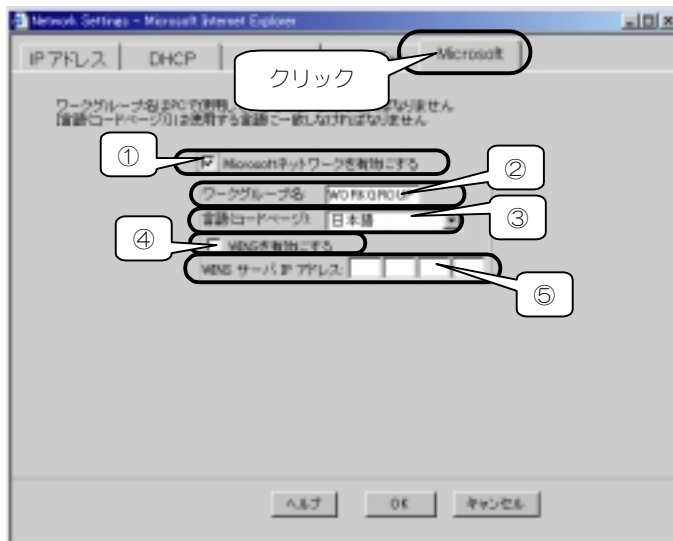
DNS (Domain Name System) はインターネットアドレス(例: www.iodata.co.jp 等の文字列のアドレス) を、数字で構成された IP アドレスに変換します。
この値は、プロバイダから案内されている値を使用してください。
通常、「プライマリ DNS」、「セカンダリ DNS」のように2つの DNS IP アドレスがプロバイダより案内されています。
複数登録されている場合には最初に検出されたサーバが使用されます。

ステップ4： AppleTalk を有効にする(Mac OS ユーザ用：必要時)

本製品を使用するMac OSユーザが、AppleTalkをお使いの場合は、以下のAppleTalkの設定を有効にしておく必要があります。
Mac OSユーザが、本製品に接続するプリンタをお使いになる場合は、必ず有効に設定してください。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

①	AppleTalk を有効にする	有効になっていない場合は、Mac OS ユーザは本製品にアクセスできません。
②	ゾーン名	初期値（出荷時）″*″ は、すべての Mac OS ユーザが本製品にアクセスできる設定です。 特定のゾーンだけにアクセスするようにする場合にはゾーン名を入力してください。

ステップ5：　ワークグループ名を設定する(Windows ユーザ用：必要時)

ネットワーク上に、Windowsユーザが存在する場合は、以下のMicrosoftネットワークの設定を有効にしてワークグループ名を設定する必要があります。
設定後、［OK］ボタンをクリックします。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

①	Microsoft ネットワークを有効にする	無効にした場合には Windows ユーザは、本製品にアクセスできません。
②	ワークグループ名	″ワークグループ名″ はパソコンのワークグループ名と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名の確認方法は、次ページ参照） ワークグループ名が一致していない場合にも本製品のハードディスクにアクセスすることは可能ですが、ネットワークを参照した場合には表示されません。
③	言語コード	［日本語］を選択します。

④	WINS を有効にする	WINS サーバを使用している場合に有効にします 有効になっている場合、WINS サーバに登録されます。この場合、ルータを経由するユーザもネットワークコンピュータで参照できます。(ネットワークコンピュータで同一の LAN セグメントのみを検索する場合を除く)
⑤	WINS サーバ IP アドレス	WINS サーバの IP アドレスを入力します。通常 NT サーバです。

●パソコンのワークグループ名の確認方法

・*Windows Me/98/95 および Windows NT 4.0 の場合*

［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックし、［識別情報］（［識別］）タブをクリックすれば確認できます。

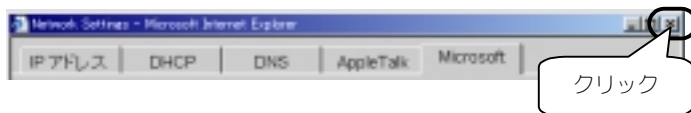
・*Windows 2000 の場合*

［マイ コンピュータ］を右クリックし、［ネットワーク ID］タブをクリックすれば確認できます。

基本的な設定を終了したら

前ページまでの設定がすべて終了したら、[ネットワーク]項目の画面を閉じます。

・Windows での画面の閉じ方

画面の右上の［×］ボタンをクリックして画面を閉じます。

・Mac OS での画面の閉じ方

画面の左上のボタンをクリックして画面を閉じます。

この後、以下の必要な箇所へお進みください。

- ハードディスクを共有させる場合
  【①ハードディスクを共有させる場合】（43ページ）～
- インターネット接続を共有させる場合
  【②インターネット接続を共有させる場合】（58ページ）～
- プリンタを共有させる場合
  【③プリンタを共有させる場合】（66ページ）～

９． 機器別の設定
（①ハードディスクを共有させる場合）

ユーザは、ネットワーク経由で本製品にアクセスすれば、本製品のハードディスクを使用することができます。

弊社修理窓口では、本製品が故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。
こまめにデータをバックアップするようにしてください。

本製品のハードディスクの全容量の内、管理者およびユーザが利用可能な容量は、17.6G バイトまでです。（残りは、システムが使用します。）

出荷時のハードディスクの設定

本製品は、最初（出荷時）管理者およびユーザからは以下のようにアクセスできるように設定されています。

管理者用	以下の設定でアクセスできます。（読み書き可） ユーザ名　：admin パスワード：なし（空欄）
ユーザ用	以下の設定でアクセスできます。（読み書き可） ユーザ名　：guest パスワード：なし（空欄）
本製品のサーバ名※	loxxxxxx （xxxxxx は、お買い求めの製品により異なります。） 以下の【サーバ名・日付・時刻の確認】の手順で確認してください。

※ネットワーク上で表示される本製品名。
共有フォルダを作成した場合、サーバ名の下に表示されます。

単に、ハードディスクを共有ディスクとして使用したい場合は、特に設定の必要はありません。
ただし、管理者以外の各ユーザも「guest」で簡単にアクセスでき、ハードディスクにファイルを自由に書きこんだり、消去したりすることができるため、重要なファイルの管理には不向きです。

サーバ名・日付・時刻の確認

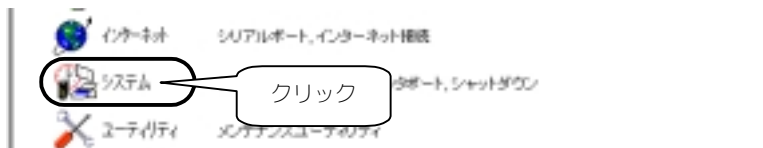
ネットワーク上から参照される本製品のサーバ名※や本製品の最初（出荷時）に設定されている日付・時刻が正しいかを確認します。

※ネットワーク上で表示される本製品名。
共有フォルダを作成した場合、サーバ名の下に表示されます。

ユーザは、ネットワーク上からサーバ名の下の共有フォルダにアクセスできます。

最初（出荷時）のサーバ名	loxxxxxx （xxxxxx は、お買い求めの製品により異なります。）

1 設定画面の[システム]をクリックします。

※設定画面の起動方法は、【7. Webブラウザから設定する】(27ページ)参照

2 [サーバ名]でサーバ名を確認・変更できます。
[日付][時間]も間違っていないか確認してください。
変更した場合は、[OK]をクリックすれば変更されます。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

サーバ名	本製品のサーバ名を変更することができます。 句読点や特殊文字(例　＊ / | ￥)および2バイト文字(日本語等)、半角カタカナは使用できません。 共有名として使用されていますので、稼動後は、頻繁には変更しないでください。

弊社修理窓口では、本製品が故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。

コメント	コメントを入力できます。 句読点や特殊文字（例　＊／｜￥）および２バイト文字（日本語等）、半角カタカナは使用できません。 **参考** このコメントは、Windows のネットワークのプロパティ中にある「コンピュータの説明」と同様に、［ネットワークコンピュータ］を詳細表示させた際のコメント欄に表示される文字列となります。
タイムゾーン	正しいタイムゾーンを選択します。
日付	現在の日付を入力します。
時間	現在の時刻を入力します。 本製品には［OK］ボタンをクリックした際に送られます。

確認・設定後、出荷時のままご使用になる場合は、ハードディスクの設定はすべて終了です。
以下の箇所へお進みください。

●インターネット接続を共有させる場合
【②インターネット接続を共有させる場合】（58 ページ）～
●プリンタを共有させる場合
【③プリンタを共有させる場合】（66 ページ）～

ハードディスクを共有するユーザのユーザ別の詳細な設定を行う場合は以下へお進みください。

ユーザ別の詳細な設定を行うには

管理者は、以下のようなユーザ別に詳細な設定をすることもできます。
（設定方法の詳細については、【ステップ１】（48ページ）～【ステップ２】（53ページ）参照）

・ユーザ別に、アクセスできる共有（フォルダ）名を指定する
・ユーザ別に、アクセスできる共有（フォルダ）名に「読み込みのみ可」「読み書き可」の属性を設定する
・ユーザ別に、使用できるディスクの容量を制限する

ユーザ別設定での手順の概要

設定は、管理者が設定画面で、以下の順に行います。

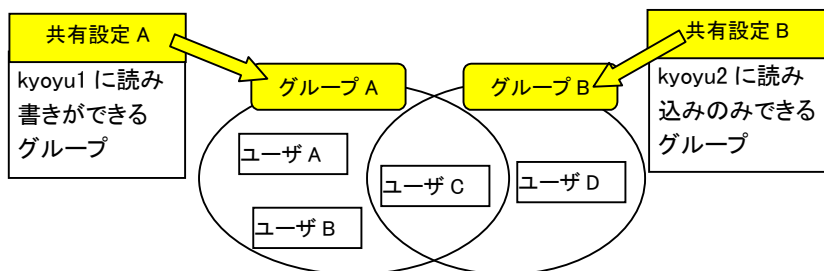
①共有の設定（設定画面での「共有」項目）

②ユーザの登録（設定画面での「ユーザ」項目）

（管理者は、ある共有属性を持つグループを作成し、ユーザをそのグループのメンバとして登録することで管理できるようになります。）

※共有（属性）の設定は、グループ単位でのみ行えます。

例えば、ユーザA～Dの人を以下のように設定するとします。

ユーザ	共有設定の内容
ユーザA ユーザB	共有フォルダ kyoyu1 に読み書きができるグループAのメンバー
ユーザC	共有フォルダ kyoyu1 に読み書きができるグループAのメンバー かつ 共有フォルダ kyoyu2 に読み込みのみできるメンバー
ユーザD	共有フォルダ kyoyu2 に読み込みのみできるメンバー

この場合、手順は以下のようになります。

①　共有の設定（設定画面での「共有」項目）

まず、ユーザA～C用のグループAを、「kyoyu1 に読み書き（Read-Write）可能」に共有設定します。

次に、ユーザC、D用のグループBを「kyoyu2 に読み込みのみ（Read-Only）可能」に共有設定します。

②　ユーザの登録（設定画面での「ユーザ」項目）

ユーザA～CをグループA、ユーザC、DをグループBのメンバー（一員）として登録すれば、設定完了です。

弊社修理窓口では、本製品が故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。

ステップ1：　共有を設定する

共有の設定を行います。
「共有」 は、ユーザが「読み書き可」として設定できるフォルダ（ディレクトリ）です。「読み込みのみ可」としての設定もできます。

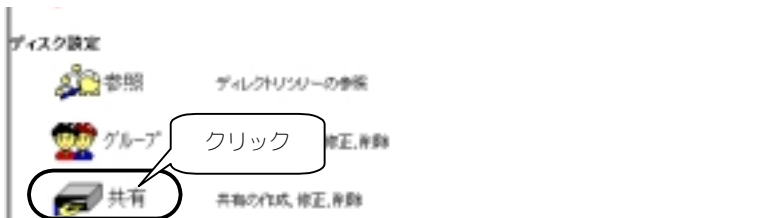
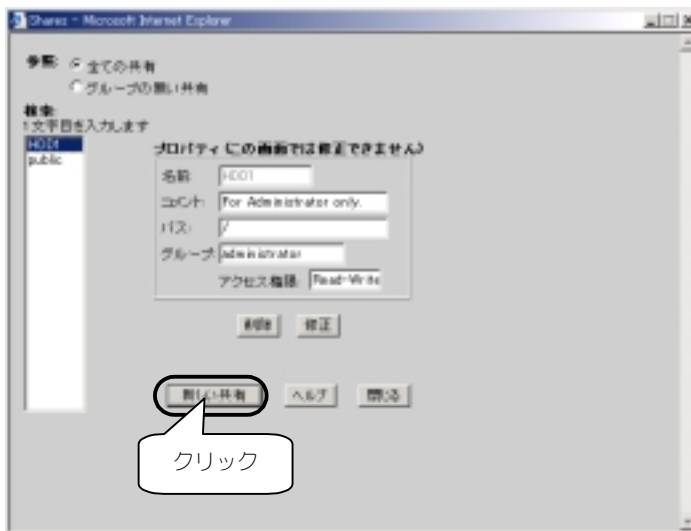
1）共有（フォルダ）は、管理者（admin）だけが作成することができます。
ユーザは、その共有（フォルダ）内にフォルダやファイルを作成することができます。
2）共有（フォルダ）はユーザグループ単位で、アクセスの設定を行います。
ユーザによって、複数の共有フォルダへアクセスさせることも可能です。
3）共有フォルダ内に共有フォルダが存在する場合、外側の共有フォルダへのアクセス権を持つユーザは内部の共有フォルダへ同じ権限でアクセスすることができます。

本製品出荷時には、既に以下の２つの共有が登録されています。
次ページを参照して新しい共有を作成してください。

		既にある共有名	フォルダ	グループ	アクセス権限
①	管理者のみアクセスできる共有	HDD1	/　（ルート）	administrator	Read-Write
②	すべてのユーザがアクセスできる共有	public	/public	everyone	Read-Write

新しく共有を作成する場合

1 設定画面の[共有]をクリックします。

※設定画面の起動方法は、【7. Webブラウザから設定する】(27ページ)参照

2 [新しい共有]ボタンをクリックします。

1) "HDD1" と"public" の2つの共有は常に存在し、設定画面から、削除することはできません。

2) "HDD1"の設定は変更できません。

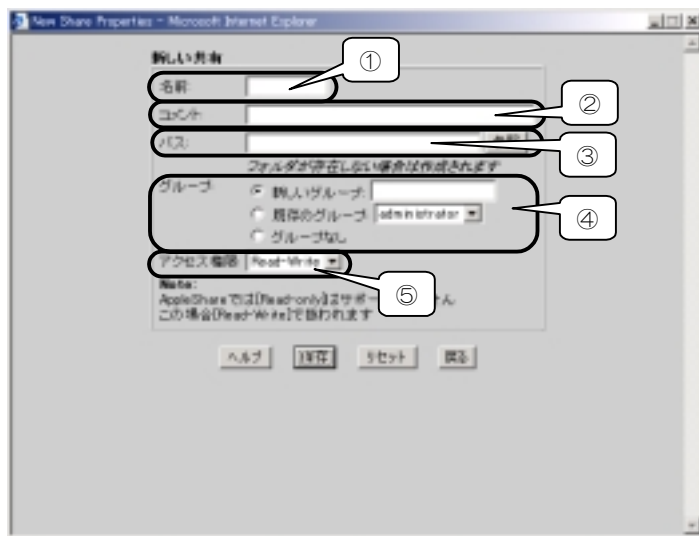
3 画面の入力欄をクリックし、入力します。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

入力後、[保存]をクリックします。

※入力した名前が消えたら登録終了です。

複数登録する場合は、入力→[保存]を繰り返します。

登録後、[戻る]をクリックします。

①	名前	共有フォルダの名前を入力します。 句読点や特殊文字(例　＊ / ｜ ￥) および2バイト文字(日本語等)は使用できません。 また、下の名前は使用できません。 homes global printers
②	コメント (オプション)	必要であればコメントを入力します。 句読点や特殊文字(例　＊ / ｜ ￥) および2バイト文字(日本語等)は使用できません。
③	パス	共有フォルダへのパスです。 ユーザは、ネットワーク上からこの名前のフォルダにアクセスできるようになります。 名前を入力するか、″参照″ をクリックして選択します。

④	グループ	共有は１つのグループにのみ関連づけられます。 **新しいグループ**: 共有に関連付ける新しいグループを作成します。 最初（初期値）に共有名がそのままグループ名として表示されます。 変更する場合には句読点や特殊文字(例　＊ / ｜ ￥)および２バイト文字(日本語等),半角カタカナは使用できません。 **既存のグループ**: 共有を既存のグループに関連付けます。 ドロップダウンリストに既存のすべてのグループ名が表示されます。（以下の【参考】参照） **グループなし**: 共有にグループを関連付けません。 この場合ユーザは、この共有名にはアクセスできません。
⑤	アクセス権限	アクセス権限を変更する場合に使用します。 アクセス権限をドロップダウンリストから選択します。 **・Read-Write・・・・・読み書き可能** **・Read-only・・・・・・読み込みのみ可能**
⑥	保存	共有のデータを保存します。内容に問題があれば、メッセージが表示されます。保存されると、次の入力のためのブランク画面が表示されます。
⑦	リセット	変更した内容をクリアします。
⑧	戻る	手順 ***2*** (49 ページ) の画面に戻ります。

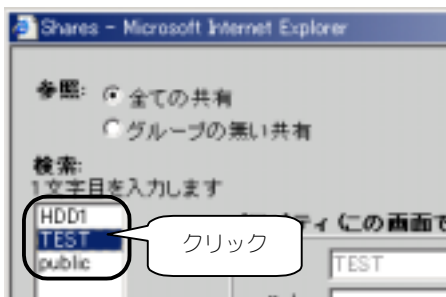
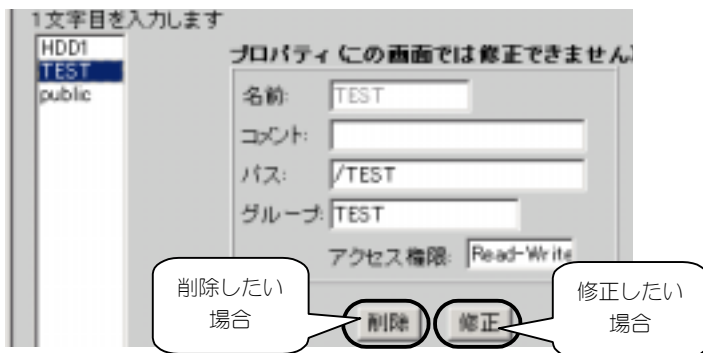
●参考：出荷時に既にある「既存のグループ」

administrator	すべての共有フォルダへ読み書きが可能です。
everyone	常にすべてのユーザに割り当てられます。 （すべてのユーザは、” everyone”グループとなります。） 設定されている内容（参照する共有フォルダ等）を変更することもできます。

1) ″everyone″ と″administrator″ の2つのグループは常に存在し、設定画面から、削除することはできません。
2) ″everyone″ と″administrator″ グループは名前を変更できません。

4 ［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じます。

設定した共有を修正・削除する場合

1 ［検索］欄から修正・削除したい共有名をクリックします。

2 修正したい場合は、［修正］ボタンをクリックすると修正画面が表示されますので、修正してください。
削除したい場合は、［削除］ボタンをクリックして削除できます。

注意！

1) ″HDD1″ と″public″ の2つの共有は常に存在し、設定画面から、削除することはできません。
2) ″HDD1″の設定は変更できません。

ステップ2: ユーザを登録する

次にユーザの登録を行います。
ユーザの登録を行えば設定完了です。

本製品出荷時には、既に以下の２つのユーザが登録されています。
次ページを参照して新しい共有を作成してください。

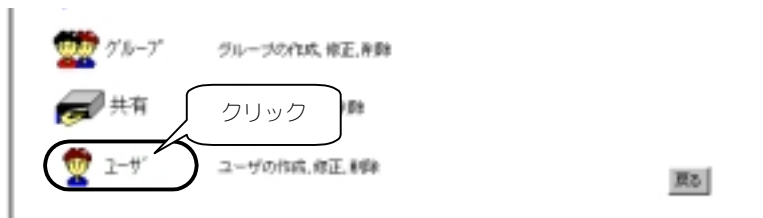
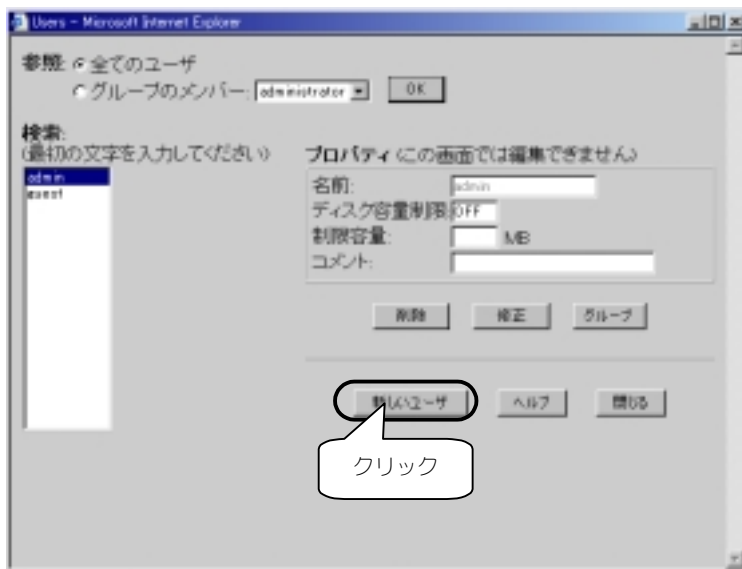
		既にあるユーザ	パスワード	ディスク容量制限	所属するグループ※1
①	管理者用	admin	なし	なし	adminstrator everyone
②	ユーザ用	guest	なし	なし	everyone

※1 【参考：出荷時に既にある「既存のグループ」】(51 ページ)参照

1) ″admin″と″guest″の2つのユーザの設定を変更したい場合は、次ページ手順2の[修正]ボタンをクリックして変更できます。
2) ″guest″は最初(出荷時)にディスク容量制限が「OFF」となっており、無制限にファイルを保存できてしまいます。必要な場合は、ディスク容量制限を「ON」にして、制限容量を設定してご使用ください。

新しくユーザを登録する場合

1 設定画面の[ユーザ]をクリックします。

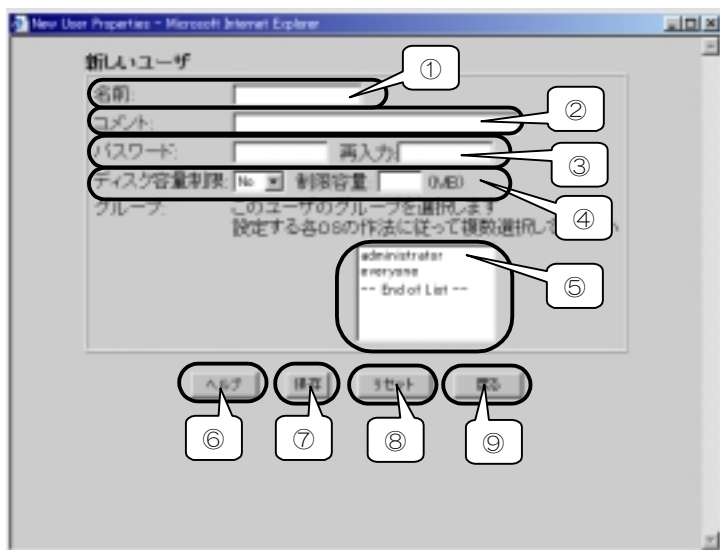
※設定画面の起動方法は、27ページ参照

2 [新しいユーザ]をクリックします。

3 画面の入力欄をクリックし、入力します。

※入力時には、入力個所をクリックしてから入力します。

入力後、[保存]をクリックします。

※入力した名前が消えたら登録終了です。

複数登録する場合は、入力→[保存]を繰り返します。

登録後、[戻る]をクリックします。

①	名前	ユーザ名を入力します。 句読点や特殊文字（例　＊/｜￥）および2バイト文字(日本語等),半角カタカナは使用できません。
②	コメント (オプション)	コメントを入力します。 句読点や特殊文字（例　＊/｜￥）および2バイト文字(日本語等),半角カタカナは使用できません。
③	パスワード	このユーザのパスワードを入力します。 ″再入力″ の項にも同じ値を入力します。
④	ディスク容量制限	Yes か No を選択します。 ″Yes″を選択した場合には、ユーザのディスク使用量の制限値を″制限容量″に入力します。
⑤	制限容量 (ディスク使用量)	この項は″ディスク使用量制限″で″Yes″がチェックされていない場合には無効になります。有効な場合には、このユーザが使用可能なディスク容量の制限値を表示します。

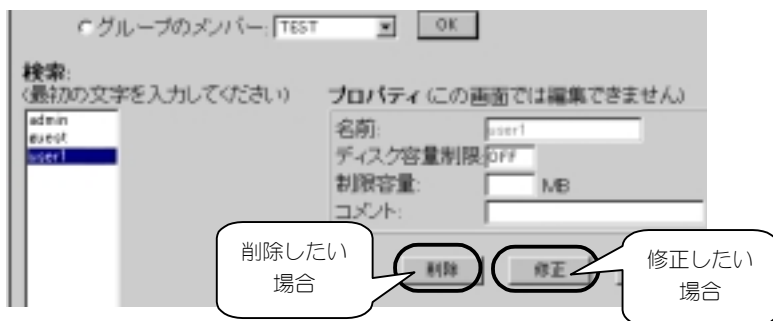
弊社修理窓口では、本製品が故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。

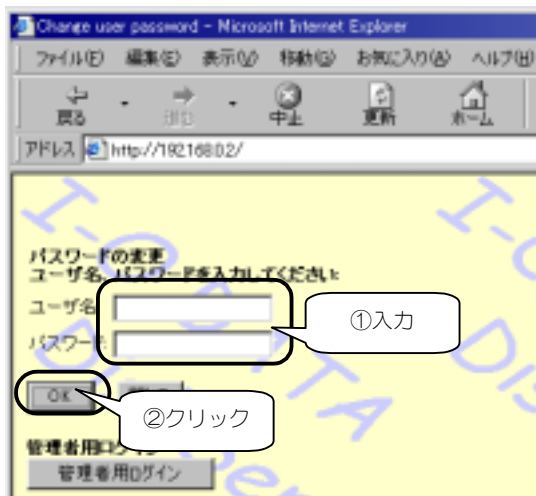
⑥	グループ	このユーザが所属するグループを選択します。 複数のグループを選択する場合には、ご使用の OS の作法に従って、複数を選択してください。
⑦	保存	このユーザのデータを保存します。 入力されたデータに問題があれば、エラーメッセージが表示されます。それ以外では次のユーザを入力するための新しい画面が表示されます。
⑧	リセット	フォームをリセットします。 入力したデータは消去されます。
⑨	戻る	手順 **2**（54 ページ）の画面に戻ります。

4 ［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じます。

設定したユーザを修正・削除する場合

1 ［検索］欄から修正・削除したいユーザ名をクリックします。

2 修正したい場合は、［修正］ボタンをクリックすると修正画面が表示されますので、修正してください。
削除したい場合は、［削除］ボタンをクリックして削除できます。

1）″admin″ と″guest″ の2つのユーザの設定を変更したい場合は、前ページ手順2の
　[修正]ボタンをクリックして変更できます。
　また、″admin″ と″guest″ の2つのユーザは常に存在し、設定画面から削除することはできません。
2)修正画面では、グループを変更できません。
　[グループ]項目の[メンバー]ボタンで変更してください。(168 ページ参照)

登録したユーザのパスワードを変更したい場合は、以下の画面(28 ページの手順2の画面)上からも設定できます。
既に登録済みの[ユーザ名]を入力し、変更したい[パスワード]を入力後、[OK]をクリックすれば変更できます。

９．　機器別の設定
（②インターネット接続を共有させる場合）

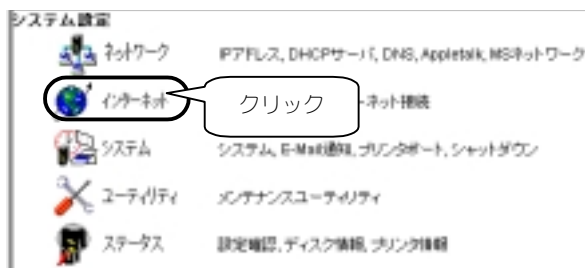
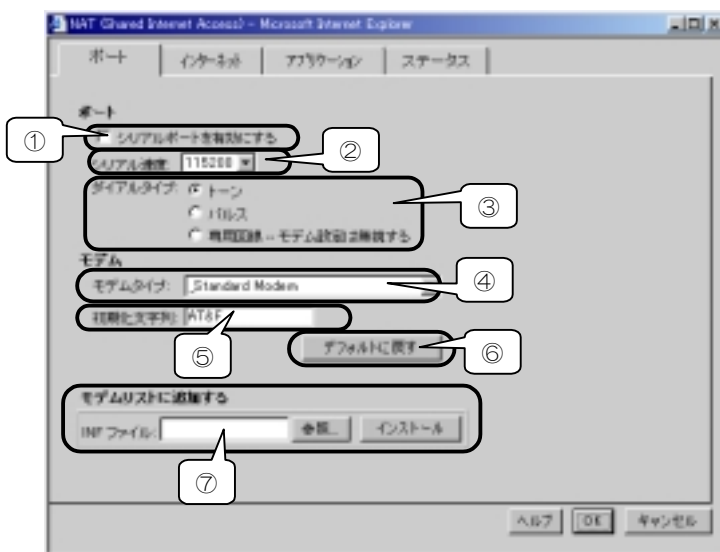
ユーザは、ネットワーク経由で本製品に接続したモデム・TAを使って、インターネットにアクセスすることができます。
ここでは管理者は、モデム・TA の設定およびインターネットに関する設定を行います。

本製品にモデム・TA を接続しなくても、モデム・TA を設定できます。
実際の接続は、【11. すべての設定が終了したら】(69 ページ)にて行います。

ステップ１：　プロバイダと契約する

既にインターネットに接続したことがある場合は、プロバイダからの資料を用意し、次ページ【ステップ２】へお進みください。
インターネットに接続したことがない場合は、インターネット接続サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップIP接続の契約を行ってください。
契約後、接続のためのユーザー名、パスワード、接続先の電話番号などをプロバイダから教えてもらいます。プロバイダからの資料を用意し、次ページ【ステップ２】へお進みください。

ステップ2： モデム・TA を設定する

1 設定画面の[インターネット]をクリックします。

2 [ポート]タブの項目を設定します。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

ここでの入力は正しくなければいけませんが、アナログモデムを使用する場合、ほとんどの場合には最初(出荷時)の設定で動作します。
リストにのっていないモデム/TA を使用する場合、そのモデムの Windows 98/95 用の INF ファイル(Windows 98/95 用モデムドライバ)を持っていればモデムリストに追加することもできます。

①	シリアルポートを有効にする	シリアルポートを経由したインターネットアクセスの有効/無効を設定します。
②	シリアル速度	使用するモデム・TA がサポートする最高速度を選択します。ここでの値は、シリアルポートでの速度であって、電話回線の速度ではないことに注意してください。 専用回線を使用する場合は、使用する専用回線の速度を選択してください。（通常は、115200bps を選択してください。）
③	ダイアルタイプ	モデム・TA に接続した回線の種類を選択します。 専用回線など常時接続の場合は、「専用回線」を選択します。「④ モデムタイプ」設定の内容は無視されます。 **注意:「シリアル速度」は専用回線の速度に一致していなければなりません。**
④	モデムタイプ	リストから使用するモデム・TA を選択します。 ・"_Standard Modem" を選択し、動作を確認します。（多くのモデムは、この設定で動作可能です。） ・"Other"を選択し、適切な初期化文字列（AT コマンド）を入力します。この初期化文字列が、モデム・TA の回線速度、ダイアル方法を設定します。 **※サポートする AT コマンドについてはモデム・TA のマニュアルを参照してください。** ・使用するモデム・TA の Windows 98/95 用 INF ファイルがある場合、そのモデム・ TA をモデムリストに追加できます。（手順については次ページ参照）
⑤	初期化文字列	プロバイダに接続を行う前に、モデム・TA に対して行う設定用の AT コマンドです。「Other」以外のモデム・TA については設定を変更することはできません。 「Other」を選択する場合、サポートするコマンドについてはモデム・TA のマニュアルを参照してください。
⑦	デフォルトに戻す	画面表示されている値を初期値（出荷時設定値）に戻します。
⑥	モデムリストに追加する	使用するモデム・TA をリストに追加するための INF ファイルの指定を行います。 INF ファイルは、Windows 98/95 用のみ対応です。 （手順については、次ページ参照）

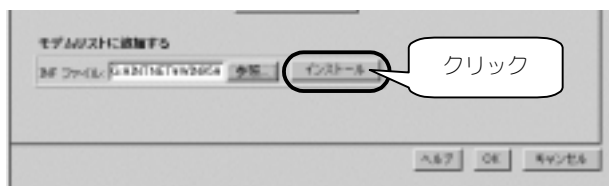
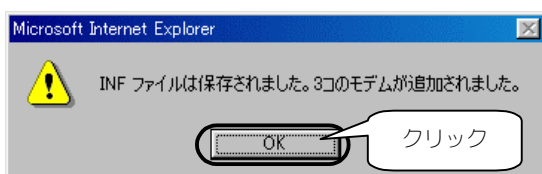
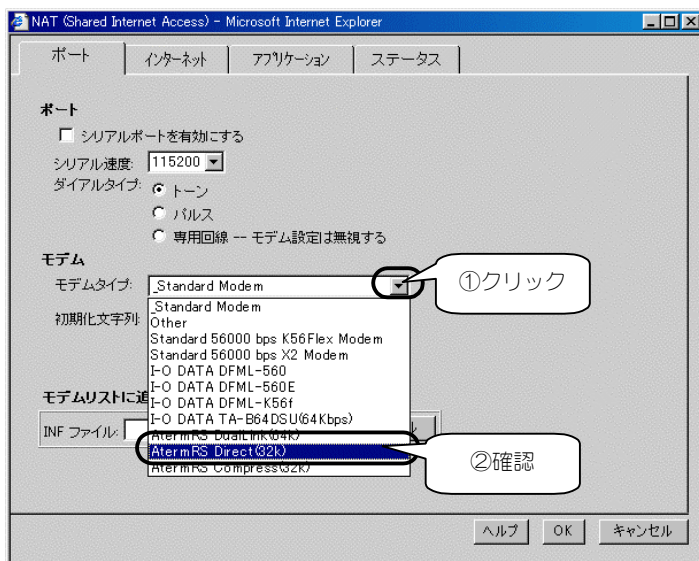
●モデムリストへの追加手順

モデムリストに追加する INF ファイルは、管理用パソコンに、Windows 2000,Windows Me, Windows NT 4.0 や Mac OS をお使いの場合でも、Windows 98 または Windows 95 用の INF ファイルをご使用ください。
（Windows 2000,Windows Me,Windows NT 4.0 の INF ファイルおよび Mac OS 用モデム定義ファイル[CCL ファイル]には、対応しておりません。）

以下は、NEC Aterm RS20 を追加する場合の例です。

1 INFファイル（Windows 98/95用モデムドライバ）のあるディスクをセットします。

2 ［参照］ボタンをクリックし、INFファイルのある場所を指定します。

3 [インストール]ボタンをクリックします。

4 登録が完了すると、以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。

5 モデムリストへ追加されたことを確認してください。

ステップ3： インターネット関連を設定する

1 ［インターネット］タブをクリックし、プロバイダの案内に応じて、各項目を入力してください。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

<table>
<tr><td>①</td><td>アカウント名</td><td colspan="2">プロバイダで指定されたインターネットアカウント名を入力します。プロバイダによっては「ユーザ名」と呼んでいるところもあります。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>パスワード</td><td colspan="2">上記のアカウント名のパスワードを入力します。
「パスワードの再入力」欄にもう一度パスワードを入力して、このパスワードが正しいかどうか確認します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">③</td><td rowspan="3">認証</td><td colspan="2">プロバイダの案内に応じて以下のいずれかを設定します。</td></tr>
<tr><td>CHAP</td><td>PPPなどにおけるユーザー認証方法の１つ。
PAP と違って、ユーザー名やパスワード情報をそのまま渡さない（流さない）ため、安全性が高い。</td></tr>
<tr><td>PAP</td><td>PPPにおけるユーザー認証方法の１つ。
PPPにおける最も簡単な認証方式であるが、
通信回線をモニタされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性がある。</td></tr>
</table>

④	電話番号	プロバイダに接続するための電話番号（アクセス番号）を入力します。数字（0..9）とコンマ（,）のみ使用できます。 専用線を使用する場合には、空白のままにしてください。
⑤	電話番号 2 & 3	これらはオプションです。 入力しておけば、最初の電話番号が利用できないとき、順番にこれらの番号にダイアルをします。
⑥	切断までの待ち時間	入力した時間の間、データ通信が行われていなければ自動的に切断します。 アナログ回線を使用している場合には、再接続に必要な時間の遅延を避けるために長めに設定(例　20 分)することができます。 ISDN を使用している場合には、接続の遅延は短く、1 分程度に設定しておけば良いと思われます。 専用回線を使用する場合には、ここでの設定は関係ありません。
⑦	接続時の IP アドレス	プロバイダに接続したときに IP アドレスが割り振られる場合は、「ダイナミック」を選んでください。（出荷時設定） 接続したときに割り振られるのではなく、すでに IP を提供されている場合には、「次のアドレスに固定」を選択し、そのアドレスを記入してください。 詳細は、プロバイダにご確認ください。
⑧	DNS IP アドレス	プロバイダに接続するには、少なくとも 1 つの DNS IP アドレスが必要です。 「ネットワーク」項目の「DNS」タブで設定します。 （37 ページ参照）

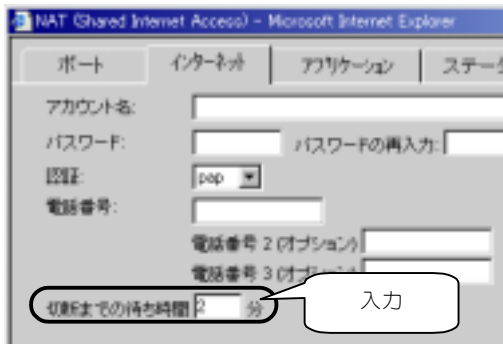
本製品では、DNS サーバの指定をサーバの IP アドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。

以上でモデム･TA の共有設定は終了です。

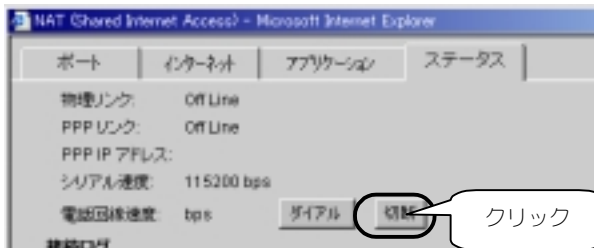
補足：　インターネットを切断するには

ユーザが、インターネットにブラウザでアクセス後、ブラウザを終了しても、接続は終了していません。
切断する場合は、以下の２通りがあります。

方法1：

［インターネット］タブでの［切断までの待ち時間］で設定までの待ち時間を設定します。

設定画面の［インターネット］をクリックし、
［インターネット］タブをクリックした画面

方法2：

．［ステータス］タブ画面で、［切断］ボタンをクリックします。

設定画面の［インターネット］をクリックし、
［ステータス］タブをクリックした画面

9．　機器別の設定
（③プリンタを共有させる場合）

ユーザは、ネットワーク経由で本製品に接続したプリンタを、ネットワークプリンタとして使用することができます。
ここでは管理者は、ユーザがプリンタ設定する際の共有名等を設定します。

本製品出荷時には、既に以下の設定が登録されています。

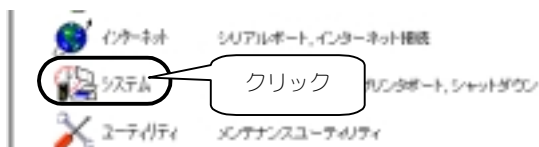
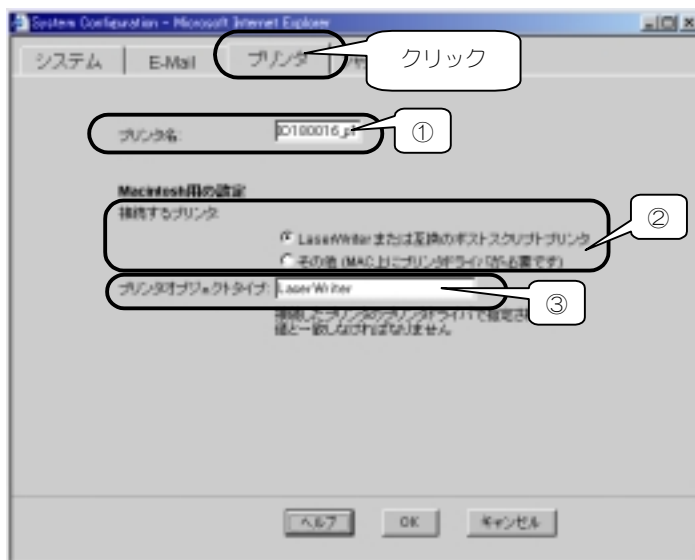
項目	内容
Windows 用の プリンタの共有名	Windows ユーザはこの名前でネットワークプリンタとして登録できます。 設定値：　xxxxxxx_p1 （xxxxxxx には、本製品のデバイス名が入ります。）
Mac OS 用の プリンタタイプ	設定値：　LaserWriter または互換のポストスクリプトプリンタ

注意！

・Mac OS から印刷する場合、本製品に接続できるプリンタは、LaserWriter 互換プリンタのみです。
・WPS(Windows Printing System)プリンタは、その仕様上本製品に接続して利用できません。
・プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムには対応していない場合があります。

設定を確認・変更する場合は、以下の手順にて行えます。

1　Mac　OS上からプリンタを使用するユーザがいる場合は、【ステップ4】(39ページ)を参照して、設定画面のAppleTalkの設定を有効にしてください。

2　設定画面の[システム]をクリックします。

3 [プリンタ]タブをクリックします。
必要な項目を設定後、[OK]をクリックします。

※入力時には、入力箇所をクリックしてから入力します。

●Windows 用の設定

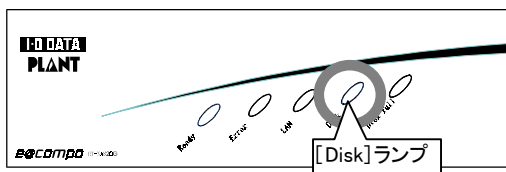
①	プリンタ名	プリンタ名を入力します。 プリンタ名は Windows を使用してプリンタをインストールする場合に参照されます。

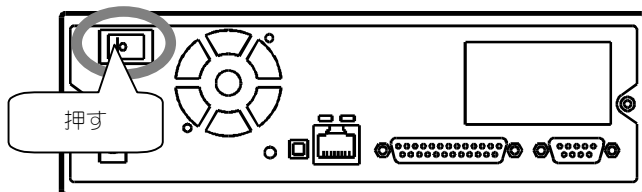
●Macintosh 用の設定

②	接続する プリンタ	プリンタタイプを選択します。 ″その他″を選択した場合には、Mac OS ユーザは、そのプリンタのネットワーク対応プリンタドライバをインストールする必要があります。
③	プリンタ オブジェクト タイプ	ここに入力する名前は、接続したプリンタのプリンタドライバで指定される「オブジェクトタイプ」と一致しなければなりません。 「オブジェクトタイプ」指定が正しくない場合には、 Mac OS 上でプリンタが検出されません。 「オブジェクトタイプ」を確認するにはプリンタの取扱説明書を参照してください。

10. 本製品の電源を切る

本製品の電源を切ります。

・[Disk]ランプが点灯・点滅中は、電源を切らないでください。
本製品の電源を切る場合は、必ず[Disk]ランプが消灯しているのを確認後、電源を切ってください。
・本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、予め本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。

1 本製品の電源スイッチ(POWER SWITCH)を押して、電源を切ります。

※スイッチを押した後、電源が切れるまでに数分かかる場合があります。

設定画面の[システム]項目の[シャットダウン]タブの[直ちにシャットダウン]ボタンをクリックしても、本製品の電源を切ることができます。

１１．すべての設定が終了したら

前ページまでで、管理者のすべての設定が終了です。
後は、管理者のパソコンの IP アドレスを確認した後、本製品、ハブ、モデム・TA およびプリンタとパソコンを接続します。

ステップ１： 本製品の電源を切る

本製品の電源を切ります。
手順については、前ページ【本製品の電源を切る】を参照してください。

ステップ２： パソコンの IP アドレスを確認する

ハブとの接続前に、管理用パソコンのIPアドレスを確認します。

※【6. パソコンのIPアドレスを設定する】(19ページ)で一時的にIPアドレスを変更した場合は、ネットワーク環境に合わせて再度設定し直してください。

1 **ネットワーク環境に応じて、管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。**

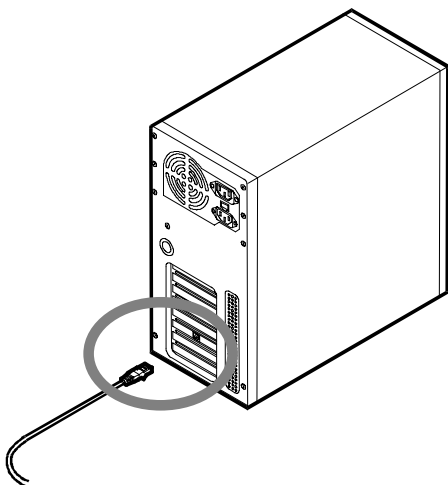
※IPアドレスの確認・設定の手順については、【6. パソコンのIPアドレスを設定する】(19ページ)を参照してください。

ステップ3： パソコンの電源を切る

パソコンの電源を切ります。

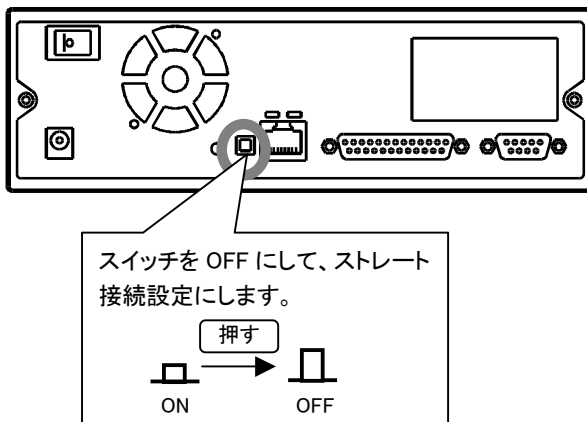
1 パソコンの電源を切ります。

WindowsおよびMac OSを終了（シャットダウン）し、パソコンの電源を切ります。

2 パソコンに接続していたLANケーブルを取り外します。

ステップ4: ハブやモデム・TA およびプリンタを接続する

ここでは、ハブを介してネットワークを構成する例を説明します。
まず、本製品とハブを接続し、その後、本製品にモデム・TAやプリンタを接続します。

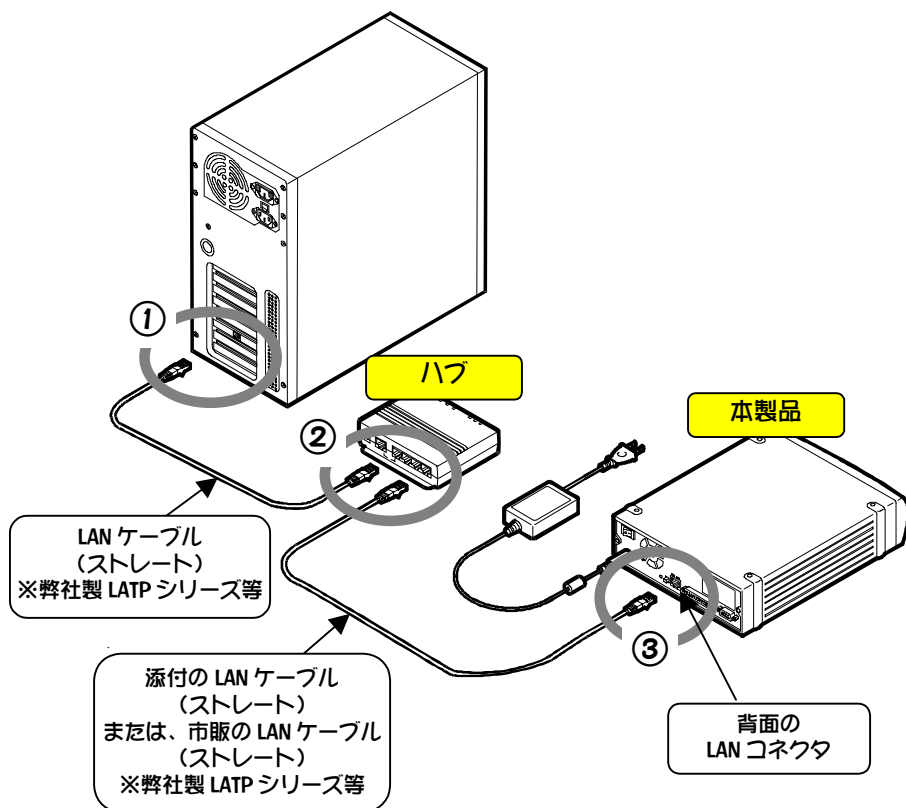
1 本製品をハブに接続するために、本製品背面の[デイジーチェーン]スイッチをOFFにして「ストレート接続用」に切り替えます。

※ハブと本製品を直接接続する場合は、ストレート接続する必要があります。
本製品では、[デイジーチェーン] ボタンを押すことで、[ストレート接続] に切り替わりますので、そのまま添付のストレートケーブルを接続してください。

2 パソコンとハブを接続します。

パソコンのLANコネクタとハブのLANコネクタをストレートケーブルで接続します。（**以下の①、②**）

本製品とハブを接続します。

ハブのLANコネクタと本製品のLANコネクタを添付のストレートケーブルまたは市販のLANケーブル（ストレート）で接続します。（**以下の②、③**）

・ハブに接続する

注意！

ハブとパソコンおよびハブと本製品との接続は、ハブの取扱説明書を参照してください。

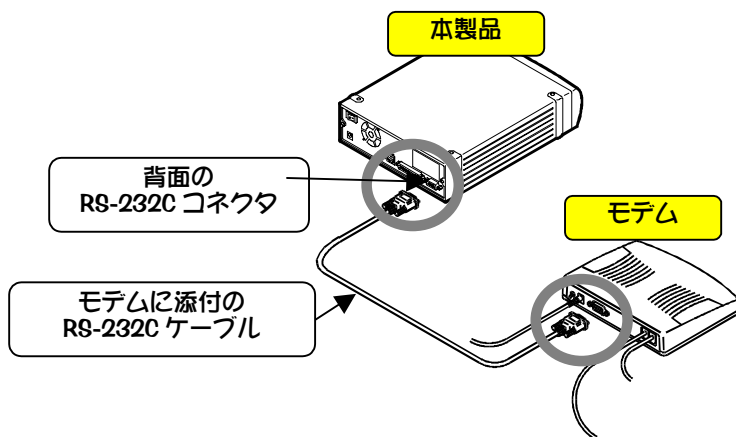
3 ・本製品にモデムや TA を接続する場合

以下を参照して本製品とモデムや TA を接続します。

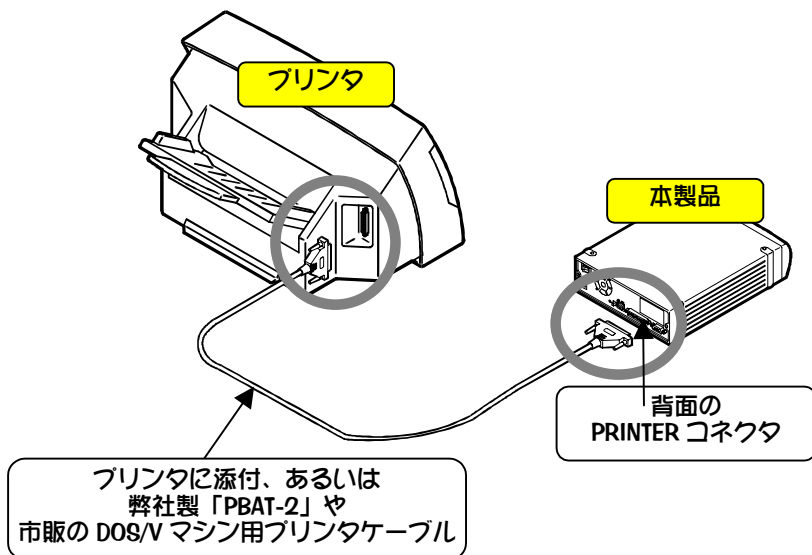
・本製品にプリンタを接続する場合

次ページを参照して本製品とプリンタを接続します。

・モデムや TA を接続する場合

（モデムを接続する例）

注意！

モデムや TA との接続には、モデムおよび TA の取扱説明書も参照してください。

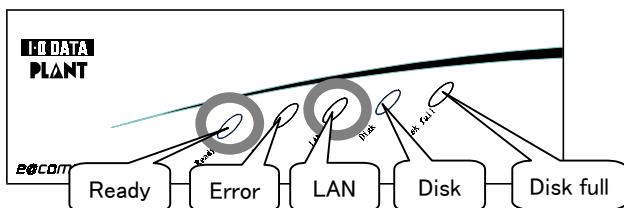
・プリンタを接続する場合

注意！

プリンタとの接続には、プリンタの取扱説明書も参照してください。

ステップ5： すべての機器の電源を入れる

すべての接続が終了したら、すべての機器とパソコンの電源を入れましょう。

1 ハブやモデム・TAおよびプリンタの電源を入れます。

2 本製品背面の電源スイッチ（POWER SWITCH）を押して電源を入れます。
しばらくすると（約1分ほど）、［Ready］ランプが点灯し、［LAN］ランプが点滅します。
起動完了後、“ピッ”と音がします。確認してください。

3 本製品が完全に起動したことを確認後、パソコンの電源を入れます。

以上で管理者が行う設定および接続は終了です。
管理者は、次ページ【12. ハードディスクのデータの保守】～【13. その他の管理上の注意】（82 ページ）を確認の上、【3 使ってみよう（ユーザの設定）】（83 ページ）を参照して、ユーザ側の設定を行ってください。

本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、予め本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。

１２．ハードディスクのデータの保守

本製品のハードディスクのデータは、万一に備えて、定期的にバックアップすることをおすすめします。万一、本製品が故障した場合、データを復旧することができません。

データのバックアップはネットワーク経由でバックアップ用のハードディスク等にバックアップしてください。
次ページ以降に、Windows および Mac OS でのデータのバックアップ方法を記載しております。参考として、ご覧ください。

弊社修理センターでは、データ復旧サービスは行っておりません。　※故障した場合、データの復旧はできなくなります。
万一に備えて、こまめにデータをバックアップするようにしてください。

本製品を修理センターに送付された場合、ハードディスク内のデータはすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

参考1:Windows でバッチファイルを使ってバックアップする方法

ここでは、Widndows 上から本製品の PUBLIC フォルダ以下の内容をパソコンのハードディスク上にある BACKUP というフォルダにバックアップする方法を例として説明します。

注意!

・共有フォルダが複数ある場合は、共有フォルダごとにドライブ割り当てを行う必要があります。
・保存先のハードディスクの空き容量を事前にチェックしてからバックアップしてください。

1 管理者権限(admin)でネットワーク コンピュータ(またはマイ ネットワーク)を開き、本製品のサーバ名(出荷時:loxxxxxx)の下のpublicフォルダを表示させます。

2 publicフォルダを右クリックし、ドライブ割り当てを行います。(例としてNドライブを割り当てることにします。)

3 以下のようなバッチファイル (例:BACKUP.BAT)を作成します。

(BACKUP.BAT ファイルの内容)

```
XCOPY N: C:¥BACKUP /E
```

/Eはサブディレクトリが空であってもコピーするというオプションです。

4 MS-DOSプロンプトまたはコマンドプロンプトから実行します。

以下の例ではCドライブのルートにBACKUP.BATがあることにしています。

例)　　C:¥>backup

参考2:Mac OS で AppleScript を使ってバックアップする方法

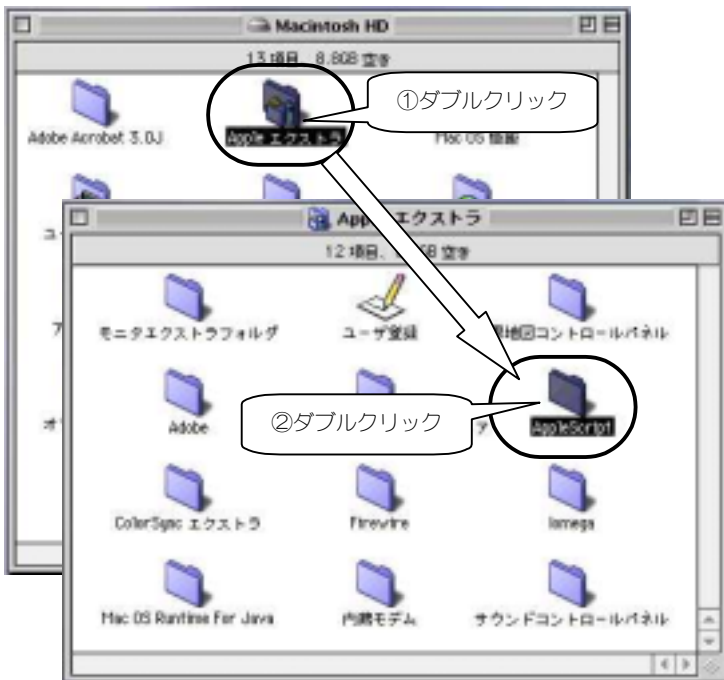
ここでは、Mac OS 上から本製品の PUBLIC フォルダ以下の内容をパソコンの MacintoshHD という名称のローカルハードディスクへバックアップ(コピー)する方法を例として説明します。

注意!

・以下の例では MacintoshHD に public というフォルダが既に存在する場合には、削除を行ってからコピーを開始する設定となっています。
毎日、別フォルダへバックアップを取り、過去1週間分のバックアップデータを残しておきたい場合等は個別にスクリプトファイルを用意する等の工夫をして対処してください。

・以下の例の場合は、public がハードディスクとして、デスクトップ上にマウントされている必要があります。

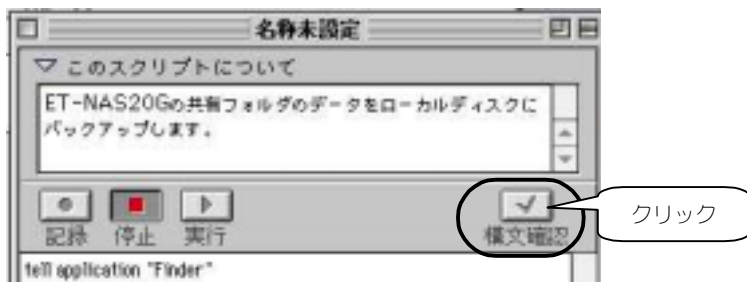
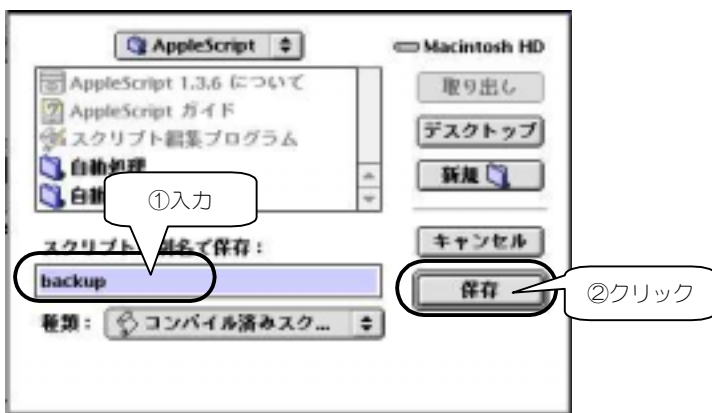
・保存先のハードディスクの空き容量を事前にチェックしてからバックアップしてください。

1 [Macintosh HD]→[Apple エクストラ]→[AppleScript]を開きます。

2 ［スクリプト編集プログラム］を起動します。

3 以下のように入力します。

ET-NAS20G の共有フォルダのデータをローカルディスクにバックアップします。

```
tell application "Finder"
	activate
	try
		delete {folder "public" of disk "Macintosh HD"}
		copy {disk "public"} to disk "Macintosh HD"
	on error
		copy {disk "public"} to disk "Macintosh HD"
	end try
end tell
```

4 [構文確認]ボタンをクリックしてエラーが出ないことを確認します。

5 [ファイル]→[保存]を選択し、任意の名称で保存します。

6 [ファイル]→[別名で保存]を選択します。

7 手順5で付けた名前とは別の名称を入力し、[種類]では[(classic)アプリケーション]を選択して保存します。

8 バックアップを行います。

実際のバックアップ作業では、手順7で保存したスクリプトファイルを使用します。
作成したスクリプトファイルをダブルクリックすると実行するかどうか聞いてきますので、[実行]ボタンをクリックするとバックアップ（コピー）が始まります。

スクリプトファイルの変更の必要が生じた際は、手順5で保存したスクリプトファイルを使用します。

１３．その他の管理上の注意

本製品をより快適にご使用いただくために、管理者は以下の事項をお守りください。

・管理者およびユーザのパスワードは本人以外に漏らさないようにしてください。

・管理者のみがユーザの追加・削除を行うようにしてください。

・本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、予め本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。

本製品は、Linux を OS としています。
本製品を使用しているプログラムのソースコードが、HDD1の下の source フォルダにおいてあります。ネットワーク上から、管理者権限で本製品にアクセスすれば、読むことができます。

使ってみよう（ユーザの設定）

この章では、【2 設定する】（7ページ）で設定した本製品を、ユーザが使用する場合の設定について説明します。すべてのユーザが行います。

P84　ユーザの設定手順の流れ

ユーザの設定手順の流れを説明します。

P85　ユーザが最初に設定すること

ユーザのパソコンのTCP/IPおよびAppleTalkの設定手順について説明します。

ステップ１：パソコンをハブに接続する
ステップ２：Windowsユーザの最初の設定
ステップ３：Mac OSユーザの最初の設定

P95　機器別の設定

ユーザの設定手順の流れ

最初の設定

ユーザは、最初にパソコンのTCP/IPおよびAppleTalkを設定します。

【ユーザが最初に設定すること】(85ページ)

機器別の設定

ユーザが使用する機器別の設定を行います。

①ハードディスクを使う場合 **【ハードディスクをみんなで使う場合】**(95ページ)

- Windowsで使うには
- Mac OSで使うには

②インターネット接続を共有する場合

【インターネットにみんなでアクセスする場合】(102ページ)

- Windowsで使うには
- Mac OSで使うには
- プロキシの設定を解除する

③プリンタを共有する場合 **【プリンタをみんなで使う場合】**(115ページ)

- Windowsで使うには
- Mac OSで使うには

ユーザが最初に設定すること

ユーザが本製品を使用する前に、まず、パソコンをハブに接続し、パソコンの TCP/IP（IP アドレス）および AppleTalk の設定を行います。

ステップ1： パソコンをハブに接続する

ユーザ側のパソコンをハブに接続します。

1 **パソコンの電源を切ります。**

WindowsおよびMac OSを終了（シャットダウン）し、パソコンの電源を切ります。

2 **パソコンとハブを接続します。**

パソコンのLANコネクタとハブのLANコネクタをストレートケーブルで接続します。

3 **ハブに接続したパソコンの電源を入れます。**

ステップ2： Windows ユーザの最初の設定

本製品を使用するWindowsユーザは、TCP/IPの設定が必要です。

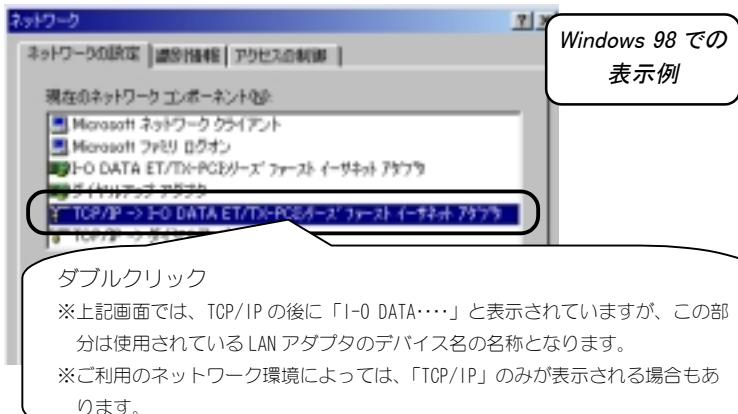
	Windows ユーザの設定
ハードディスクを使用する場合	TCP/IP の設定が必要 （以下の手順参照）
インターネットを使用する場合	
プリンタを使用する場合	

● Windows Me/98/95の場合	以下を参照してください。
● Windows 2000の場合	88ページを参照してください。
● Windows NT 4.0の場合	90ページを参照してください。

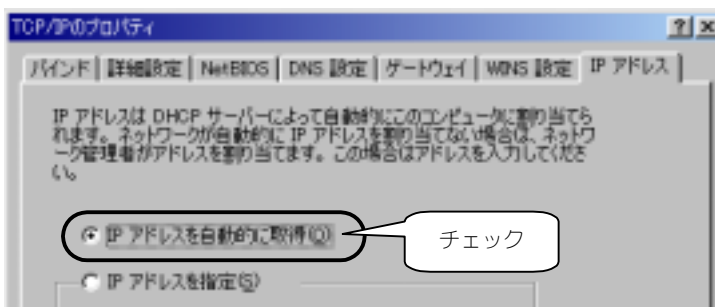
Windows Me/98/95 の場合

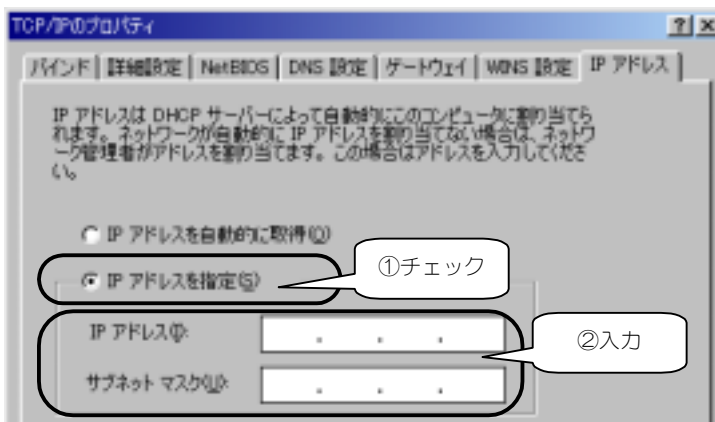
1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

2 ［TCP/IP］をダブルクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、［TCP/IP－>xxxxxxxx］をダブルクリックします。（xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。）

3 ［TCP/IPのプロパティ］画面の［IPアドレス］タブでIPアドレスの設定を行い、［OK］ボタンをクリックします。
設定については、管理者にご確認ください。

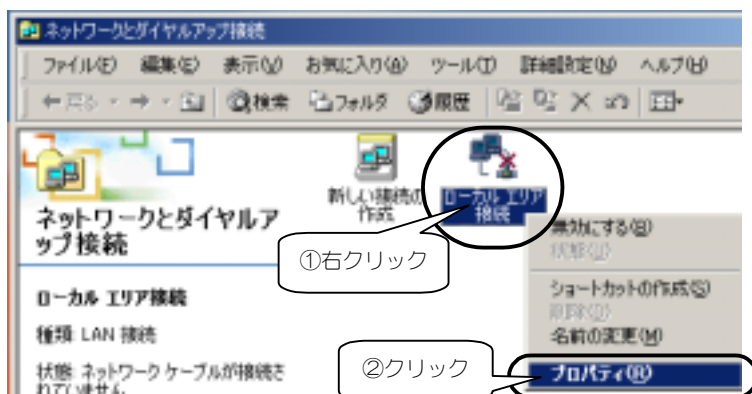
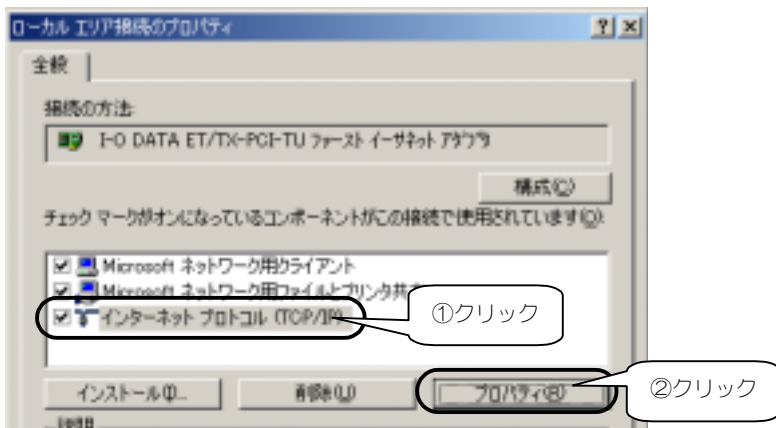
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

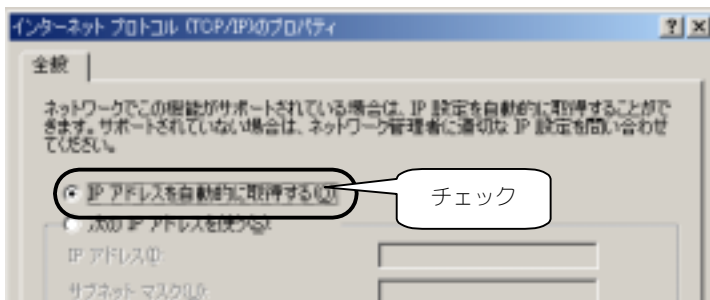
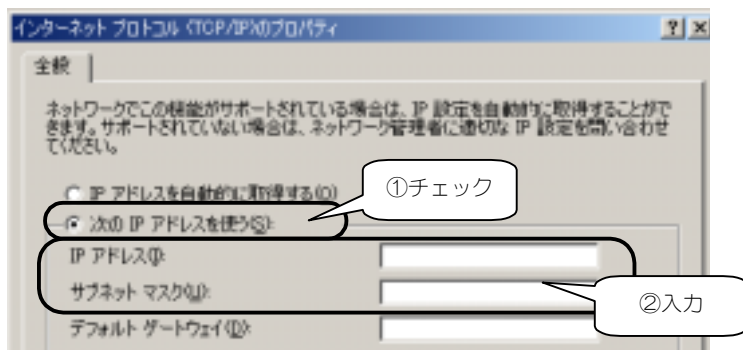
→　［IP アドレスを自動的に取得］を設定します。

・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

→　IP アドレスを手動で入力します。

Windows 2000 の場合

1 Administoratorr権限でWindows 2000にログインします。

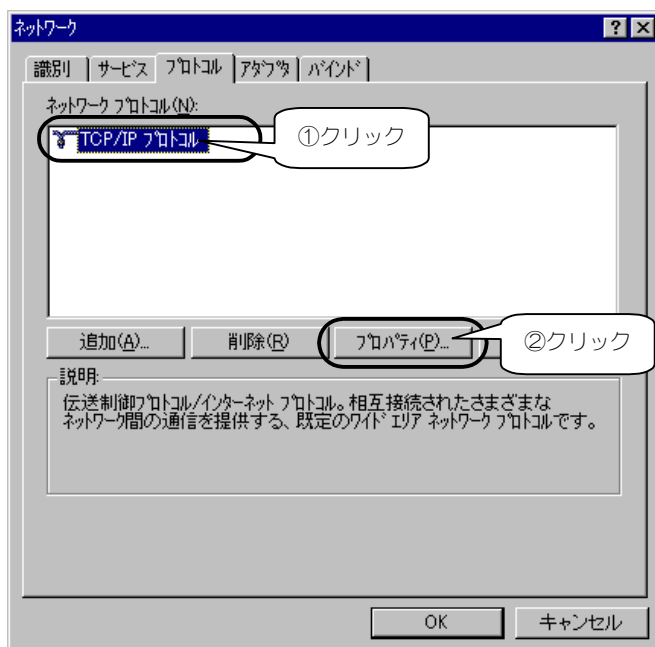
2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカル エリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 ［インターネット プロトコル（TCP/IP）のプロパティ］画面でIPアドレスの設定を行い、［OK］ボタンをクリックします。
設定については、管理者にご確認ください。

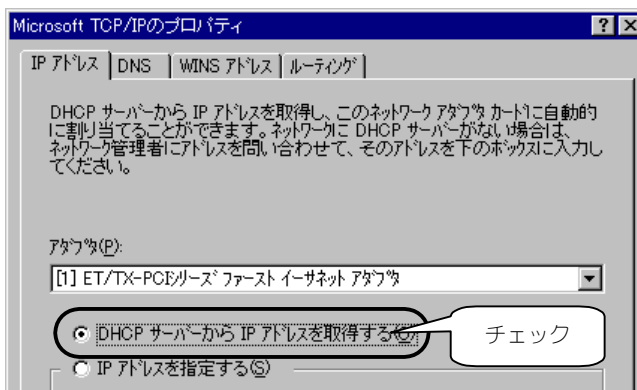
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）
　→　［IP アドレスを自動的に取得］を設定します。

・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）
　→　IP アドレスを手動で入力します。

Windows NT 4.0 の場合

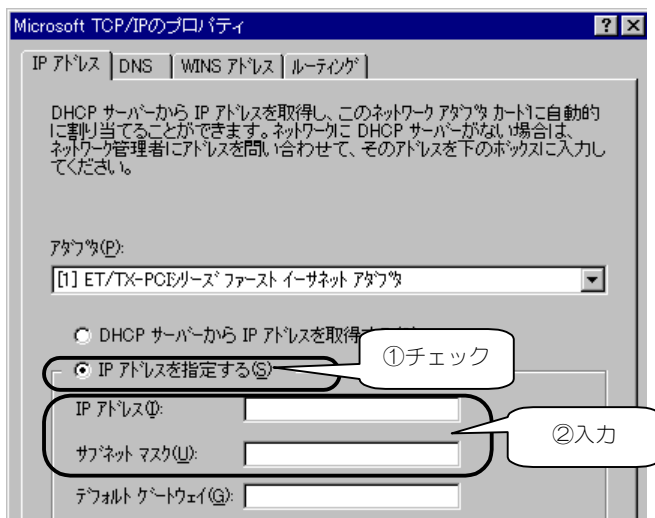
1 Administorator権限でWindows NT 4.0にログインします。

2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

3 [TCP/IP プロトコル]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

4 ［TCP/IPのプロパティ］画面の［IPアドレス］タブでIPアドレスの設定を行い、［OK］ボタンをクリックします。
設定については、管理者にご確認ください。

・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

→ ［DHCP サーバから IP アドレスを取得する］を設定します。

・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

→ IP アドレスを手動で入力します。

ステップ3： Mac OS ユーザの最初の設定

本製品を使用するMac OSユーザは、使用する機器に応じて、TCP/IPまたはAppleTalkを有効にする必要があります。

	Mac OS ユーザの設定
ハードディスクを使用する場合	TCP/IP または AppleTalk のいずれかを有効にする設定が必要
インターネットを使用する場合	TCP/IP を有効にする設定が必要 （AppleTalk ではインターネットを利用できません。）
プリンタを使用する場合	AppleTalk を有効にする設定が必要 （TCP/IP ではプリンタを利用できません。）

※TCP/IP と AppleTalk の両方を使用する場合は、両方の設定が必要です。

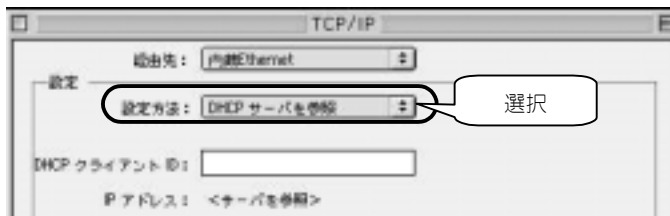
- TCP/IPを有効にする場合　　以下を参照してください。
- AppleTalkを有効にする場合　　94ページを参照してください。

TCP/IP を有効にする場合

1 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］アイコンをダブルクリックします。

2 ［TCP/IP］画面のIPアドレスを設定します。

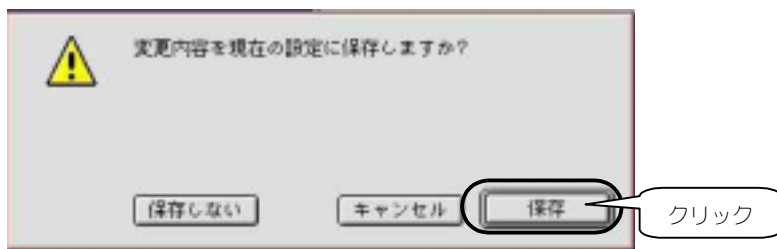
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

→　「DHCP サーバを参照」にします。

・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

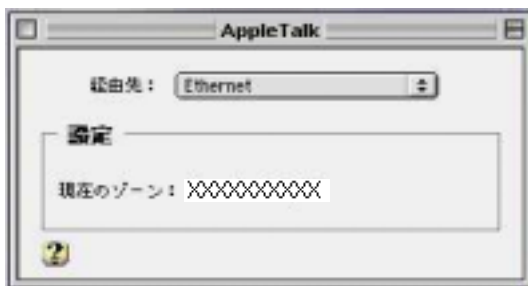
→　[IP アドレス] や [ルータアドレス] [ネームサーバアドレス] を手動で入力します。

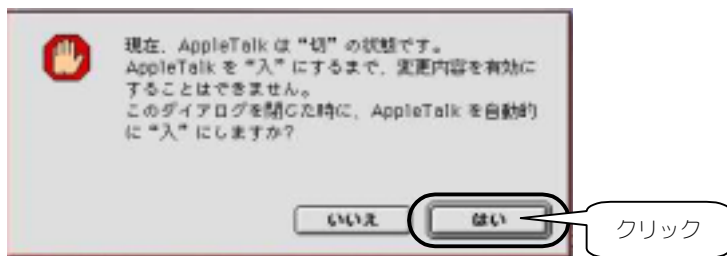
項目	説明
IP アドレス サブネットマスク	ネットワーク環境に応じて設定してください。 詳細は、ネットワーク管理者にご確認ください。
ルータアドレス	本製品の IP アドレスを入力します。 詳細は、本製品の管理者にご確認ください。
ネームサーバアドレス	インターネットに接続する場合は、プロバイダから案内されているプロバイダの IP アドレス(DNS アドレス)を入力します。
検索ドメイン名	インターネットに接続する場合は、プロバイダから案内されている、プロバイダのドメイン（DNS サーバ名）を入力します。

上記の[ルータアドレス]の値は、インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスの値となります。

3 画面を閉じて設定を保存します。

AppleTalk を有効にする場合

1 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]アイコンをダブルクリックします。

●既に有効になっている場合

●有効になっていない場合

［はい］ボタンをクリックして有効にします。

《機器別の設定》
①ハードディスクをみんなで使う場合

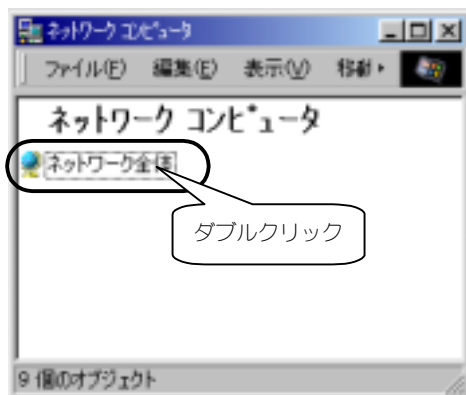
ここでは、本製品のハードディスクにアクセスするためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、ユーザはハードディスクを使用できるようになります。

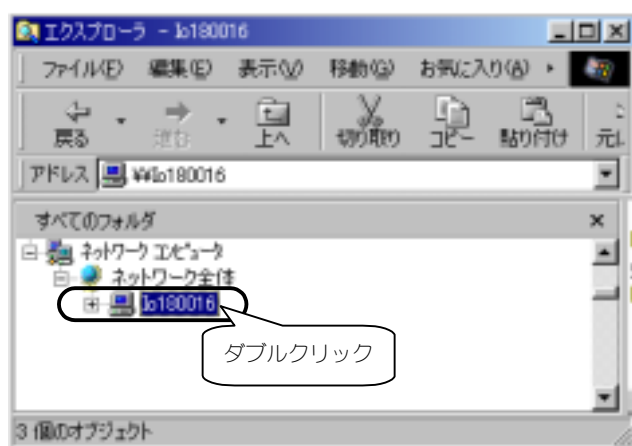
● Windowsをお使いの場合	以下を参照してください。
● Mac OSをお使いの場合	97ページを参照してください。

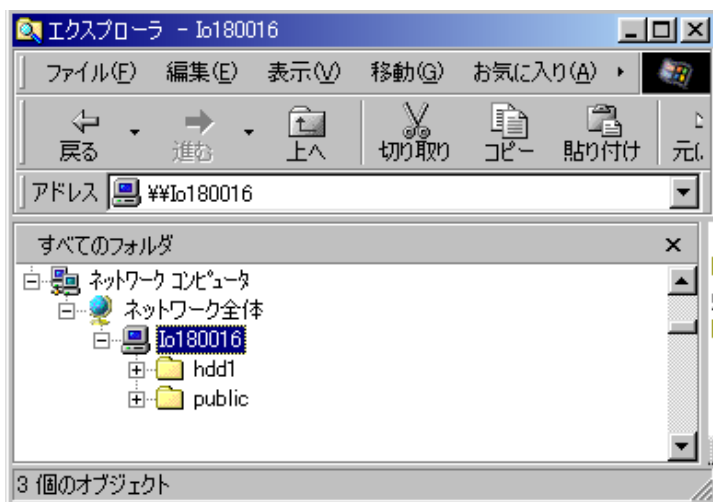
Windows で使うには

Windowsユーザが本製品のハードディスクを使用するには、［ネットワーク コンピュータ］アイコン（Windows MeおよびWindows 2000では、［マイ ネットワーク］）から、管理者が設定した共有フォルダにアクセスして使用できます。

1 デスクトップ上の［ネットワーク コンピュータ］アイコン（Windows MeおよびWindows 2000では、［マイ ネットワーク］）をダブルクリックします。

2 ［ネットワーク全体］をダブルクリックします。

3 表示されている本製品のサーバ名をダブルクリックします。

※本製品のサーバ名は管理者にご確認ください。

4 サーバ名の下に表示されている共有名にアクセスできます。

※ユーザ名、パスワードについては、管理者にご確認ください。

Mac OS で使うには

Mac OSユーザが本製品のハードディスクを使用するには、TCP/IPまたはAppleTalkのいずれかでハードディスクへのアクセスの設定が必要です。
どちらの設定手順でも使用できます。（【Mac OSユーザの最初の設定】(92ページ)で一方のみを有効にした場合は、有効にした方で設定してください。）

● TCP/IPで設定する場合	以下を参照してください。
● AppleTalkで設定する場合	99ページを参照してください。

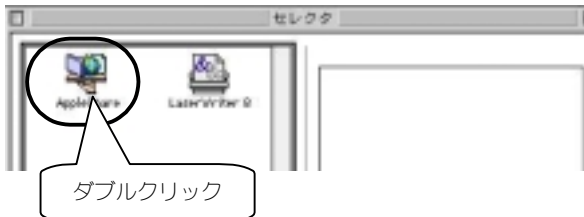
注意！

**・インターネット接続とプリンタを同時に使用したい場合での、ハードディスクの設定は、TCP/IP または AppleTalk のいずれかのみの設定でアクセスできます。
両方の設定を行う必要はありません。
（インターネット接続を行う場合は TCP/IP、プリンタを使用する場合は AppleTalk の設定が必要です。）**

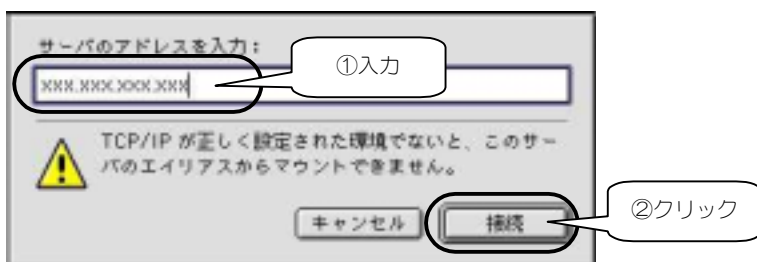
・本製品を DHCP クライアントに設定している場合は、99 ページの AppleTalk での設定でアクセスしてください。

TCP/IP を使ってハードディスクにアクセスする場合

1 ［アップルメニュー］→［セレクタ］を順にクリックします。

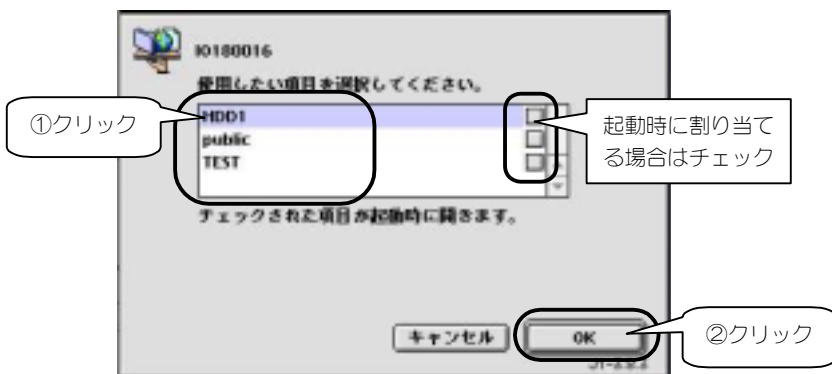
2 ［セレクタ］画面の［AppleShare］アイコンをダブルクリックします。

3 ［サーバのIPアドレス］ボタンをクリックします。

4 ［サーバのアドレスを入力：］に本製品のIPアドレスを入力し、［接続］ボタンをクリックします。

※本製品のIPアドレスは管理者にご確認ください。
（本製品を出荷時設定のまま使用している場合は、「192.168.0.2」となります。）

5 以下の画面で、［名前］と［パスワード］を入力後、［接続］ボタンをクリックします。

※［名前］と［パスワード］については、本製品の管理者にご確認ください。
（管理者が【ステップ2　ユーザを登録する】(53ページ)で登録した［名前］と［パスワード］を入力します。）

6 使用したい項目をクリックして、［OK］ボタンをクリックします。

（パソコン起動時に割り当てたい場合は、□にチェックを入れてください。）

以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

AppleTalk を使ってハードディスクにアクセスする場合

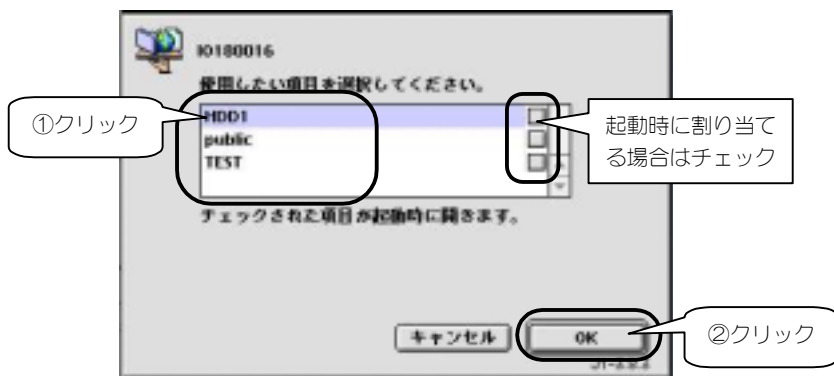
1 ［アップルメニュー］→［セレクタ］を順にクリックします。

2 ［セレクタ］画面の［AppleTalk］の［使用］をチェックします。

3 ［AppleShare］アイコンをダブルクリックします。

4 ［ファイルサーバの選択］項目で本製品のサーバ名をクリックし、［OK］ボタンをクリックします。

※本製品のサーバ名は管理者にご確認ください。

5 使用したい項目をクリックして、[OK]ボタンをクリックします。
（パソコン起動時に割り当てたい場合は、□にチェックを入れてください。）

以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

《機器別の設定》
②インターネットにみんなでアクセスする場合

ここでは、本製品に接続したモデム・TA を使ってインターネットにアクセスするためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、Web ブラウザを使用してインターネットにアクセスできます。

- Windowsをお使いの場合　　次ページを参照してください。
- Mac OSをお使いの場合　　110ページを参照してください。

Windows で使うには

Windowsユーザがインターネットへアクセスするには、[DNS]や[ゲートウェイ]の設定が必要です。

・ネットワーク上にDHCPサーバがある場合 → 以下を参照してください。
・ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合
Windows Me/98/95の場合 → 次ページを参照してください。
Windows 2000の場合 → 106ページを参照してください。
Windows NT 4.0の場合 → 108ページを参照してください。

DHCP サーバがある場合

（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

ネットワーク上にDHCPサーバがある場合は、86ページでのIPアドレスの設定で、[IPアドレスを自動的に取得]に設定するだけでインターネットを使用できます。

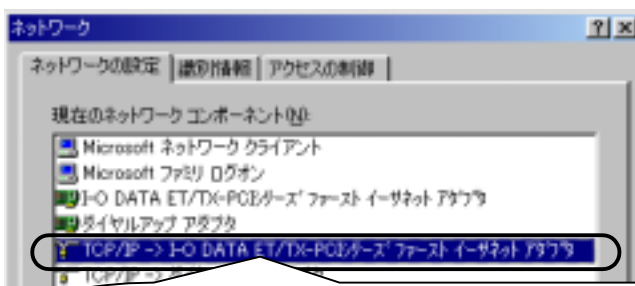
本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
【プロキシの設定を解除する】(111 ページ)を参照して、プロキシの設定を解除してください。

ネットワーク上に DHCP サーバがある場合、[DNS]と[ゲートウェイ]の IP アドレスの値は、DHCP サーバより取得します。そのため、ユーザ側のパソコンで特に設定する必要はありません。
（DHCP サーバ側で[DNS]と[ゲートウェイ]の設定が必要です。本製品の場合での[DNS]と[ゲートウェイ]の設定は、33 ページを参照してください。）

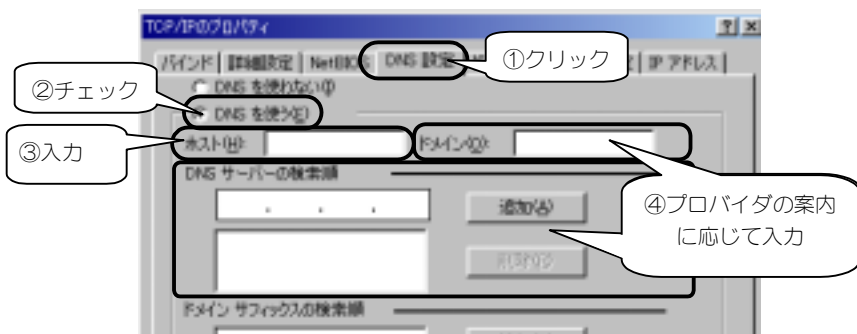
DHCP サーバが無い場合（Windows Me/98/95 の手順）

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要があります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

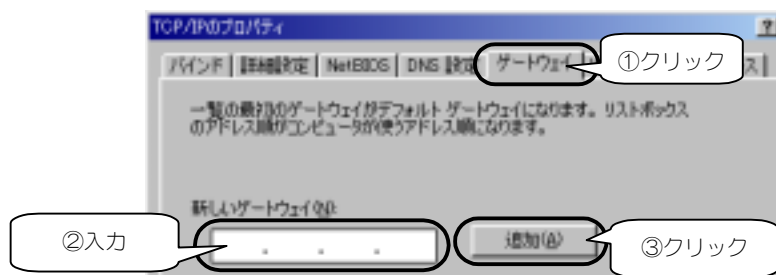
2 ［TCP/IP］をダブルクリックします。

※上記画面では、TCP/IP の後に「I-O DATA････」と表示されていますが、この部分は使用されている LAN アダプタのデバイス名の名称となります。

※ご利用のネットワーク環境によっては、「TCP/IP」のみが表示される場合もあります。

3 ［DNS設定］タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSを設定してください。

ホスト	他のコンピュータと重複しない任意の名前を入力してください。 通常は、コンピュータ名と同一の文字列を指定します。
ドメイン	プロバイダの案内に応じて入力してください。
DNS サーバーの検索順	

4 ［ゲートウェイ］タブをクリックし、［新しいゲートウェイ］に本製品のIPアドレスを設定してください。

［新しいゲートウェイ］に本製品のIPアドレスを入力後、［追加］ボタンをクリックしてください。本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。

参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスがゲートウェイの値となります。

後は、お使いの Web ブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
【プロキシの設定を解除する】(111 ページ)を参照して、プロキシの設定を解除してください。

DHCP サーバが無い場合（Windows 2000 の手順）

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要がります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1 Administorator権限でWindows 2000にログインします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカル エリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

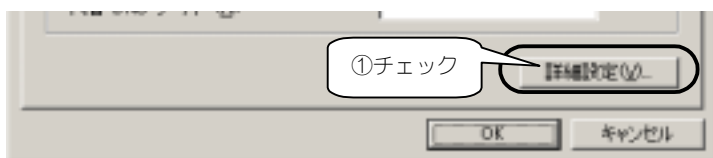
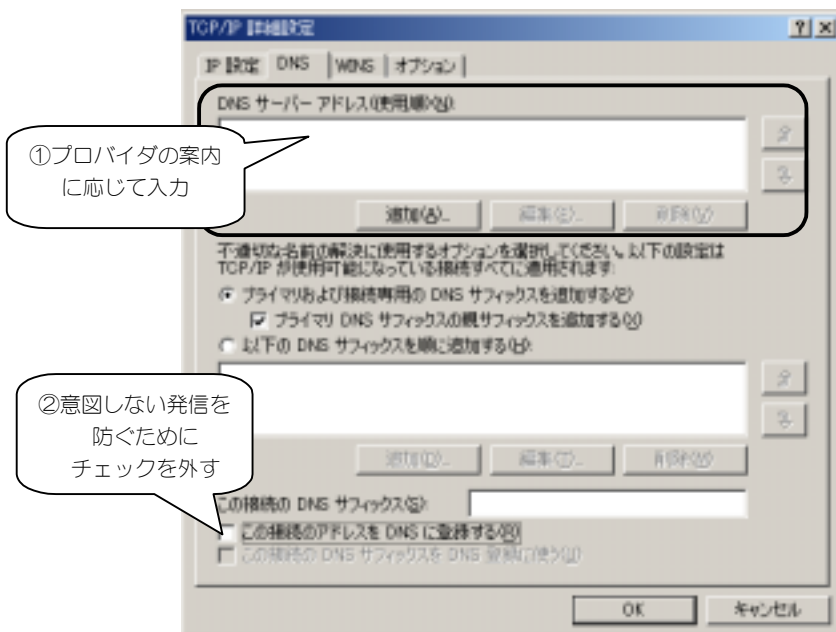
4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 [IPアドレス]タブで、[デフォルトゲートウェイ]に本製品のIPアドレスを設定してください。

本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。

参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスがゲートウェイの値となります。

6 [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面の[詳細設定]ボタンをクリックします。

7 [DNS]タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSの設定を行ってください。また、[この接続のアドレスをDNSに・・・・]のチェックを外してください。

後は、お使いのWebブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
【プロキシの設定を解除する】(111 ページ)を参照して、プロキシの設定を解除してください。

DHCP サーバが無い場合（Windows NT 4.0 の手順）

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要がります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1. Administorator権限でWindows NT 4.0にログインします。

2. ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3. ［TCP/IP プロトコル］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

4. ［IPアドレス］タブで、［デフォルトゲートウェイ］に本製品のIPアドレスを設定してください。

   本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスがゲートウェイの値となります。

5 ［DNS設定］タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSを設定してください。

ホスト名	他のコンピュータと重複しない任意の名前を入力してください。 通常は、コンピュータ名と同一の文字列を指定します。
ドメイン	プロバイダの案内に応じて入力してください。
DNS サービスの検索順	

後は、お使いの Web ブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
【プロキシの設定を解除する】(111 ページ)を参照して、プロキシの設定を解除してください。

Mac OS で使うには

Mac OSユーザは、【Mac OSユーザの最初の設定】での【TCP/IPを有効にする場合】(92ページ)で［TCP/IP］を設定してあれば、後は、お使いのWebブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
【プロキシの設定を解除する】(次ページ)を参照して、プロキシの設定を解除してください。

プロキシの設定を解除する

本製品を使ってインターネットに接続する場合で、プロキシ経由で使用している場合は正常にインターネット接続ができません。
以下の手順で、設定を解除してください。

Windows をお使いの場合

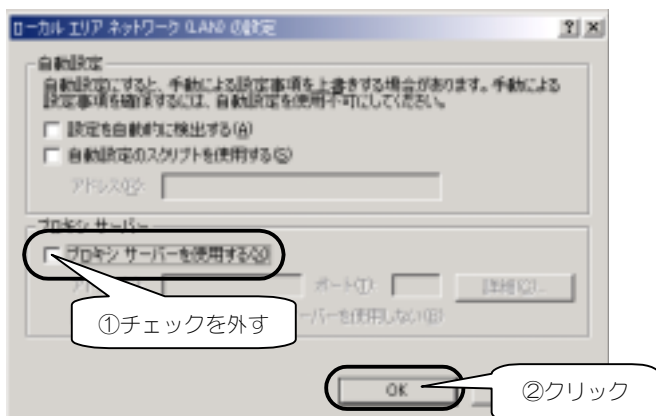
●Internet Explorer での手順

1 Internet Explorerを起動します。

2 [ツール]→[インターネット オプション]をクリックします。

3 [接続]タブをクリックします。

4 [ローカル エリア ネットワーク(LAN)の設定]の[LANの設定]ボタンをクリックします。

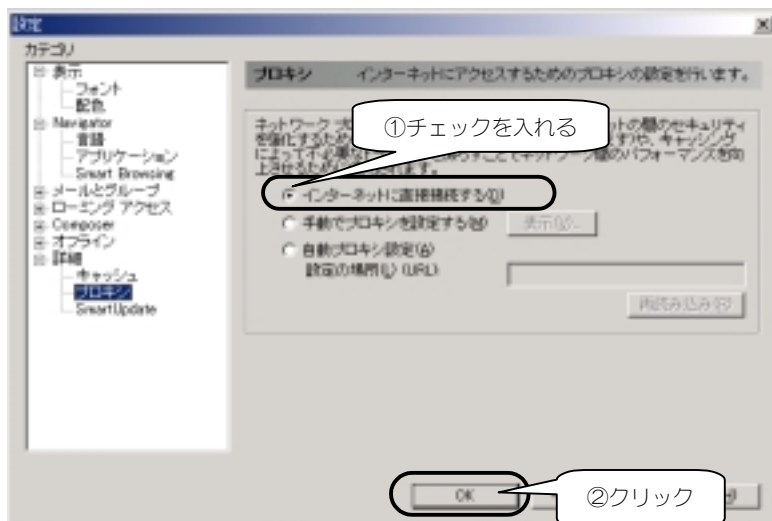
5 [プロキシ サーバーを使用する]にチェックが付いていないことを確認し、[OK]ボタンをクリックします。
チェックが付いていた場合は、外してください。

6 [インターネット オプション]画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックすれば設定終了です。

●Netscape Navigator での手順

1 Netscape Navigatorを起動します。

2 [編集]→[設定]を選択します。

3 [カテゴリ]欄で[詳細]をダブルクリックし、[プロキシ]をクリックします。

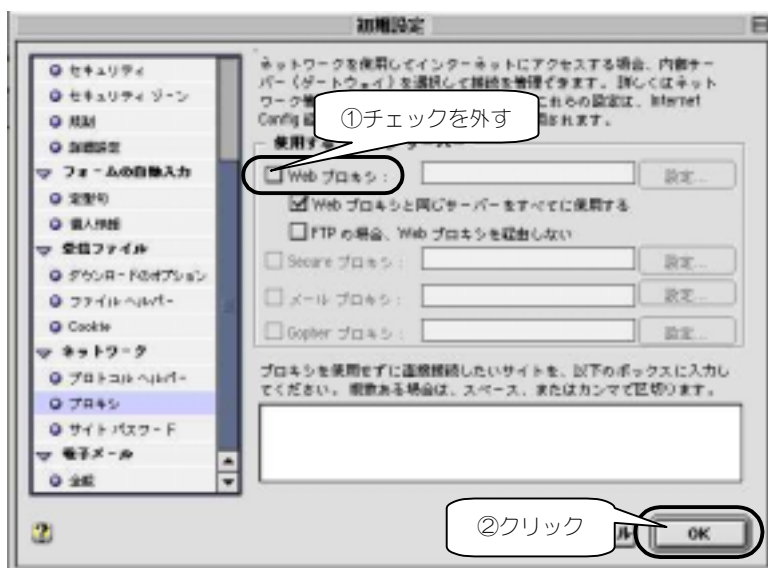
4 [インターネットに直接接続する]にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックすれば設定終了です。

Mac OS をお使いの場合

●Internet Explorer での手順

1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集]→[初期設定...]を選択します。

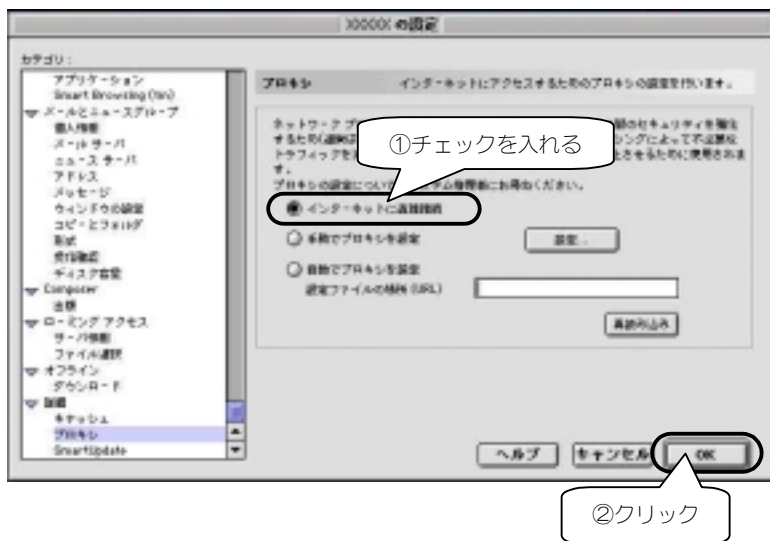
3 [▽ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

4 [Webプロキシ]にチェックが付いていないことを確認し、[OK]ボタンをクリックします。
チェックが付いていた場合は、外してください。

●Netscape Navigator での手順

1 Netscape Navigatorを起動します。

2 [編集]→[設定...]を選択します。

3 [カテゴリ]欄で[▽詳細]の[プロキシ]を選択します。

4 [インターネットに直接接続]にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックすれば設定終了です。

《機器別の設定》
③プリンタをみんなで使う場合

ここでは、本製品に接続したプリンタを使用するためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、ユーザはネットワークプリンタとして使用できるようになります。

- Windows Me/98/95をお使いの場合　以下を参照してください。
- Windows 2000をお使いの場合　119ページを参照してください。
- Windows NT 4.0をお使いの場合　119ページを参照してください。
- Mac OSをお使いの場合　121ページを参照してください。

Windows Me/98/95 で使うには

Windows ユーザは、管理者が設定したプリンタ名でプリンタを登録すれば、プリンタを使用できるようになります。
既にプリンタドライバをインストールしている場合は、そのまま以下へお進みください。
新規にプリンタドライバをインストールする場合は、プリンタの取扱説明書を参照して、お使いの OS に対応したプリンタドライバをインストール後、以下へお進みください。
※本手順の画面は、Windows 98 を例にしています。

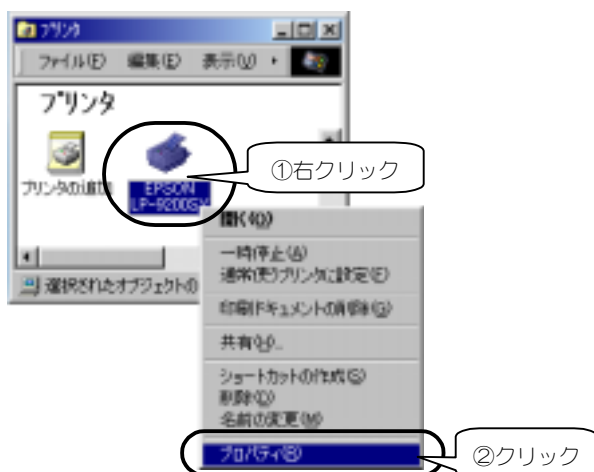
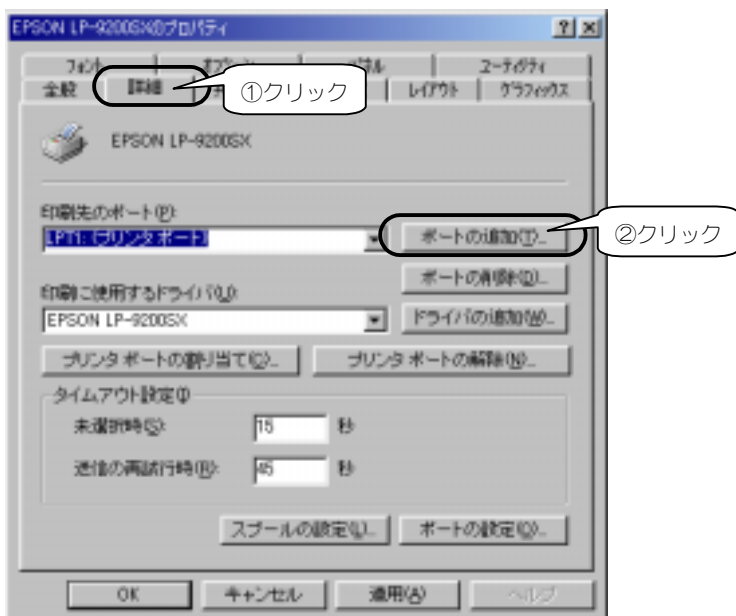
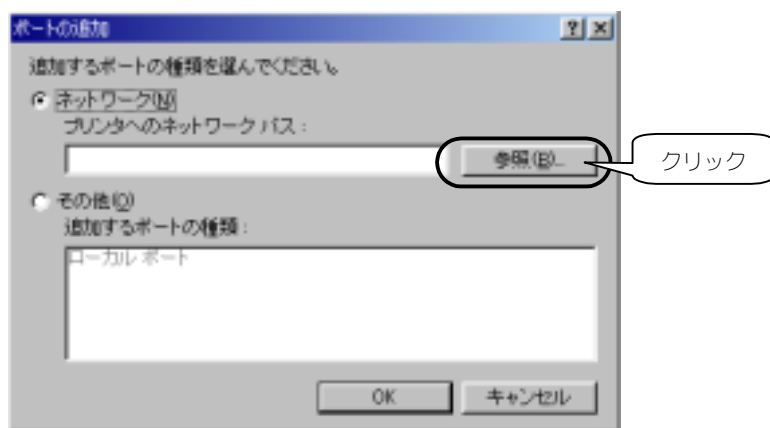
1 まず、お使いのプリンタのプリンタドライバをインストールしてください。

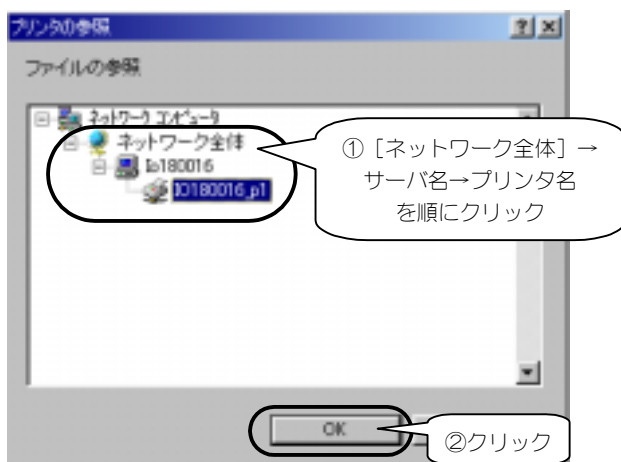
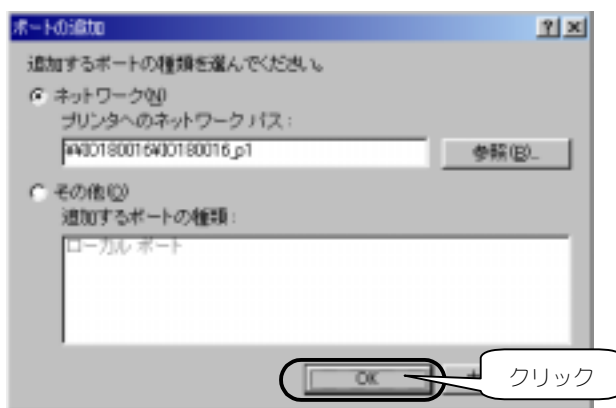
※詳細は、プリンタに付属の取扱説明書でご確認ください。

既にプリンタをインストール済みの場合は、手順 **2** へお進みください。

2 [スタート]→[設定]→[プリンタ]を順にクリックします。

3 追加しているプリンタを右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

※以下の画面はEPSON製LP-9200SXを例にしています。

4 [詳細]タブをクリックし、[ポートの追加]ボタンをクリックします。

5 ［参照］ボタンをクリックします。

6 ［ネットワーク全体］をクリックし、本製品の［サーバ名］をクリックし、続けて［ネットワークプリンタ名］をクリックし、［OK］をクリックします。

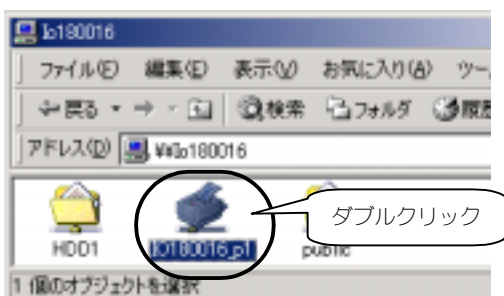
※［サーバ名］および［ネットワークプリンタ名］については、管理者にご確認ください。

7 [OK]をクリックします。

8 [OK]をクリックします。

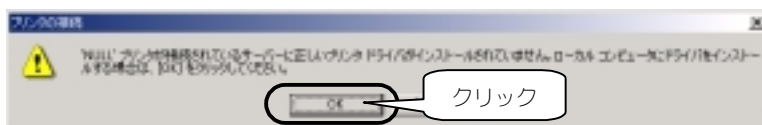
以上でプリンタの設定は終了です。

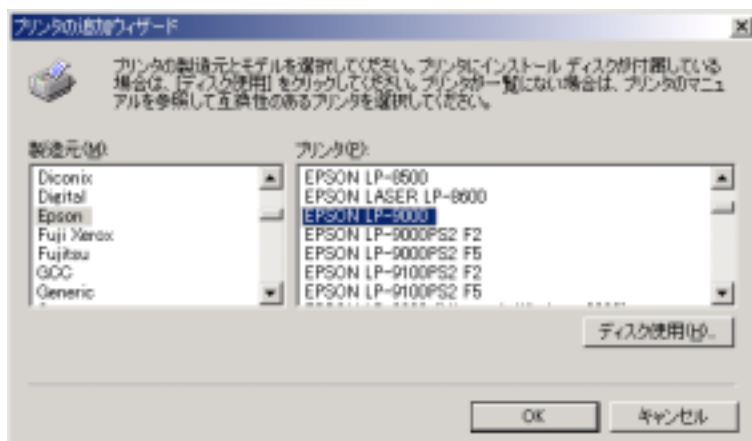
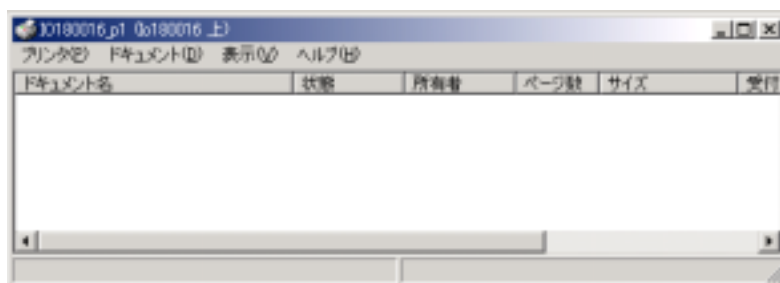
Windows 2000/NT 4.0 で使うには

1 Administorator権限でWindows 2000およびWindows NT 4.0にログインします。

2 [マイ ネットワーク](Windows NT 4.0では[ネットワークコンピュータ])→[ネットワーク全体]→”本製品のサーバ名”→“登録されているプリンタ名”を順にダブルクリックします。

※本製品のサーバ名およびプリンタ名については、本製品の管理者にご確認ください。

3 以下の画面では、[はい]ボタンをクリックします。

4 以下の画面では、[OK]ボタンをクリックします。

5 プリンタのドライバをインストールしてください。

※プリンタのドライバのインストールについては、プリンタの取扱説明書を参照してください。

6 後は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストール後、プリンタが登録されます。

以上でWindows 2000およびWindows NT 4.0でのプリンタの登録は終了です。

Mac OS で使うには

Mac OSユーザが本製品に接続したプリンタを使用するには、AppleTalkでプリンタへのアクセスの設定が必要です。

以下は、LaserWriter互換プリンタの場合の手順を説明します。

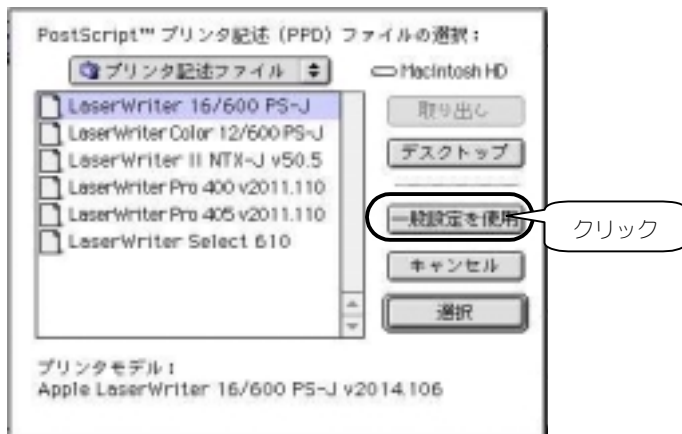
1 [アップルメニュー]→[セレクタ]を順にクリックします。

2 [セレクタ]画面の[AppleTalk]の[使用]をチェックします。

3 ［LaserWriter 8］アイコン、本製品に接続したプリンタの共有名を順にクリックし、［作成］ボタンをクリックします。

4 以下の画面で［一般設定を使用］ボタンをクリックします。

以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

付　録　1
困ったときには

P124　困ったときには<もくじ>

うまく取り付けできない、思ったように動作しないときなどには、同じ現象がないかどうか、まず、ここを参照ください。

P126　困ったときには<内容>

ここには問題の現象とその対処方法が書かれています。問題の大半はすぐに解決できることです。是非、お試しください。

困ったときには＜もくじ＞

設定時のトラブル

<table>
<tr><th>状態</th><th>参照頁</th></tr>
<tr><td>設定画面が表示されない</td><td rowspan="4">P126</td></tr>
<tr><td>設定画面で文字化けする（Mac OS のみ）</td></tr>
<tr><td>設定画面で［保存］ボタンをクリックしても、再度「管理者情報入力」を要求される（Mac OS のみ）</td></tr>
<tr><td>管理者（admin）の［パスワード］、［IP アドレス］を忘れた</td></tr>
<tr><td>文字が入力できない</td><td rowspan="4">P127</td></tr>
<tr><td>本製品を DHCP サーバに設定した環境で、Mac OS ユーザ側の［TCP/IP］画面で［DHCP サーバを参照］に設定したにもかかわらず、［TCP/IP］に IP アドレス等の情報が表示されない</td></tr>
<tr><td>本製品を DHCP クライアントに設定した場合、どんな IP アドレスが割り当てられているかわからない</td></tr>
<tr><td>［TCP/IP］が表示されない（Windows Me/98/95 の場合）</td></tr>
<tr><td>［Disk full］ランプが点灯し、［Ready］ランプと［Error］ランプが交互に点滅する（電源も切れない）</td><td>P129</td></tr>
</table>

ハードディスク使用時のトラブル

<table>
<tr><th>状態</th><th>参照頁</th></tr>
<tr><td>２バイト文字（日本語等）を使用したフォルダが文字化けする、あるいは開けない</td><td rowspan="3">P130</td></tr>
<tr><td>Windows 上からハードディスクを参照した場合に、見覚えの無いファイルやフォルダがある</td></tr>
<tr><td>・本製品にファイルをコピーするとアーカイブ属性になる
・本製品にファイルをコピーした後に属性を変更したはずなのに変更されない</td></tr>
</table>

インターネット接続時のトラブル

状態	参照頁
勝手にダイヤルアップしてしまう	P131
フレッツ ISDN で認証がうまくいかない	P132

プリンタ使用時のトラブル

状態	参照頁
LaserWriter 互換プリンタ以外のプリンタを使用できない（Mac OS のみ）	P132

困ったときには<内容>

設定時のトラブル

設定画面が表示されない

原因　接続が正しく行われていない

対処　本製品の電源が入っているか（Readyランプが点灯しているか）、接続ケーブルが外れていないか、再度確認してください。

原因　別のネットワークで使用していたために、Webブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている

対処　Webブラウザのプロキシ経由の設定を外してください。
（手順については、111ページ参照）

設定画面で文字化けする　（Mac OS のみ）

原因　Internet Explorer のモジュールに問題がある

対処　「Text Encoding Converter」モジュールのバージョンが1.4の場合には、1.3.1を再インストールしてください。
詳細については、以下のアドレスで確認し、モジュールを入手してください。
http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/j046/7/18.htm

原因　MacOSのバージョンによっては、「Text Encoding Converter」のモジュールが無いか、または、古い場合がある

対処　以下のアドレスから上記モジュールを入手してください。
http://www.aladdinsys.com/updates/

設定画面で[保存]ボタンをクリックしても、再度「管理者情報入力」を要求される　（Mac OS のみ）

原因　Internet Explorer のバージョンが古い

対処　Internet Explorer のバージョン5以上を使用してください

管理者(Admin)の[パスワード]、[IP アドレス]を忘れた

対処　本製品背面の［RESET］（リセット）ボタンを押せば、再度新しい設定を行うことができます。

文字が入力できない

原因　入力箇所をクリックしていない
対処　一度入力したい箇所をクリックしてから入力してください。

原因　入力できない文字を入力しようとしている
対処　入力できる文字かを確認してから入力してください。

本製品をDHCPサーバに設定した環境で、Mac OSユーザ側の[TCP/IP]画面で[DHCPサーバを参照]に設定したにもかかわらず、[TCP/IP]にIPアドレス等の情報が表示されない

原因　Mac OSの仕様です。
対処　一度、ネットワーク上から本製品を参照し、再度TCP/IP画面を開いていただくとIPアドレス等の情報が表示されます。

本製品をDHCPクライアントに設定した場合、どんなIPアドレスが割り当てられているかわからない

対処　DHCPサーバ側で確認できる場合は、DHCPサーバとしてお使いの機器の取扱説明書をご確認の上お調べください。
DHCPサーバにその機能が無い場合は、管理者権限にて本製品のHDD1フォルダの下にあるIPDATAファイルの内容をご確認ください。

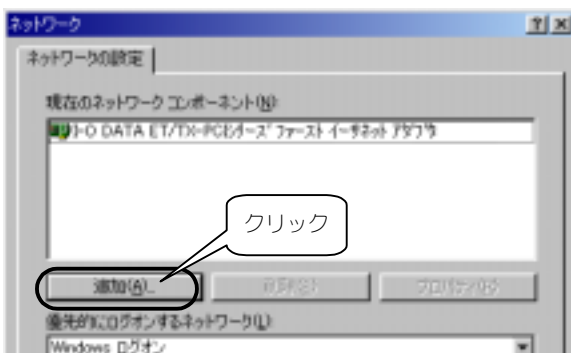
[TCP/IP]が表示されない　（Windows Me/98/95の場合）

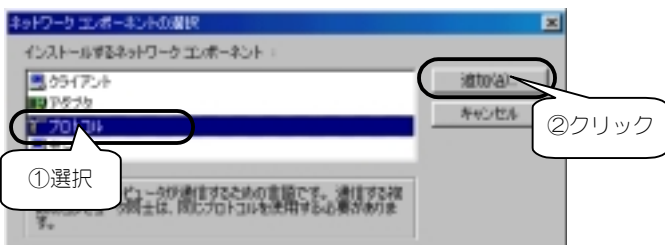
原因　TCP/IPプロトコルがインストールされていない。
対処　下記の手順でTCP/IPをインストールします。

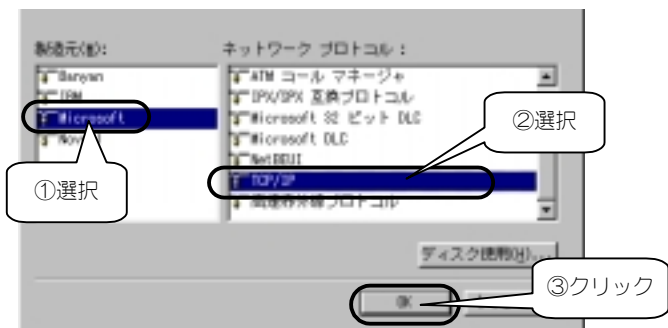
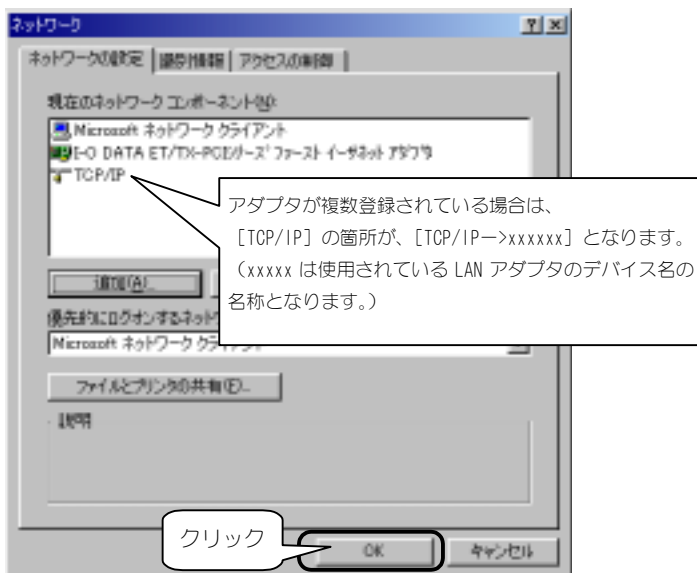
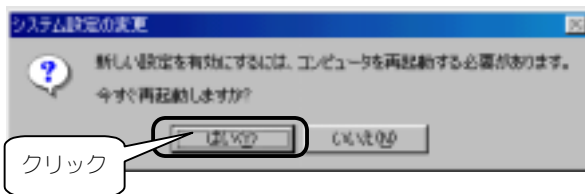
1　「ネットワーク」を起動します。
［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックし、
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2

[追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製 ET/TX-PCI シリーズを例にしています。

3

[プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4

[Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

[Disk full]ランプが点灯し、[Ready]ランプと[Error]ランプが交互に点滅する(電源も切れない)

原因	［リセット］ボタンを押しながら電源を入れた
対処	［Disk］ランプが点灯していないことを確認して、一度ACアダプタを抜き、再度ACアダプタを接続して電源を入れ直してください。 **※[リセット]ボタンを押しながら、電源を入れる操作は行わないようにしてください。**

ハードディスク使用時のトラブル

2バイト文字（日本語等）を使用したフォルダが文字化けする、あるいは開けない

原因
Windowsで作成したフォルダにMac OSからアクセスしている、あるいはMac OSで作成したフォルダにWindowsからアクセスしている

対処
WindowsとMac OSで２バイト文字を共用させることはできません。
１バイト文字（ASCII等）のフォルダ名に変更してください。

Windows 上からハードディスクを参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある

原因
Mac OSユーザがフォルダを作成したり、ファイルをコピーした可能性がある

対処
Mac OSでフォルダを作成したり、ファイルをコピーしたりすると、Windowsユーザがハードディスクを参照すると、見覚えの無いフォルダやファイルが作成されます。
Mac OSユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

・本製品にファイルをコピーするとアーカイブ属性になる
・本製品にファイルをコピーした後に属性を変更したはずなのに変更されない

原因
本製品の仕様です。

インターネット使用時のトラブル

勝手にダイヤルアップしてしまう

原因	メールやホームページを定期的にチェックするソフトやチャットソフトが常駐している
対処	常駐を解除してください。 解除方法については、各ソフトウェアの取扱説明書やヘルプを参照してください。

原因	Widows 2000の場合での［DNS］の設定に問題がある
対処	以下の手順を行ってみてください。

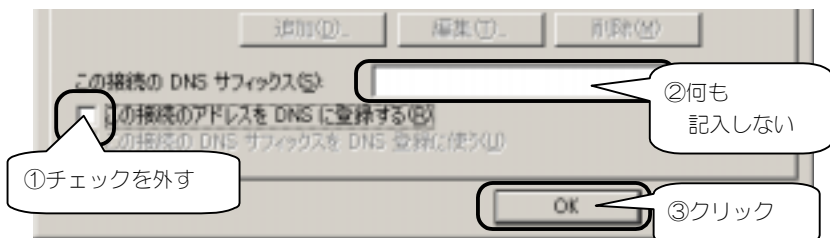
1
［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックします。

2
［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。

3
［ローカルエリア接続 x］（x には数字が入る場合があります）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

4
［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をダブルクリックし、［詳細設定］ボタンをクリックします。

5
［DNS］タブをクリックし、以下の設定を行ってください。

この接続の DNS サフィックス	何も記入しない
この接続のアドレスを DNS に登録する	チェックを外す

フレッツ ISDN で認証がうまくいかない

原因 認証の設定を［CHAP］に設定している

対処 ［PAP］に設定してください。（144ページの［インターネット］タブで［認証］項目を［PAP］に変更してください。）

プリンタ使用時のトラブル

LaserWriter 互換プリンタ以外のプリンタを使用できない（Mac OS のみ）

対処 本製品では、LaserWriter互換プリンタ以外のプリンタは保証しておりません。

付　録　２
Web 設定画面による詳細設定

Web

もくじ

Web 設定画面の起動方法

設定画面は、Web ブラウザから起動します。
詳細は、27 ページを参照してください。

＜設定画面＞

ネットワークに関する設定

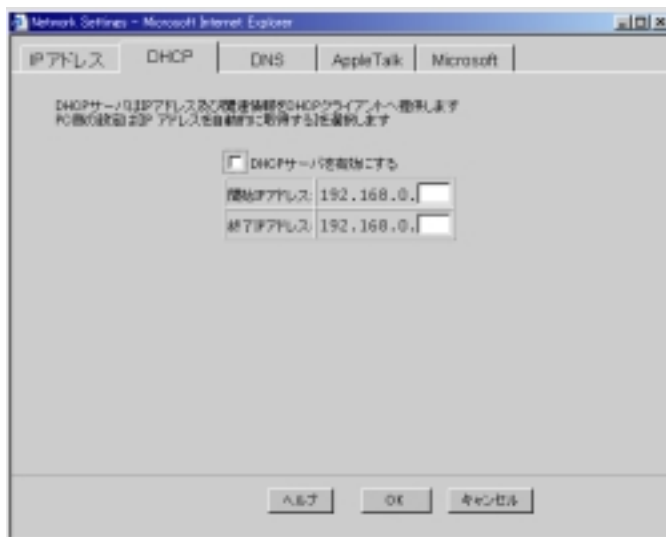
ネットワークに関する設定です。
設定画面の［ネットワーク］をクリックして行います。

［IP アドレス］・・・本製品の IP アドレスの設定

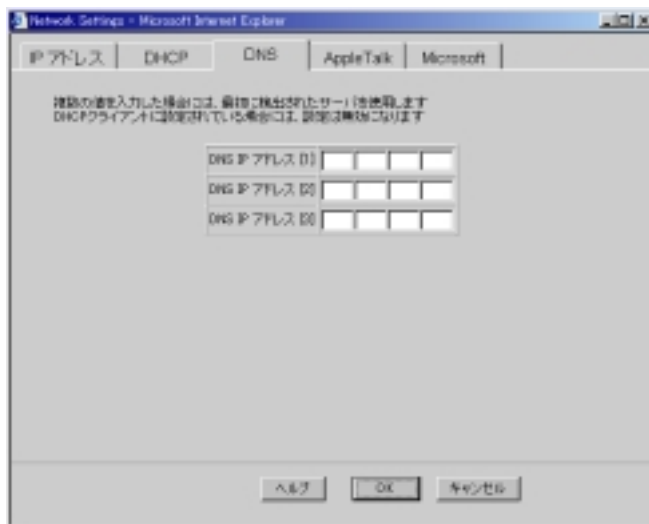
本製品は、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）クライアントとして動作させることが可能です。
お使いのネットワーク上に、Windows 2000 ServerなどのDHCPサーバがある場合は、クライアントとして登録することもできます。

IP アドレスを自動的に取得（DHCP クライアント）	ネットワーク上に DHCP サーバがある場合には選択できます。DHCP サーバはパソコンやその他の機器が起動する際に IP アドレスを提供します。 ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合は、以下の「IP アドレスを指定する」を選択し、IP アドレスを入力してください。 **注意** **ネットワーク上に DHCP サーバが無い状態で、本製品を DHCP クライアントに設定した場合、本製品を再起動後に、DHCP サーバを検出できないために、しばらくすると、初期値の[IP アドレスを指定する]の設定に戻ります。**
IP アドレスを指定する	ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合にはこちらを選択して値を入力してください。
IP アドレス	初期値：192.168.0.2 ネットワークに適した IP アドレスを入力します。 項目で使用できる値は 1～254 までです。
サブネットマスク	初期値：255.255.255.0 パソコンやネットワーク上の機器と同じサブネットマスクを使用します。
ゲートウェイ（ルータ）	初期値：空白 ネットワーク上にルータやゲートウェイが存在する場合には, その IP アドレスを入力します。 ルータやゲートウェイが存在しない場合には、空白または 0.0.0.0 に設定します。

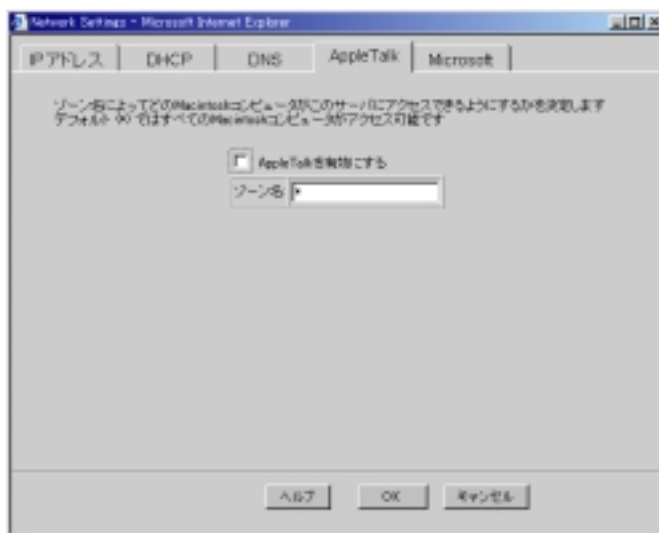
［DHCP］･･･DHCP サーバ機能の設定

本製品 は DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバとして動作させることが可能です。 DHCPサーバは IP アドレスや関連したデータをパソコンやその他のデバイスに提供します。
この機能を使用することで、ネットワークの管理を容易にできます。

DHCP サーバを 有効にする	DHCP サーバを有効/無効にします。 もし、他に DHCP サーバがある場合には、有効にしないでください。
開始 IP アドレス	DHCP サーバが提供する開始 IP アドレスを指定します。 この数値は 2～254 の間でなければなりません(最初の３つの項は 本製品の IP アドレスの値と同じ値を使用します)。
終了 IP アドレス	DHCP サーバが提供する最後の IP アドレスを指定します。

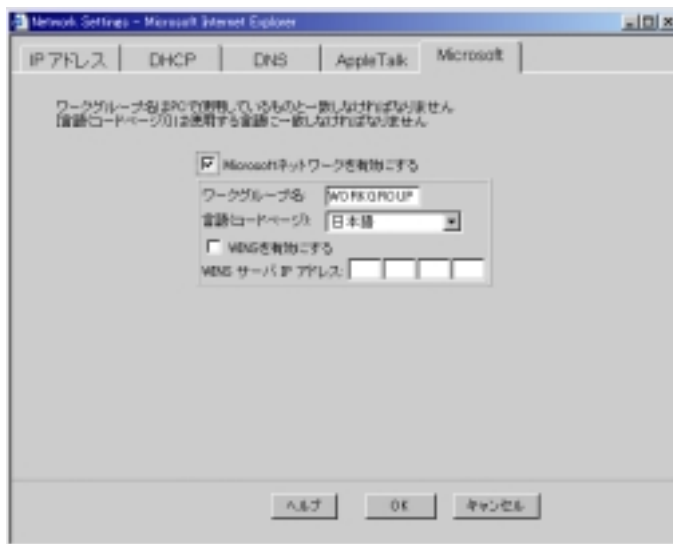
［DNS］･･･DNS アドレスの登録

DNS（Domain Name System）はインターネットアドレス（例:www.iodata.co.jp 等の文字列のアドレス)を、数字で構成されたIPアドレスに変換します。
パソコンに設定している値と同じ値を使用してください。
複数が登録されている場合には最初に検出されたサーバが使用されます。

DNS IP アドレス（1）	1つめのDNSサーバの IP アドレス
DNS IP アドレス（2）	１つ目のDNSサーバがシステムダウン等により、検出できない場合にアクセスするDNSサーバの IPアドレス
DNS IP アドレス（3）	２つ目のDNSサーバがシステムダウン等により、検出できない場合にアクセスするDNSサーバの IPアドレス

［AppleTalk］・・・AppleTalk 関連の設定

この項は Apple Macintosh コンピュータを接続する場合に必要です。

AppleTalk を 有効にする	有効になっていない場合、Mac OS ユーザは本製品にアクセスできません。
ゾーン名	初期値（出荷時）″*″ では、すべての Mac OS ユーザが本製品にアクセスできる設定です。 特定のゾーンだけにアクセスするようにする場合には ゾーン名を入力してください。

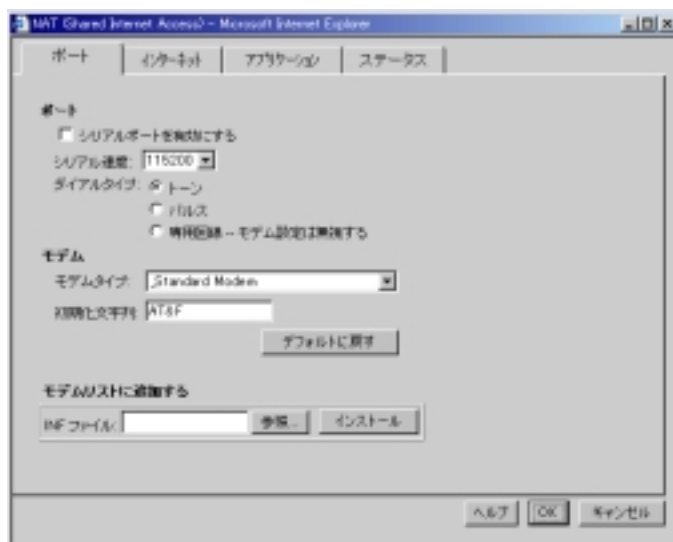
［Microsoft］・・・Microsoft ネットワーク関連の設定

Windowsを使用する場合、Microsoftネットワークを有効にして本製品にアクセス可能に設定する必要があります。

Microsoft ネットワークを有効にする	無効にした場合には Windows ユーザは、本製品にアクセスできません。
ワークグループ名	"ワークグループ名" はパソコンのワークグループ名と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名の確認方法は、41 ページ参照） ワークグループ名が一致していない場合にも本製品のハードディスクにアクセスすることは可能ですが、 ネットワークを参照した場合には表示されません。
言語コード（コードページ）	使用言語を選択します。 「日本語」の選択より変更しないでください。
WINS を有効にする	WINS サーバを使用している場合に有効にします 有効になっている場合、WINS サーバに登録されます。この場合、ルータを経由するユーザもネットワークコンピュータで参照できます。（ネットワークコンピュータで同一の LAN セグメントのみを検索する場合を除く）
WINS サーバ IP アドレス	WINS サーバの IP アドレスを入力します。 通常 NT サーバです。

インターネットに関する設定

インターネットに関する設定です。
設定画面の［インターネット］をクリックして行います。

［ポート］・・・RS-232C／モデムの設定

ここでの入力は正しくなければいけませんが、アナログモデムを使用する場合、ほとんどの場合には最初（出荷時）の設定で動作します。
リストにのっていないモデム/ISDN TA を使用する場合、そのモデムのWindows用のINFファイルを持っていればモデムリストに追加することもできます。

シリアルポートを有効にする	シリアルポートを経由したインターネットアクセスの有効/無効を設定します。
シリアル速度	使用するモデム・TA がサポートする最高速度を選択します。通常は、出荷時の［115200］で問題ありません。ここでの値は、シリアルポートでの速度であって、電話回線の速度ではないことに注意してください。専用回線を使用する場合は、使用する専用回線の速度を選択してください。

ダイアルタイプ	モデム・TAに接続した回線の種類を選択します。 専用回線など常時接続の場合は、「専用回線」を選択します。 以下の「モデムタイプ」設定の内容は無視されます。 **注意:「シリアル速度」は専用回線の速度に一致していなければなりません。**
モデムタイプ	リストから使用するモデム・TAを選択します。 ・"_Standard Modem" を選択し、動作を確認します。 （多くのモデムは、この設定で動作可能です。） ・"Other"を選択し、適切な初期化文字列（ATコマンド）を入力します。この初期化文字列が、モデム・TAの回線速度、ダイアル方法を設定します。 **※サポートするATコマンドについてはモデム･TAのマニュアルを参照してください。** ・使用するモデム・TAのWindows 98/95用INFファイルがある場合、そのモデム・TAをモデムリストに追加できます。（手順については、【●モデムリストへの追加手順】61ページ参照）
初期化文字列	プロバイダに接続を行う前に、モデム･ TAに対して行う設定用のATコマンドです。「Other」以外のモデム･TAについては設定を変更することはできません。 「Other」を選択する場合、サポートするコマンドについてはモデム・TAのマニュアルを参照してください。
モデムリストに追加する	使用するモデム・TAをリストに追加するためのINFファイルの指定を行います。 INFファイルは、Windows 98/95用のみ対応です。 （手順については、【●モデムリストへの追加手順】61ページ参照）
デフォルトに戻す	画面表示されている値を初期値（出荷時設定値）に戻します。

［インターネット］・・・インターネット接続関連の設定

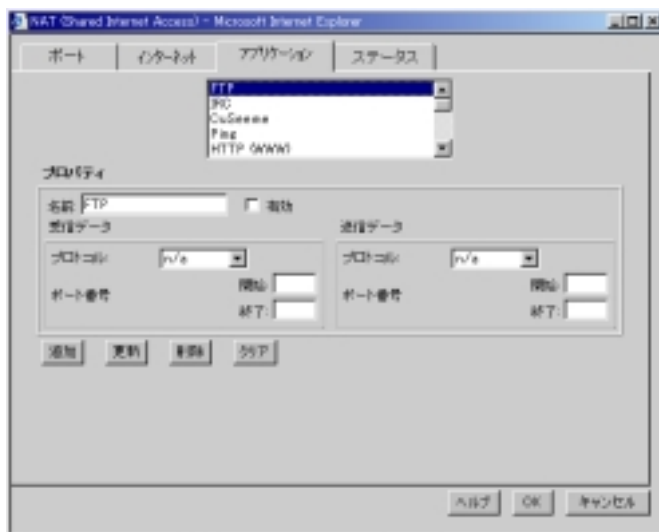
リモート接続を行うための設定ですので、正しく入力してください。
ここでの入力内容は、プロバイダによって指定されたものです。

<table>
<tr><td>アカウント名</td><td colspan="2">プロバイダで指定されたインターネットアカウント名です。
プロバイダによっては「ユーザ名」と呼んでいるところもあります。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td colspan="2">上のアカウント名のパスワードを入力します。
「パスワードの再入力」欄にもう一度パスワードを入力して、このパスワードが正しいかどうか確認します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">認証</td><td colspan="2">プロバイダの案内に応じて以下のいずれかを設定します。</td></tr>
<tr><td>CHAP</td><td>PPPなどにおけるユーザ認証方法の１つ。
PAP と違って、ユーザ名やパスワード情報をそのまま渡さない（流さない）ため、安全性が高い。</td></tr>
<tr><td>PAP</td><td>PPPにおけるユーザ認証方法の１つ。
PPPにおける最も簡単な認証方式であるが、
通信回線をモニタされるとユーザ名とパスワード情報が盗まれる可能性がある。</td></tr>
</table>

電話番号	プロバイダに接続するための電話番号(アクセス番号)です。数字(0..9)とコンマ(,)のみ使用できます。 専用線を使用する場合には、空白のままにしてください。
電話番号 2 & 3	これらはオプションです。 入力しておけば、最初の電話番号が利用できないとき、順番にこれらの番号にダイアルをします。
切断までの待ち時間	入力した時間の間、データ通信が行われていなければ切断します。 アナログ回線を使用している場合には、再接続に必要な時間の遅延を避けるために長めに設定(例 20分)することができます。 ISDNを使用している場合には、接続の遅延は短く、1分程度に設定しておけば良いと思われます。 専用回線を使用する場合には、ここでの設定は関係ありません。
接続時の IPアドレス	通常は、[ダイナミック]を使用します。 プロバイダから IP アドレスが提供されていない場合は、[ダイナミック]を選びます。(プロバイダに接続したときに IP アドレスが割り振られる場合等) 接続したときに割り振られるのではなく、すでに IP アドレスを提供されている場合には、「次のアドレスに固定」を選択し、そのアドレスを記入してください。
DNS IP アドレス	プロバイダに接続するには、少なくとも1つの DNS IP アドレスが必要です。 「ネットワーク」項目の「DNS」タブで設定します。(139 ページ参照)

本製品では、DNS サーバの指定をサーバの IP アドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。

［アプリケーション］・・・アプリケーションの追加

〝アプリケーション〟機能は通常の接続方式では無く、通常はファイヤーウォールでプロテクトされている特別なインターネットアプリケーションを使用する場合に使用します。
例えば、ゲームサーバやインスタントメッセンジャー、ビデオ・カンファレンスなどです。
通常、使用する可能性のあるアプリケーションのみを有効にしください。

アプリケーションリスト	定義済みのアプリケーションがリスト表示されます。 次のようにしてこのリストを編集できます： ・「更新」、「削除」ボタンを使ってリストの項目を編集できます。 ・「追加」ボタンを使って新しくリストにアプリケーションを追加できます。

<table>
<tr><td rowspan="5">プロパティ</td><td colspan="2">選択した項目のプロパティを表示します。また、新しく項目を追加する場合にも使用されます。
一部のアプリケーションでは「n/a」と表示されます。これはユーザが指定できない特別な方法によってサービスがサポートされていることを示します。新しく項目を加える場合は、プロバイダから指定された値が含まれていなければいけません。</td></tr>
<tr><td>名前</td><td>アプリケーション名</td></tr>
<tr><td>有効</td><td>使用を有効/無効にします。
使用するアプリケーションのみに有効をチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>プロトコル</td><td>送信、受信時のプロトコルをそれぞれ選択します。プロトコルを特定しない場合は「Auto」を選択してください。（ポート番号が空白のときのみ有効になります。）</td></tr>
<tr><td>ポート番号</td><td>送信、受信時の開始ポート番号を入力します。
１つのポートのみ使用する場合、送信、受信両方の「開始」欄にその番号を入力してください。
送信、あるいは受信のどちらかに１つのポート番号が使用できる場合、「終了」欄は空白のままになります。その場合、「開始」欄のポート番号のみ利用可能です。「終了」欄に値を入力した場合には、「開始」から「終了」までのポートが利用可能です。</td></tr>
</table>

操作方法

・新規エントリーを追加する場合

1. 「クリア」ボタンをクリックします。
2. 「プロパティ」にデータを入力します。
3. 「追加」ボタンをクリックします。
4. 画面をリフレッシュしたとき、新しいエントリーがリストに追加されます。

・項目を変更する場合

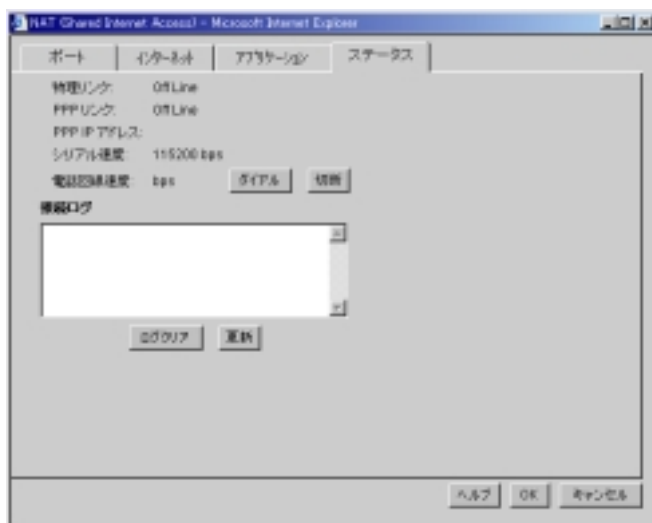
1. リストから項目を選択します。
2. 「プロパティ」に「n/a」が表示されていない場合、プロパティに表示されたデータを変更することができます。
   ※「n/a」と表示された場合、有効/無効の設定以外、変更することはできません。
3. 「更新」ボタンをクリックします。
4. 画面をリフレッシュしたとき、プロパティに新しいデータが表示されます。

・項目を削除する場合

1. リストから項目を選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されます。
3. 画面をリフレッシュしたとき、その項目はリストから消去されています。

削除した場合、取り消しできません。

［ステータス］・・・接続ステータスの表示

本画面は接続状態の確認やトラブルシューティングの為に参照します。

物理リンク	動作状態ではリンクは Established と表示されます。 この場合にはモデムが電話発信できる状態であることを示します。
PPP リンク	Established の場合には PPP 接続が認証に成功したことを示します。
PPP IP アドレス	インターネットを参照するために使用される IP アドレスを示します。IP アドレスの設定を「ダイナミック」（「インターネット」タブで設定します）に設定している場合には、このアドレスは接続先のプロバイダより提供されます。
シリアル速度	シリアルポートとモデム間の通信速度を示します。 この設定は「ポート」タブで変更できます。
電話回線速度	モデムと電話先の電話回線の通信速度を示します。 この値はモデムにより返されます。
接続ログ	接続ログは接続結果に関連したステータスメッセージを表示します。 一般的なメッセージについては次ページの表に示します。 「ログクリア」ボタンを押すとログを消去して新しくログを開始します。また、「更新」ボタンで最新情報を表示します。

ダイヤル ボタン	未接続状態の場合、本ボタンでプロバイダへの接続を行うことができます。接続試験等を行う場合に有効です。
切断ボタン	接続状態の場合、本ボタンで接続を切断することができます。
ログクリア ボタン	全てのログのメッセージを消去して、新しいメッセージを参照しやすくします。
更新ボタン	画面のステータスおよびログデータを更新します。

●メッセージ一覧

メッセージ	概要
通常状態	
ATDTxxxxxxxx	ダイヤルした電話番号が xxxxxxxx で表示されます。2つめの「T」はトーンダイヤルを示します。パルスダイヤルを使用した場合には「T」の代わりに「P」が表示されます。
Connect: PPP	プロバイダに接続したことを示します。 物理レベルの PPP 接続は正常に確立されました。 PPP ログインが成功したことを示します。 次に PPP 認証(ログイン)の手順に入ります。
Local IP Address Remote IP Address	「Local IP Address」は、インターネット接続用に本製品に割り当てた IP アドレスを示します。 もし IP アドレスの設定を「ダイナミック」に設定している場合には、この IP アドレスは接続先のプロバイダより提供されます。 **注意** **本製品はもう一つの IP アドレスを LAN 用に持っています。** 「Remote IP Address」はプロバイダの IP アドレスです。
Disconnecting	[インターネット] タブ(144 ページ)での [切断までの待ち時間] で指定した時間が経過した、あるいは [ステータス] タブ(前ページ)で [切断] ボタンが押された事によりその接続が切断されました。

メッセージ	概要
エラー状態	
No Dial Tone	モデムが応答しないか、またはダイヤルトーンを検出できません。モデムと電話回線のケーブルの接続状態を確認してください。
Busy	ダイヤル先がビジーです。 複数の電話番号を設定している場合には、次の電話番号をダイヤルします。
No answer	ダイヤル先からの応答がありません。 複数の電話番号を設定している場合には、次の電話番号をダイヤルします。
PPP Authentication failed	PPP ログインに失敗しました。 ログイン名が許可されませんでした。ログイン名を確認してください。
Password Incorrect	パスワードが不正で PPP ログインに失敗しました。 パスワードを確認してください。

システムに関する設定

本製品のシステムに関する設定です。
設定画面の［システム］をクリックして行います。

［システム］･･･システムの基本設定項目の設定

ここのデータが基本設定です。本製品は、名前を持つ必要があります。
ファイルを正しいタイムスタンプで保存するためには、正しい日付と時刻を設定する必要があります。″コメント″ はオプションです。

サーバ名	本製品のサーバ名を変更することができます。 句読点や特殊文字（例　＊ / ｜ ￥ ）および２バイト文字（日本語等）、半角カタカナは使用できません。 共有名として使用されていますので、稼動後は、頻繁には変更しないでください。

コメント	コメントを入力できます。 句読点や特殊文字（例　＊／｜￥）および２バイト文字（日本語等)、半角カタカナは使用できません。 **参考** **このコメントは、Windows のネットワークのプロパティ中にある「コンピュータの説明」と同様に、［ネットワークコンピュータ］を詳細表示させた際のコメント欄に表示される文字列となります。**
タイムゾーン	正しいタイムゾーンを選択します。
日付	現在の日付を入力します。
時間	現在の時刻を入力します。 本製品には［OK］ボタンをクリックした際に送られます。

［E-Mail］・・・E-Mail 通知機能関連の設定

本製品に問題やエラーが発生した場合に、ネットワーク上のユーザへE-Mailを送ることができます。これによって問題が発生した場合にはそのステータスをチェックすることができます。

本機能は、ネットワーク内に DNS サーバとメールサーバがある場合にのみ通知可能です。

E-Mail 通知を有効にする	E-Mail による通知を行う場合には、これをチェックします。
通知先 E-Mail アドレス	(1)～(3)までの E-Mail アドレスを入力します。 本製品により作成されるメッセージはこの宛先に送付されます。
表題(オプション)	送信する E-Mail の表題を入力します。2バイト文字、日本語(半角含む)、および一部の記号は使用できません。

[シャットダウン]・・・シャットダウン・リブートの設定

本製品のリブートもしくはシャットダウンを行います。
また、リブート/シャットダウンスケジュールも設定できます。シャットダウンを行った場合は、本製品の背面スイッチによって起動します。

この画面のデータは「OK」ボタンをクリックしても保存されません。
保存するには「保存/タイマ開始」ボタンをクリックしてください。

●シャットダウンスケジュール

動作	指定の曜日/時間に行う動作を指定します。 動作は､「シャットダウン」，「リブート」から選択します。 動作に 「なし」が指定されている場合には動作は行われません。
曜日	「平日(月～金)」，「土曜」，「日曜」のそれぞれの項目に動作および時間を入力することによってそれぞれの動作を指定します。
時間	設定された動作を開始する時間を指定します。

●ハードディスクドライブ
特定時間ディスクへのアクセスが無い場合にハードディスクの電源を切る場合には、待ち時間を選択します。
ハードディスクの電源が切断された状態の時にディスクへのアクセスが行われた場合には、ハードディスクが動作開始するまでの遅延時間が発生します。
「なし」が選択されている場合には、ハードディスクは常時回転しています。

●アクション

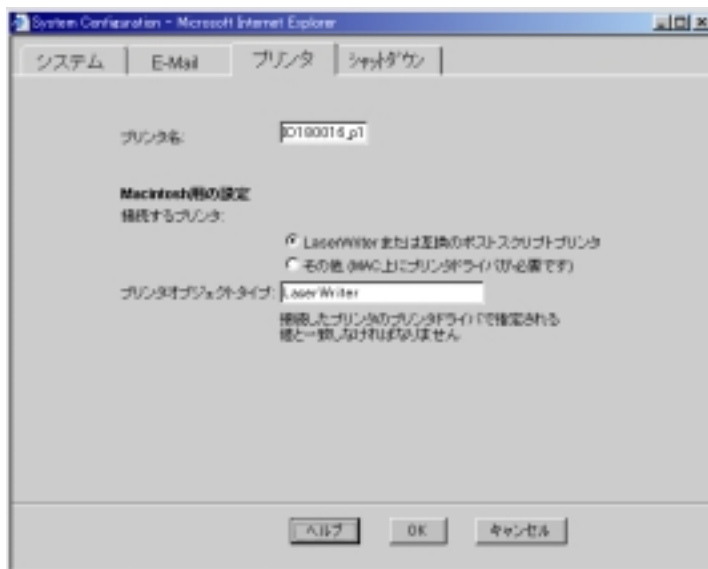
アクション	実行するアクションを選択します。 また、何分後に指定したアクションを開始するかを設定します。 タイマーは［保存/タイマ開始］ボタンをクリックしてから動作を開始します。

●ボタン

保存/タイマ開始	画面上の設定を保存します。 アクションの欄で動作を指定した場合には、タイマの動作が開始されます。
直ちにシャットダウン	本製品を直ちにシャットダウンします。 この接続を含めて全ての接続は切断されます。 このボタンをクリックした場合には、設定した内容は保存されません。
直ちにリブート	本製品を再起動します。 この接続を含めて全ての接続は切断されます。 本製品は直ちに再起動され、数分後に動作を再開します。 このボタンをクリックした場合には、設定した内容は保存されません。

プリンタに関する設定

本製品に接続したプリンタに関する設定です。
設定画面の［システム］をクリック後、［プリンタ］タブをクリックして行います。

プリンタポートの設定を行います。接続されるプリンタは Windows と Mac OS ユーザによって共有されます。

Mac OS から印刷する場合、本製品に接続できるプリンタは、LaserWriter 互換プリンタのみです。

●Windows 用の設定

プリンタ名	プリンタ名を入力します。 プリンタ名は Windows を使用してプリンタをインストールする場合に参照されます。

●Macintosh 用の設定

接続する プリンタ	プリンタタイプを選択します。 ″その他″を選択した場合には、Mac OS ユーザは、そのプリンタのネットワーク対応プリンタドライバをインストールする必要があります。
プリンタ オブジェクト タイプ	ここに入力する名前は接続したプリンタのプリンタドライバで指定される「オブジェクトタイプ」と一致しなければなりません。 「オブジェクトタイプ」指定が正しくない場合には、Mac OS 上でプリンタが検出されません。 「オブジェクトタイプ」を確認するにはプリンタのマニュアルを参照してください。

ディスク検査に関する設定

本製品のハードディスクの検査に関する設定です。
設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［ディスク］タブで行います。

ディスク検査プログラムはファイルシステムを検査してエラーの有無をチェックします。ディスク検査は停電により電源が切断された場合等の、エラー状態が検出された場合には自動的に開始されます。

ディスクの検査中は、本製品を使用できません。
また、本製品に接続している機器（モデム・TA およびプリンタ）も使用できなくなります。
ディスクの検査を停止する場合には、「停止」ボタンをクリックしてディスクの検査を中止してください。

●ファイルシステムの検査

不良セクタのチェックを行う	チェックした場合に不良セクタの検査を行います。 この場合には検査がより詳細に行われますが、チェックには数時間かかります。
開始ボタン	検査を開始します。結果は別のウィンドウに表示されます。
停止ボタン	このボタンを押すと検査を中止します。 検査を中止する場合には、このボタンをクリックしてください。

●検査スケジュール

曜日	検査を行う曜日を指定します。 曜日は 「平日(月～金)」,「土曜」,「日曜」をそれぞれ選択して設定できます。
時間	検査を開始する時間を指定します。
不良セクタのチェック	チェックした場合には、不良セクタの検査も行います。 この場合には検査がより詳細に行われますが、チェックには数時間かかります。

ログファイルの表示

本製品のログファイルの表示です。
設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［ログ］タブで行います。

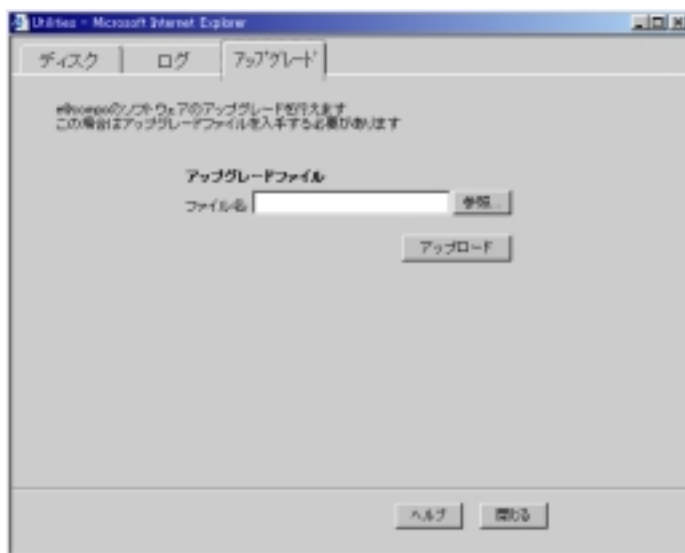
本製品は自動的にログファイルを作成します。
このログファイルには動作結果が記録され、管理やトラブルシューティングに利用できます。ログファイルはテキストファイルです。

ログ参照ボタン	このボタンをクリックするとログファイルが別ウィンドウに表示されます。ブラウザメニューでは検索できないため、必要であれば、 保存するか印刷します。

終了したらログファイルウィンドウを閉じてください。

ソフトウェアのアップグレード

本製品がバージョンアップされた際、ソフトウェアのアップグレードを行えます。
設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［アップグレード］タブで行います。
ただし、まず弊社ホームページ上からアップグレードファイルを入手する必要があります。

アップグレード操作中は、本製品を使用できません。 また、本製品に接続している機器（モデム・TA およびプリンタ）も使用できなくなります。サーバはアップグレードが完了したら再起動を行います。［アップグレード］ボタンをクリックしてから、アップグレードが完了するまでには、 5 分〜10 分必要です。

●ファイル名

アップグレードファイルをフルパスで指定します。
「参照」ボタンをクリックしてパソコンのフォルダを参照することもできます。

この機能はブラウザに搭載された機能に依存します。

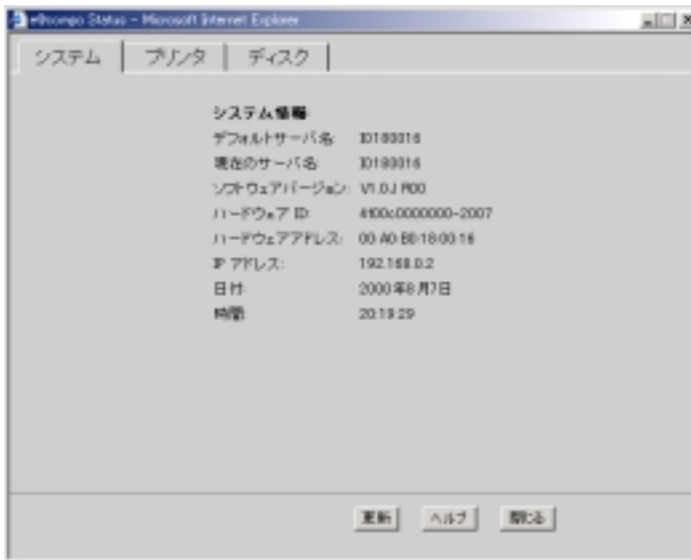
●アップロード

このボタンをクリックすると本製品にアップグレードファイルをアップロードして、ソフトウェアのアップグレードを行います。

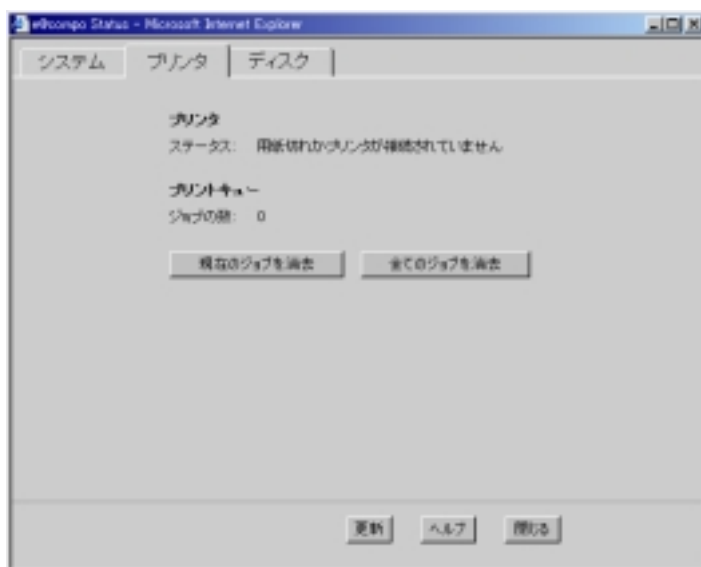
現在の状態の表示

本製品の現在の状態表示を行います。
設定画面の［ステータス］をクリックして行います。

［システム］･･･本製品のシステムの表示

本製品のシステム情報を表示します。

デフォルトサーバ名	出荷時の名前
現在のサーバ名	「システム」の設定（P152）で入力された現在の名前（変更していなければ、上の名前と同一）
ソフトウェアバージョン	インストールされているソフトウェアのバージョン
ハードウェア ID	製造番号
ハードウェアアドレス	ネットワークアダプタのハードウェアアドレス
IP アドレス	本製品で使用される IP アドレス
日付	本製品に記憶されている現在の日付
時間	本製品に記憶されている現在の時刻

［プリンタ］･･･接続したプリンタ情報の表示

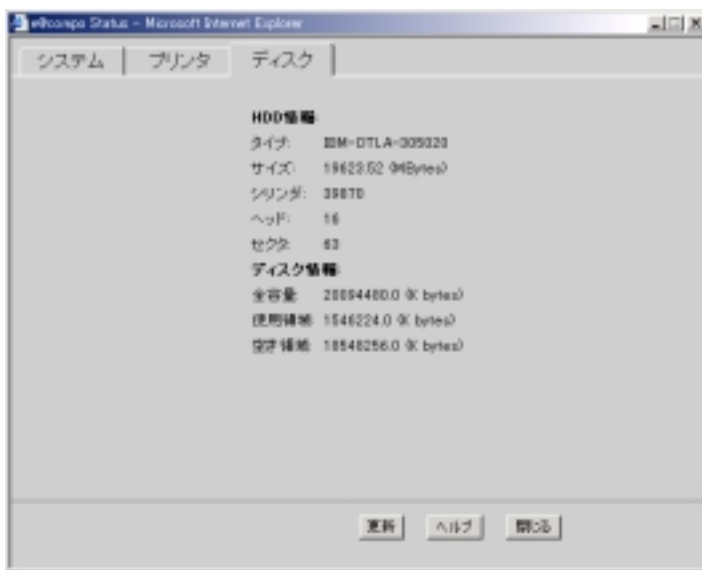
本画面はプリンタとプリントキューの現在のステータスを表示します。プリントキューはWindowsとMac OSの両方のプリントジョブを保持します。

●プリンタ

ステータス	表示するステータスは、″オンライン″，″オフライン″,″用紙切れかプリンタが接続されていません″です。

●プリントキュー

ジョブの数	プリントキュー内の印刷待ちプリントジョブのトータル数（Windows と Mac OS の両方）
現在のジョブを消去	このボタンをクリックすると現在印刷しているプリントジョブを消去します。 正しく印刷されない場合にご使用ください。
すべてのジョブを消去	このボタンをクリックするとプリントキュー内のすべてのプリントジョブを消去します。 プリントキューをクリアする場合にご使用ください。

［ディスク］･･･ディスク情報の表示

本製品上のディスクの状態を表示します。

●HDD 情報

タイプ	ハードディスクのタイプを示します。
サイズ	ハードディスクの容量を示します。
シリンダ	シリンダ数，これは各サーフェイスのトラック数と同一です。
ヘッド	ヘッド数
セクタ	各シリンダ内のセクタ数

●ディスク情報

全容量	ディスクスペースの全容量
使用領域	使用されているディスクスペース
空き領域	使用されていない空きディスクスペース

ハードディスクの共有に関する設定

ハードディスクの共有に関する設定です。

［参照］･･･共有状態の表示

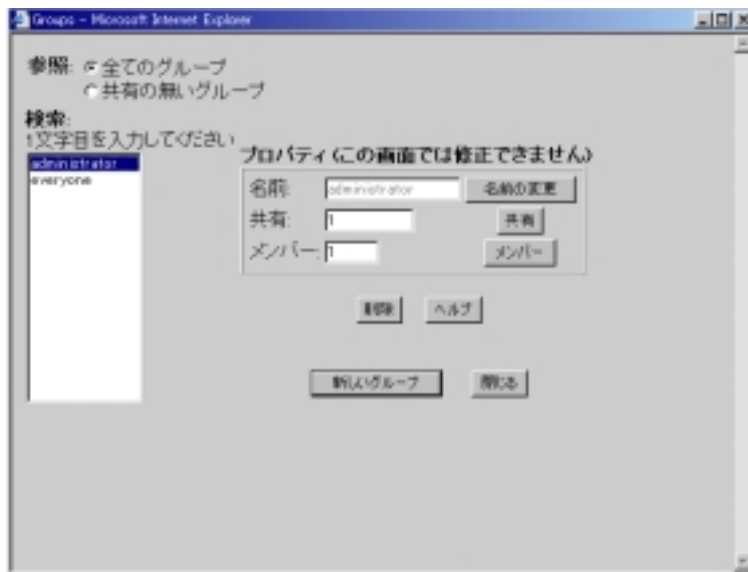
設定した共有情報の表示を行います。
設定画面の［参照］をクリックして行います。

この画面では、共有、フォルダ、ファイルがおよび基本的な管理情報が表示されます。
ファイル管理には、エクスプローラ等のファイルマネージャを使用してください。

アドレス	現在選択しているファイル/フォルダなどのアドレスをフルパスで示します。（フォルダは共有か通常のフォルダ）
名前の変更ボタン	選択した項目の名前を変更します。
削除ボタン	選択した項目を削除します。
プロパティボタン	プロパティを編集します。共有にのみ有効です。

名前	共有名，フォルダ名，ファイル名を示します。
タイプ	項目のタイプ(共有名，フォルダ，ファイル)を示します。
共有名/所有者	内容は「タイプ」に依存します: **共有名**: フォルダの共有名を示します。 **フォルダ**: 通常は空白です。ただし、フォルダへのアクセスが通常できない場合には「Administrator」と表示されます。 **ファイル**: このファイルの作成者を示します。
サイズ	ファイルサイズを示します(KByte)
更新日	ファイル，フォルダが作成/更新された日を示します。

［グループ］・・・グループの作成・修正・削除

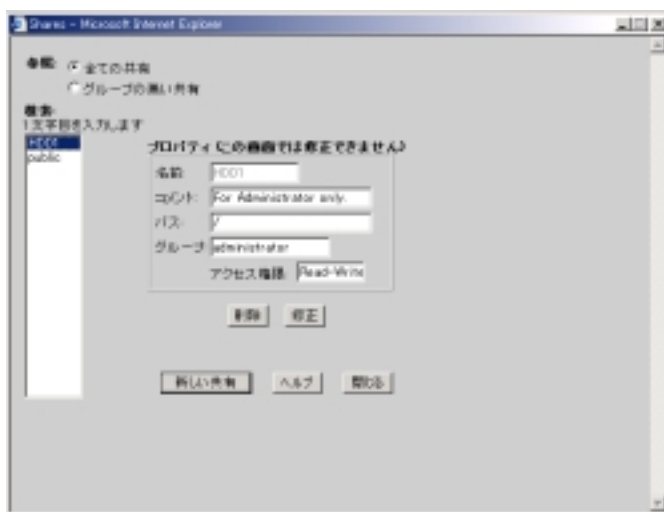
ユーザグループの設定を行います。
設定画面の［グループ］をクリックして行います。

グループリスト	左側にすべてのグループのリストが表示されます。 ″everyone″ と″administrator″ の２つのグループは常に存在し、削除することはできません。
プロパティ	選択したグループのプロパティを表示します。このデータは読み込み専用です。

●操作

参照 (ラジオボタン)	参照したいグループを設定します。通常、共有の無いグループは本製品にアクセスできません。このオプションはアクセスできないグループの問題解決に有効です。
検索	リストのグループ名を選択することで、グループリストを検索できます。
名前の変更	このボタンを使用すると選択したグループの名前を変更できます。 **注意** **コンマやピリオド、その他の特殊文字（例　* /	\ )および2バイト文字(日本語等),半角カタカナは使用できません。**
共有	このボタンを使用すると、選択したグループがどの共有へアクセスできるかを決定します。それぞれの共有は1グループのみがアクセス可能です。(グループは複数の共有を持つことが可能です。) **注意** **"administrator" グループはすべての共有へアクセスすることが可能です。**
メンバー	選択したグループへのユーザの追加や削除を行います。 **注意** **"everyone" グループは常にすべてのユーザに割り当てられ、メンバーを削除することはできません。**
削除	選択したグループを削除します。
新しいグループ	新しいグループを作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

［共有］･･･共有の作成･修正･削除

共有の設定を行います。
設定画面の［共有］をクリックして行います。
″共有″ はユーザがアクセスできるフォルダです。

administratorだけが共有を作成することができます。共有にアクセス権を持つユーザが共有にフォルダやファイルを作成することができます。
共有は１ユーザグループのみアクセス可能です。ユーザグループは複数の共有フォルダへアクセスすることが可能です。
共有内に共有フォルダが存在する場合、外側の共有へのアクセス権を持つユーザは内部の共有フォルダへの同じ権限でアクセスすることができます。

●画面表示されるデータ

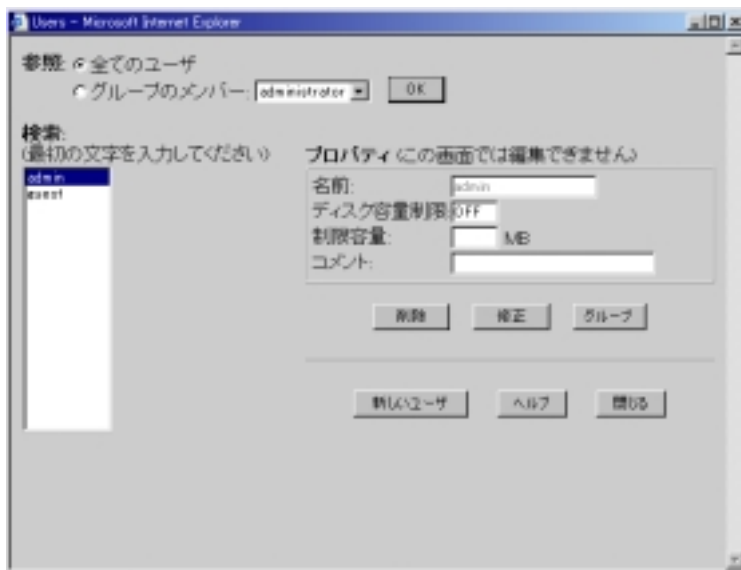
共有リスト	すべての共有のリスト
プロパティ	リストから選択した共有のプロパティを表示します。このデータは読み込み専用です。 ユーザグループが選択した共有フォルダへのアクセス権を持つかどうか、またアクセス権限を表示します。 (Read-only(読み取り専用)か Read-Write(読み書き))

●操作

参照 （ラジオボタン）	表示したい共有フォルダを選択します。 ユーザグループに登録されていない共有フォルダは表示されません。 このオプションによって共有フォルダの問題の解決を容易に行うことができます。
検索	いずれかのボタンを押すことでカーソルの位置から共有フォルダリストを検索できます。 ブラウザがこの機能をサポートしている必要があります。 このリストは最初のエントリからスクロールします。
削除	共有を解除します。
修正	選択した共有のプロパティを修正します。
新しい共有	新しい共有を作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

[ユーザ]・・・ユーザの作成・修正・削除

ユーザの設定を行います。

設定画面の［ユーザ］をクリックして行います。

ユーザリスト	左に全てのユーザが表示されます。 「admin」と「guest」は常に存在します。これらのユーザは削除することはできません。
プロパティ	リストから選択したユーザのプロパティが表示されます。 このデータは表示専用です。「制限容量」はユーザに許可されている最大のディスク使用量を示します。

●操作

参照 (ラジオボタン)	参照するユーザを選択します。 オプションは、以下の２つです。 － 全てのユーザ － グループのメンバー(特定のグループのユーザ) リストは最初に「全てのユーザ」が表示されます。 変更するにはラジオボタンでグループのメンバーを選択して「OK」をクリックします。
検索	リストのカーソルからいずれかのキーを押してユーザリストを検索できます。 ブラウザが本機能をサポートしている場合には、リストは検索した最初のエントリまでスクロールします。
削除	削除するユーザを選択してボタンをクリックします。 (admin と guest は削除できません。)
修正	プロパティを修正するユーザを選択してこのボタンをクリックします。
グループ	このボタンを押した後、ユーザをどのグループのメンバーにするかを設定できます。
新しいユーザ	新しいユーザを作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

付　録　3
TCP/IP の基礎知識

TCP/IP　　　　　IP

P175　IP アドレス

IP アドレスについて説明します。

・同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要
・グローバル IP アドレスとローカル IP アドレス
・IP アドレスのクラス

P178　DHCP

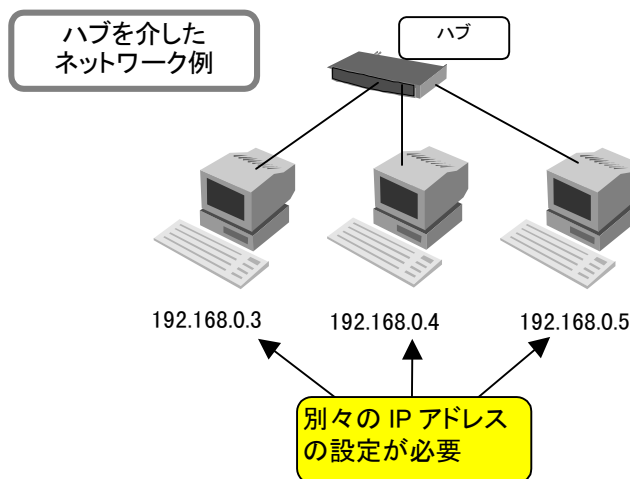
DHCP について説明します。

P179　具体的な IP アドレスの設定例

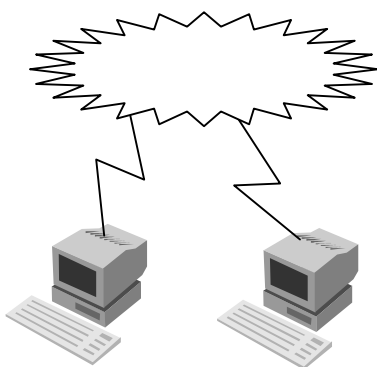
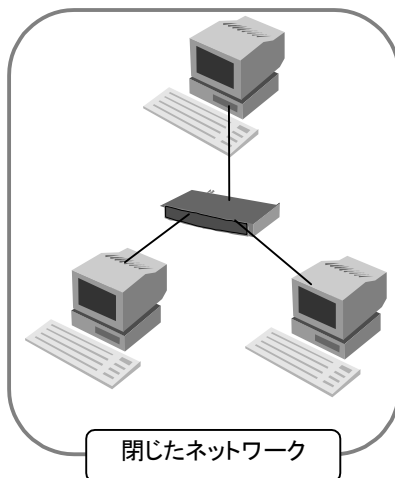
小規模なネットワークにおける具体的な IP アドレスの設定例について説明します。

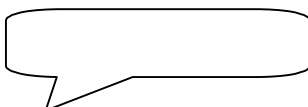
IP アドレス

同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要

本製品を使用するには、本製品やパソコンにIPアドレスの設定が必要です。
IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の１軒１軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも１台１台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。もし、同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.2」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。

グローバル IP アドレスとローカル IP アドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみ等）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

IP アドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.2」のように、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

IP アドレス　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時の IP アドレス「192.168.0.2」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２７	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大約 120 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

DHCP

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IP アドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCP は、DHCP サーバと DHCP クライアントで構成され、DHCP サーバが DHCP クライアントに使用可能な IP アドレスを割り当てます。
例えば、本製品を DHCP サーバとし、複数台のすべてのパソコンを DHCP クライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能な IP アドレスを入手し、終了時に開放します。

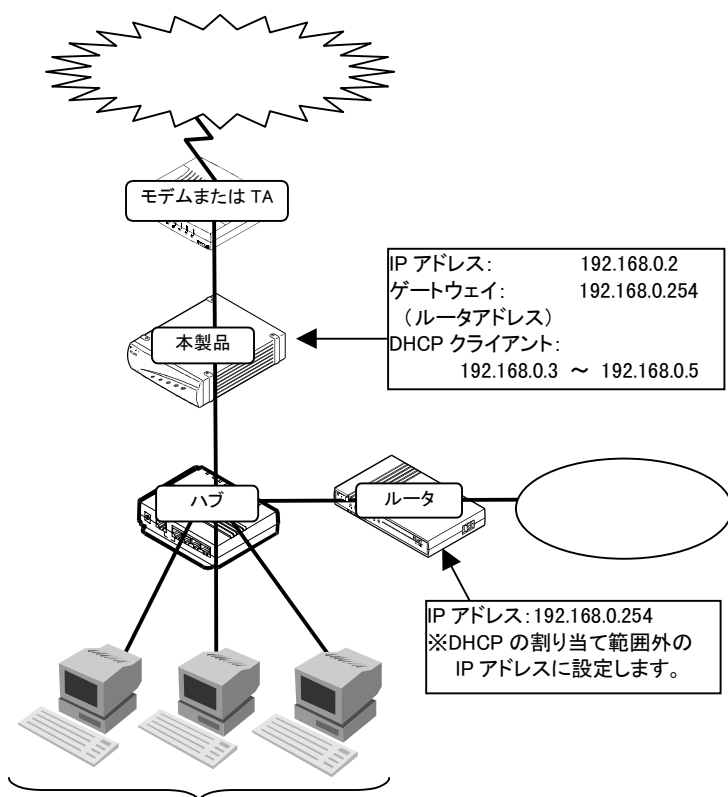
●DHCP の特徴

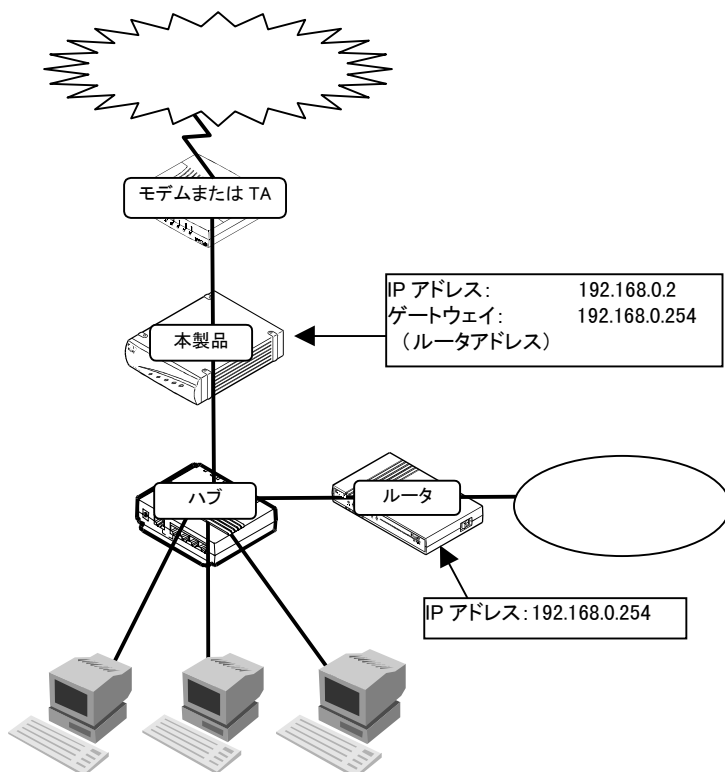
・個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
・設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバのみの変更で済みます。そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
・DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ（ルータ）の IP アドレスも自動で設定されます。
・DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

本製品を DHCP サーバとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

具体的な IP アドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

本製品を DHCP サーバとして使用する場合の例

［IP アドレスを自動で取得］
（Mac OS では、［DHCP サーバを参照］）に設定
ゲートウェイ: 192.168.0.2
（ルータアドレス）
※ゲートウェイ（ルータアドレス）は、
本製品を使用してインターネット接続する場合は、本製品の IP アドレス
ルータ経由でインターネット接続する場合は、ルータの IP アドレス

IP アドレスをすべて手動で設定する場合の例

IP アドレス:　192.168.0.3　192.168.0.4　192.168.0.5
ゲートウェイ:　192.168.0.2　192.168.0.2　192.168.0.2
（ルータアドレス）
※　ゲートウェイ（ルータアドレス）は、
本製品を使用してインターネット接続する場合は、本製品の IP アドレス
ルータ経由でインターネット接続する場合は、ルータの IP アドレス

付録 4
仕様

■ 一般仕様

ハードディスク容量	20Gバイト※
ネットワーク	・Ethernet 10BASE-T／100BASE-TX （10／100Mbps、Full／Half-Duplexの自動検出） ・シールド付きRJ-45ポート （LED2個装備：10BASE-T Link／100BASE-TX Link）
パラレルポート	D-sub25ピン　メス（IEEE1284）
シリアルポート	D-sub9ピン　オス（RS-232C）
ブザー	1
LED	Ready, Error, Disk, Disk full, LAN
デイジーチェーンスイッチ	クロス接続（デイジーチェーン）か通常接続の選択用
リセットボタン	IPアドレスおよびADMINパスワードの消去用
電源	外付型電源（12VDC、3.6A）
動作温度範囲	5～35℃
保存温度範囲	-10～60℃
動作湿度範囲	10～80%　（結露なきこと）
保存湿度範囲	5～90%　（結露なきこと）
寸法	210（W）×271（D）×66（H）mm
質量	2.1kg

※ファイルシステムとして利用可能な容量は17.6Gバイトまでです。

■ ネットワーク仕様

項目	内容
物理仕様	10BASE-T／100BASE-TX（IEEE802.3／802.3u）
ファイル／プリンタ共有プロトコル	・SMB/CIFS（NetBIOS over TCP/IP） ・Apple Share（Apple Talk）
ルータ機能	ルータ機能により、インターネットアクセスを行います。 ルータおよびNAT機能の詳細については、【ルータ機能】(184ページ)を参照してください。
E-Mail通知	特定のエラー発生時にE-Mailでの通知を行います。
同時アクセス数	無制限（Windows）／約50台まで（Macintosh）

■ ソフトウェア仕様

項目		内容
IPアドレスの設定方式 （33ページ参照）		IPアドレスの設定方式には、次の2つの方法があります。 1）自動取得（DHCPクライアント DHCPクライアントとして動作を行い、DHCPサーバからIPアドレスを自動的に取得します。 DHCPサーバの検出に失敗した場合には、出荷時設定のアドレス（192.168.0.2）を使用して動作を開始します。 2）マニュアル設定 Webブラウザによる設定で任意のIPアドレスを入力します。 ※この設定を行う場合には、ディスクサーバと設定ツールを使用するパソコンのIPアドレスの設定が同一のセグメントになっている必要があります。出荷時設定では、IPアドレスは「192.168.0.2」が割り当てられます。
ファイル共有／セキュリティ	共有	フォルダ単位でのファイル共有を行う
	ファイル名	半角255文字以内のロングファイル名のサポート
	ファイル属性	「読み書き可（アーカイブ）」の属性を設定可能 「読み込みのみ可（Read-Only）」および「隠しファイル（Hidden File）」の属性は設定不可
	アクセス権限	「読み書き可」、「読み込みのみ可」を各共有毎に選択可
	ディスク使用量制限	ディスクの使用容量制限をユーザ毎に制限可

<table>
<tr><td rowspan="2">Web
マネージメント</td><td>アドミニスト
レータ設定</td><td>アドミニストレータは、設定ツールを使用して各種設定を行うことができます。
アドレス例　http://192.168.0.2</td></tr>
<tr><td>ユーザパス
ワード設定</td><td>各ユーザは、Webブラウザ上からユーザパスワードの変更を行うことができます。
アドレス例　http://192.168.0.2</td></tr>
<tr><td>E-Mail通知</td><td colspan="2">本製品は、特定の状態でのレポートをE-Mailで送信することができます。
E-Mail通知先は、3つまで設定することができます。
通知される状態については、【補足資料】(185ページ)を参照してください。</td></tr>
<tr><td>システムログ</td><td colspan="2">システムの運用状態は、システムログに保存されます。
システムログの容量が大きくなった場合には、システムログは古いものから削除されます。
システムログに記述される内容については、【補足資料】(185ページ)を参照してください。</td></tr>
<tr><td>ソストウェア
アップグレード</td><td colspan="2">ソフトウェアは、設定画面を使用してアップグレードを行うことができます。（162ページ参照）</td></tr>
</table>

■ ルータ機能

<table>
<tr><td rowspan="5">サポートインターネットアプリケーション</td><td>インターネットアクセス</td><td>Netscape, Internet Explorer, Real Audio, mIRC, MS Chat, CU-CeeMe, IRC, Telnet, ICQ, Neterm, WS-FTP, Cute-FTP</td></tr>
<tr><td>E-Mail</td><td>MS Internet mail, MS Outlook, Outlook Express, Netscape, Eudro light, Pegasus, Free Agent</td></tr>
<tr><td>サーバ</td><td>DNS, FTP standard, POP3, Web Server, SMTP</td></tr>
<tr><td>ゲーム</td><td>Diablo</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>PING, Trace Route, HTTP</td></tr>
<tr><td>接続プロトコル</td><td colspan="2">回線通信には、PPPプロトコルを使用します。</td></tr>
<tr><td>認証方式</td><td colspan="2">ユーザ認証方式は、PAPおよびCHAPをサポートします。</td></tr>
<tr><td>接続回線／ダイヤル設定方法</td><td colspan="2">専用線／ダイヤルアップ接続共に設定可能です。
ダイヤルアップの場合には、3局までの登録が可能です。
また、ダイヤルアップ接続の場合には、自動接続／切断が行われます。</td></tr>
<tr><td>IPアドレス</td><td colspan="2">固定アドレス／ダイナミックアドレスのいずれも設定可能です。</td></tr>
<tr><td>同時接続数</td><td colspan="2">IPマスカレード（エクステンションNAT）機能によって253セッションの同時接続が可能です。</td></tr>
<tr><td>アクセスログ</td><td colspan="2">ダイヤルした情報は、アクセスログに保存されます。
ログファイルは、ステータス表示を参照して確認できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ステータス表示</td><td colspan="2">設定画面で現在のPPP接続の状態を表示することができます。
また、この画面を使用して以下の動作を行うことができます。</td></tr>
<tr><td>接続</td><td>プロバイダに接続します。</td></tr>
<tr><td>切断</td><td>接続状態からモデムを切断します。</td></tr>
<tr><td>アクセスログの消去</td><td>アクセスログファイルのデータを消去します。</td></tr>
<tr><td>ステータスの更新</td><td>Web設定画面の更新を行い、最新のステータスを表示します。</td></tr>
</table>

■ 補足資料

●システムログに保存される内容

タイプ	メッセージ
Scan Disk(e2fsk)	Scan Disk: OK
	Scan Disk: Found Error(xxxx)and correct it
	Scan Disk: Found Error(xxxx)、correct it、Please reboot system
	Scan Disk: Found Error(xxxx)、but can not correct it
	Scan Disk: Found unknown errors(xxxx)
Diagnostics	Printing: Fails to output data to /dev/lpt1
System/network/server	System: Boot
	System: Shutdown
	System: Cleat password and reset to default IP address
	System: Disk Full warning
	Network: Fails to get an IP address from DHCP server
	SMB::
	Apple Share] Read Apple Zone failure
Debug	Debug: Can not get data from Apple Share configuration file
Debug	Debug: Open AppleShare configration file error(STDERR)

●E-Mail 通知される内容

タイプ	メッセージ
System/network/server	System: Boot
	System: Shutdown
	System: Disk Full warning

PLANT コールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット **http://www.iodata.co.jp/support/**
「PLANT コールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mailをお送りください。

@nifty ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA) サポート会議室

■郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「ET-NAS20G」係宛

■電話

電話番号 金沢 **076-260-3644**
東京 **03-3254-1144**

受付時間 9:30～19:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX 番号 金沢 **076-260-3360**
東京 **03-3254-9055**

宛先 株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「ET-NAS20G」係 宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

ソフトウェアのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/　→「サポートライブラリ」
@nifty　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ（SIODATA）　ライブラリ 9（LIB 9）

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「ET-NAS20G」サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

●インターネットや@nifty によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
●このサービスへのご質問は、弊社 PLANT コールセンターやサービス窓口ではお受けできません。

保証について

■保証期間

保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

- 本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- 本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2丁目84番地　アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「ET-NAS20G」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口　**「ET-NAS20G」 サービス窓口**
電話番号　**本社　076-260-3663**
受付時間　**9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日（祝祭日を除く）**

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。